

ヲ養ヒ兼テ智徳ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ現時ノ國文ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ノ國文ニ及ホシ又實用簡易ナル文ヲ作ラシメ文法ノ大要、國文學史ノ一般ヲ授ケ又平易ナル漢文ヲ講讀セシメ且習字ヲ授クヘシ

第四條 外國語ハ普通ノ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ兼テ智識ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字ヨリ始メ簡易ナル文章ノ讀方、譯解、書取、作文ヲ授ケ進ミテハ普通ノ文章ニ及ホシ又文法ノ大要、會話及習字ヲ授クヘシ

第五條 歴史ハ歷史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷、邦國盛衰ノ由ル所ヲ明會セシメ特ニ我國ノ發達ヲ詳ニシ國體ノ特異ナル所以ヲ明ニスルヲ以テ要旨トス

歴史ハ日本歴史及外國歴史トシ日本歴史ニ於テハ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ重要ナル事蹟ヲ授ケ外國歴史ニ於テハ世界大勢ノ變遷ニ關スル事蹟ヲ主トシ著名ナル諸國ノ興亡、人文ノ發達及我國ノ文化ニ關係アル事蹟ノ大要ヲ知ラシムヘシ

第六條 地理ハ地球ノ形狀、運動並ニ地球表面及人類生活ノ狀態ヲ理會セシメ我國及諸外國ノ國勢ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ日本地理並ニ我國ト重要ノ關係アル諸外國ノ地理ノ大要ヲ知ラシメ又地文ノ一班ヲ授クヘシ

第七條 數學ハ數量ノ關係ヲ明ニシ計算ニ習熟セシメ兼テ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ算術、代數、幾何及三角法ヲ授クヘシ

第八條 博物ハ天然物ニ關スル智識ヲ與ヘ其ノ相互及人生ニ對スル關係ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

博物ハ重要ナル植物、動物、礦物ニ關スル一般ノ智識並ニ人體ノ構造、生理及衛生ノ大要ヲ授クヘシ

第九條 物理及化學ハ自然ノ現象ニ關スル智識ヲ與ヘ其ノ法則並ニ人生ニ對スル關係ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

物理及化學ハ重要ナル物理上及化學上ノ現象及定律、器械ノ構造及作用、元素及化合物ニ關スル知識ヲ授クヘシ

第十條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民ノ生活ニ必要ナル智識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ現行法規ノ大要及理財、財政ノ一班ヲ授クヘシ

第十一條 圖畫ハ物體ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ能ヲ得シメ意匠ヲ練リ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

圖畫ハ自在畫及用器畫トシ自在畫ニ於テハ寫生畫ヲ主トシ臨畫ヲ加ヘ授ケ又時々自己ノ考案ヲ以テ畫カシメ用器畫ニ於テ幾何畫ヲ授クヘシ

第十二條 唱歌ハ歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ兼テ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

唱歌ハ單音唱歌ヲ授ケ又便宜輪唱歌、複音唱歌ヲ授クヘシ

第十三條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ之ヲ強健ナラシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ精神ヲ快活剛毅ナラシメ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尚フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ普通體操及兵式體操トシ普通體操ニ於テハ矯正術、徒手體操、啞鈴體操、球竿體操及棍棒體操ヲ授ケ兵式體操ニ於テハ柔軟體操、器械體操、各個教練、小隊教練及中隊教練ヲ授クヘシ

第十四條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	年				
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	一	一	一	一	一
國語及漢文	七	七	七	六	六
外國語	六	六	七	七	七
歷史			三		
地理	三	三	三	三	三
數學	四	四	四	四	四
博物	二	二	二	二	二
物理及化學			第一學期 第二學期 第三學期	一 二 二	四
法制及經濟				第三學期	四
圖書	一	一	一	一	二
唱歌	一	一	一	一	一

體操	計
三	二八
三	二八
三	二九
三	三〇
三	三〇

法制及經濟又ハ唱歌ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ每週教授時數ハ便宜圖畫他ノ學科目ニ配當スヘシ
體操ハ前表ノ教授時數ヲ三時以內増加シテ之ヲ課スルコトヲ得

前項ノ外尙必要アル場合ニ於テハ前表ノ各學年每週教授時數ヲ二時以內増加スルコトヲ得

第十五條 補習科ノ學科目ハ第一條ノ學科目中ニ就キ之ヲ定ムヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ隨意科目トシテ實業ニ關スル學科目ヲ加フルコトヲ得

補習科ノ各學科目ハ隨意科目ト爲スコトヲ得

第二章 學年、教授日數及式日

第十六條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

學年ハ分テ三學期トシ第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日マテトシ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日マテトシ第三學期ハ翌年一月一日ヨリ三月三十一日マテトス

前二項ノ規定ハ補習科ニ關シテハ之ヲ適用セス

第十七條 教授日數ハ每學年二百日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第十八條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ事由アルトキハ地方長官ハ道廳府縣立以外ノ中學校ノ休業ヲ命スルコトヲ得

第四編 中學校及高等女學校

第四編 中學校及高等女學校

前二項ノ場合ニ於テハ事由ヲ具シ遲滯ナク文部大臣ニ届出ツヘシ
第十九條 紀元節、天皇節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編 制

第二十條 中學校ノ生徒數ハ四百人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ六百人マテ之ヲ増スコトヲ得
分校ノ生徒ハ三百人以下トス
補習科ノ生徒數ハ前學年ニ於テ當該學校ヲ卒業シタル者ノ數ヲ超ニルコトヲ得ス

前項ノ生徒數ハ第一項ノ生徒ニ算入セス
第二十一條 學級ハ同學年ノ生徒ヲ以テ之ヲ編制スヘシ
一學級ノ生徒數ハ五十人以下トス

第二學年以上ニ於ケル各學年ノ學級數ハ第一學年ノ學級數ニ超過スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情ニ依
リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

前項ノ場合ニ於テ分校ノ學級數ハ本校ノ學級數ニ算入ス
第二十二條 修身、唱歌及體操ハ學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第二十三條 分校ニハ第四學年以上ノ生徒ヲ置クコトヲ得ス
第二十四條 教員ノ數ハ五學級以下ノ學校ニ於テハ一學級毎ニ二人以上トシ五學級以上一學級ヲ加フル
毎ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ増スヘシ但シ一學級毎ニ一人ハ他ノ職ヲ兼テス又ハ他ノ職ヲ兼テ
サルコトヲ要ス

第四章 設 備

第二十五條 中學校又ハ其ノ分校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備ヘ又必要ノ場合ニハ寄宿舎ヲ

設クヘシ

第二十六條 校地、校舍及體操場ハ學校ノ規模ニ二適應スルヲ要ス

校地ハ道德上並ニ衛生上害ナキ所タルヘシ

校舍ハ教授上、管理上並ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナランコトヲ要ス

第二十七條 (削除)

第二十八條 (削除)

第二十九條 (削除)

第三十條 (削除)

第三十一條 (削除)

第三十二條 (削除)

第三十三條 校具ハ圖書、器械、器具、標本、模型及表簿等トス

第三十四條 中學校又ハ其ノ分校ニ於テ備フヘキ表簿ノ種類左ノ如シ

- 一 中學校ニ關係アル法令
- 二 學則、日課表、教科用圖書配當表及學校醫視察簿
- 三 職員ノ名簿、履歷書、出勤簿並ニ擔任學科目及時間表
- 四 生徒ノ學籍簿、出席簿、身體檢査ニ關スル表及徵兵猶豫ニ關スル書類
- 五 入學試驗及學年試驗ノ問題、答案及成績表
- 六 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書、器械、器具、標本、模型ノ目錄
- 七 生徒書類

第四編 中學校及高等女學校

第四編 中學校及高等女學校

三八〇

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、入學試驗ノ有無、轉學、退學ノ事由、徵兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

第一項ノ表簿中生徒學籍簿ハ十五箇年以上之ヲ保存シ其ノ他ノ表簿ハ五箇年以上之ヲ保存スヘシ

第三十五條 土地ノ狀況ニ依リ學校長、舍監及教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第三十六條 校舍、寄宿舎ノ建設又ハ變更ハ道廳府縣立中學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ他ノ中學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ地方長官ニ於テ認可ヲ爲シタルトキハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ届出ツヘシ

第三十七條 (削除)

第五章 設置及廢止

第三十八條 中學校又ハ其ノ分校ノ設置ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

一 名稱

二 生徒定員

三 開校年月

四 經費及維持ノ方法

前項ノ事項ノ外公立學校ニ就キテハ地方長官ニ於テ位置ノ認可ヲ申請シ私立學校ニ就キテハ設立者ニ於テ位置ヲ具シ申請スヘシ

第一項第一號乃至第三號及位置ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前二項ノ位置ニ關スル申請ニハ校地ノ面積、地質、屋外體操場ノ區域、面積並ニ附近ノ情況ヲ記載シ

タル圖面及飲用水ノ定性分析表ヲ添附スヘシ

第三十九條 中學校又ハ其ノ分校ノ廢止ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

中學校ヲ廢止シタルトキハ三十日以内ニ第三十四條第一項第四號ノ生徒學籍簿ヲ地方長官ニ提出スヘシ

地方長官ハ十五箇年以上之ヲ保存スヘシ監督官廳ノ命令ニ依リ中學校ヲ閉鎖シタルトキ亦同シ

第四十條 公立中學校ノ費用負擔者ヲ變更シ、私立中學校ヲ公立中學校ニ公立中學校ヲ私立中學校ニ變更シ、若ハ分校ヲ獨立ノ中學校ト爲サントスルトキハ第三十八條第一項ノ事項ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六章 入學、在學、退學及懲戒

第四十一條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス但シ缺員アルトキハ第二學期ノ始ヨリ十日以内ニ臨時入學セシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ補習科ノ生徒入學ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五學年ニハ轉學又ハ當該學年ニ於テ退學シタル者ノ再入學ヲ除クノ外新ニ生徒ノ入學ヲ許スコトヲ得

第四十二條 第一學年入學志願者中尋常小學校ヲ卒業セサルモノニツキテハ試驗ニ依リテ其ノ學力ヲ檢定スヘシ

第一學年入學志願者中尋常小學校ヲ卒業シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チテ入學ヲ許スコトヲ得

尋常小學校ヲ卒業シタル者ノ數入學ヲ許スヘキ人員ニ超過スルトキハ試驗ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ

第四十三條 前條第一項ノ試驗ハ國語、算術、日本歴史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依

第四編 中學校及高等女學校

三八一

リテ之ヲ行フヘシ

第四十四條 第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ相當年齡ニ達シ前各學年ノ課程ヲ卒リタル者ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試驗ニ依リテ檢定スヘシ

第四十五條 中學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタルトキヨリ一箇年以内ニ於テ中學校ニ入學ヲ志願シタルトキハ同一學年以下ノ學年ニ限り入學ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ退學シタル中學校ニ再入學ヲ志願シタル者ニ限り試驗ニ依ラサルコトヲ得

第四十六條 他ノ中學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認メタル場合ニ限り其ノ生徒ノ在學證明書及成績表ヲ移轉先學校ニ送附スヘシ

移轉先學校ニ於テハ缺員アル場合ニ限り前項生徒ノ轉學ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ轉學ヲ許可スル生徒ハ試驗ヲ行ハスシテ同一學年ニ編入スルコトヲ得

第四十七條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試驗ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ正當ノ事由アリテ試驗ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ學業ノ成績ノミヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得

試驗ハ分テ學期試驗及學年試驗トシ學期試驗ハ第一學期及第二學期內ニ於テ之ヲ行ヒ學年試驗ハ學年未ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ正當ノ事由アリテ試驗ニ缺席シタル者ノ爲特ニ追試驗ヲ行フコトヲ得

試驗ハ國語及漢文、外國語、數學、圖畫、唱歌、體操ニ就キテハ之ヲ行ハサルコトヲ得

第四十八條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第四十九條 學校長ハ中學校ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第五十條 補習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校ヲ卒業シタル者タルハ

補習科生徒ノ在學期間ハ二箇年ヲ越ユルコトヲ得ス

補習科ヲ修了シ又ハ退學シタル者補習科ニ再入學スルトキハ其ノ修了又ハ退學前ニ於ケル補習科在學ノ期間ハ中學校ヲ卒業シタル日ヨリ起算シ之レヲ前項ノ期間ニ算入セス

學校長ハ補習科ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書ヲ授與スルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引續キ一箇年以上缺席シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

五 出席常ナラサル者

第五十二條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十三條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第五十四條 中學校ノ學則ヲ定メタルトキハ遲滯ナク文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

一 休業日ニ關スル事項

二 學科課程、教授時數ニ關スル事項

第四編 中學校及高等女學校

第四編 中學校及高等女學校

- 三 課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項
- 四 生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項
- 五 授業料、入學料等ニ關スル事項
- 六 寄宿舎ニ關スル事項

第五十五條 道廳府縣立以外ノ中學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ
前項ノ文書中、學校ノ設置及廢止ニ關スル申請ニ就キテハ地方長官ハ其ノ意見ヲ具スヘシ

第五十六條 本令中、學校長トアルハ私立學校ニ在リテハ其ノ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ包含ス

第八章 附 則

第五十七條 本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第五十八條 本令施行ノ際現ニ中學校ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ其ノ生徒ノ卒業スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第五十九條 明治二十七年文部省令第七號及同第十三號ノ規定ニ依リ設ケタル中學校ノ實科ハ本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ノ卒業スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ル

第六十條 明治三十二年文部省令第三號第二十三條乃至第二十五條ノ規定ニ依リ中學校ノ編制及設備ニ關シ文部大臣ノ與ヘタル認リハ本令ノ規定ニ依リ其ノ効力ヲ失フコトナシ

第六十一條 明治十九年文部省令第十四號、明治二十七年文部省令第七號、同第十三號、明治三十二年文部省令第三號、同第四號、同第十四號、同第三十三號ハ之ヲ廢止ス

明治四十一年一月文部省令第二號附則
本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

修業年限四ヶ年尋常小學校ノ課程ヲ卒業シタル者ノ第一學年ノ入學ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

○中學校教授要目

(明治三十五年二月)
文部省訓令第三號

本要目實施上ノ注意

- 一 中學校ニ於ケル教授ハ常ニ訓育ト相待チテ高等普通教育ノ目的ヲ達センコトヲ期スヘシ
- 二 教授ハ各學科目固有ノ目的ヲ失ハサランコトニ留意シ相互ノ連絡ヲ保チテ全體ノ統一ヲ圖ルヘシ
- 三 教授ハ漫ニ繁多ノ事項ニ涉リ又ハ形式ニ流ル、コトナク生徒ヲシテ正確ニ理會シ應用自在ナラシメ
ンコトヲ期スヘシ
- 四 學科目ノ性質上止ムヲ得サルモノ、外ハ教科書ヲ用ヒテ之ヲ教授スヘシ
教科書ハ常ニ之ヲ活用センコトニ留意シ之カ爲ニ箝束セテレサランコトヲカムヘシ
教科書ハ其ノ選擇ヲ慎ミ濫ニ之ヲ變更スルコトアルヘカラス
- 五 教授ハ學年ノ始ニ精クシテ其ノ終ニ粗ナルカ如キ弊ニ陥ラサランコトヲ要ス
- 六 各學校ニ於ケル教授實施ノ日數ハ之ヲ一定シ難シト雖モ第一學期及第二學期ハ各凡七十五日、第三學期ハ凡五十五日ヲ下ラサランコトヲ要ス
- 七 教授用備品ハ教授上差支ナキ限必シモ正式精緻ノモノタルコトヲ要セス成ルヘク日用品ヲ利用シ又ハ教員自ラ製作シテ之ニ充テンコトヲカムヘシ
諸學科目ニ通スル備品ハ教授上差支ナキ限成ルヘク之ヲ兼用スヘシ必シモ各別ニ之ヲ備フルコトヲ要セス
- 八 學校所在地ニ圖書館、博物館、工場、試驗場等ノ設アルトキハ之ヲ利用スルコトヲ怠ルヘカラス

第四編 中學校及高等女學校

第四編 中學校及高等女學校

修身

第一學年第二學年

每週一時

三八六

道德ノ要領

嘉言善行等ニ徴シ生徒日常ノ行狀ニ因ミテ近易ノ事項ヲ授クヘシ其ノ目ハ概テ次ノ如シト雖モ必シモ之ニ拘ラス又整然秩序ヲ設クルコトヲ要セス生徒學力ノ進度ト時機トニ適應シ實踐ニ適切ナラシムヘシ

生徒心得

當該學校ノ規則、師長ニ對スル心得、生徒ノ本分等

衛生ニ關スル心得

運動ヲ勉ムヘキコト、飲食ヲ節制スヘキコト、身體衣類住居ヲ清潔ニスヘキコト等

修學ニ關スル心得

志操ヲ堅固ニスヘキコト、學業ニ精勵ナルヘキコト、困難ヲ忍ブヘキコト等

朋友ニ對スル心得

信ヲ重ンスヘキコト、愛情ヲ以テ交ハルヘキコト、互ニ助力スヘキコト等

起居動作ニ關スル心得

時ヲ貴フヘキコト、秩序ヲ整フヘキコト、體容ヲ重ンスヘキコト等

家庭ニ於ケル心得

父母ニ孝ナルヘキコト、兄弟ニ友ナルヘキコト等

國家ニ對スル心得

國體ヲ尊崇スヘキコト、國法ニ遵フヘキコト、義勇公ニ奉スヘキコト等

社會ニ對スル心得

長者ヲ尊フヘキコト、公德ヲ尙フヘキコト、自己ノ地位職業ニ對スル責任ヲ重ンスヘキコト等

修徳ニ關スル心得

主要ナル諸徳ノ説明及其ノ實踐ノ方法、誘惑ノ危險ナルコト、操持ヲ完クスヘキコト等

第三學年及第四學年

每週一時

道德ノ要領

自己ニ對スル責務

身體

健康

生命

精神

知 情

意

自立

職業

財產

人格

家族ニ對スル責務

父母

兄弟、姉妹

子女

夫婦

親族

祖先、家門

婢僕

社會ニ對スル責務

個人

第四編 中學校及高等女學校

三八七

第四編 中學校及高等女學校

三八八

他人ノ人格 他人ノ身體、財產、名譽 秘密、約束等 恩誼 朋友 長幼、貴賤、主從

等 女性

公衆 協同 社會ノ秩序 社會ノ進步

所屬團體

國家ニ對スル義務

國體

皇室

忠君 皇祖、皇宗 皇運

國家

國憲、國法 愛國 兵役 租稅 教育 公務 公權 國際

人類ニ對スル義務

萬有ニ對スル義務

動物 天然物 眞、善、美

前記ノ目ハ主トシテ義務ノ對象タルヘキモノナレハ之ニ就キテ主要ナル義務ヲ授クヘシ例ヘハ自己ノ精神ノ目ニ於テハ智能ヲ練磨シ情慾ヲ制シ情操ヲ養ヒ意志ヲ鍛鍊シ常識ヲ養フヘキコト等又他人ノ人格ノ目ニ於テハ其ノ權利、思想、信仰、感情、希望等ヲ推重スヘキコト等成ルヘク遺漏ナク奉ケンコトヲ要ス

義務ト關係シテ德ヲ説明シ諸義務及諸德相互ノ關係ヲ知ラシメ且嘉言善行等ヲ引用シテ之ヲ心裏ニ

浸潤セシムヘシ

第五學年

每週一時

倫理學ノ一班

行爲ノ要素、良心、理想、義務、德、修徳ノ工夫、倫理法ト自然法トノ關係等ノ簡單ナル解説 道德ノ要領

前各學年中授ケタル事項ノ總攬

教授上ノ注意

- 一 格言例話ヲ引用スルニハ必シモ其ノ多キヲ求メス務メテ現代ノ時勢ト生徒ノ境遇トニ適切ナルモノヲ選フヘシ詭激ナル例話ハ成ルヘク之ヲ避クヘシ若シ偶々之ニ及フコトアルトキハ其ノ應用ヲ誤ラシメサランコトニ留意スヘシ
- 二 義務ヲ授クルニハ生徒將來ノ地位職業等ノ差別アルコトニ注意シ其ノ各方面ニ互リテ之ヲ應用ヲ知ラシムヘシ
- 三 第二學年又ハ第三學年ニ於テハ生徒ノ身體及精神漸ク變動ヲ起シ内外ノ誘惑ニ陥リ易キヲ例トスルヲ以テ特ニ此時期ニ注意シ堅固ノ志操ヲ養ヒ良習慣ヲ作ラシメンコトヲ力ムヘシ
- 四 倫理學ノ一班ハ徒ニ高尚ニ馳セ又ハ諸學派ノ異說ニ涉ルコトナク普通ノ概念ノ解説ニ止メ生徒ヲシテ其ノ思想ヲ確實ナラシメンコトヲ要ス
- 五 教訓ニ資スヘキ事件ノ偶發シタルトキ又ハ式日、紀念日等ニ際シテハ全校又ハ一部ノ生徒ヲ集メ臨時教訓スルヲ可トス

國語及漢文

第四編 中學校及高等女學校

三八九

第四編 中學校及高等女學校

三九〇

第一學年

講讀

每週七時
每週五時

讀方 國語ハ發音ニ注意シ特ニ方言的發音ヲ矯正センコトヲ力ムヘシ漢文ハ成ルヘク國語ノ法則ニ從ヒ特ニ文字ノ用法顛倒等ニ注意セシムヘシ

解釋 成ルヘク口語ト密接シテ語義、文義ヲ正確ニ解釋セシムヘシ

暗誦 讀本中ノ佳句、格言、諷誦スヘキ詩歌等ヲ暗誦セシムヘシ

講讀ノ材料

國語ハ小學校ニ於ケル國語トノ連絡ヲ圖リ今文ヲ用ヒテ修身、歷史、地理、理科、實業等ニ關スル事項ヲ記シタル現代作家ノ平正ナル記事文、敘事文等ヲ採ルヘシ又普通今文ノ外正確ナル口語ノ標準ヲ示スヘキ演說、談話ノ筆記並ニ現代名家ノ書翰文及新體詩ヲモ含マシメテ可ナリ其ノ程度ハ文部省編纂高等小學讀本ノ第六卷及第七卷ニ準スヘシ

漢文ハ初ヨリ文意完結セル全篇ヲ採ルコトヲ要セス第一學期ニ於テハ單語單句ヲ尋ケテ其ノ組織ト國語ノ組織トノ異同ヲ示シ第二學期以後ニ於テハ我國近世作家ノ用語平易ニ構造簡易ナル短章ニ句讀、返リ點送り假名ヲ施シタルモノヲ授ケ時々既ニ課シ了リタル國語ノ一二節ヲ漢譯シタルモノヲモ交ヘテ之ヲ對照セシムヘシ

國語漢文ヲ課スル比ハ國語八、漢文ニタルヘシ

文法及作文

每週一時

文法

假名遣附字音假名遣大要

國語品詞ノ分別

漢文品詞ノ分別ノ大要

國語文法ハ言文ノ對照ヲ主トシ常ニ口語ト今文トノ關係セシメテ今文ニ必須ナル法則ヲ示スヘシ漢文ノ語法ハ漢文ヲ理解シ易カラシムル程度ニ止ムヘシ

作文

書取 假名遣ヲ正シ漢字ノ字畫ヲ正確ナラシメ且速記ノ慣習ヲ養フヘシ

復文 口語ヲ今文ニ、若ハ今文ヲ口語ニ譯セシムヘシ

作文 書翰文、今文體ノ記事文、但記事文ハ豫メ其ノ構造ヲ示スヘシ

作文ノ即題ハ凡隔週一回、宿題ハ凡毎月一回之ヲ課スヘシ

習字

每週一時

楷書 行書

清書ハ凡隔週一回之ヲ課スヘシ

第二學年

講讀

每週七時
每週五時

讀方 前學年ニ同シ

解釋 前學年ニ同シ

暗誦 前學年ニ同シ

講讀ノ材料

國語

今文 前學年ニ準シ又現代作家ノ論說文ヲ加フ

近世文 今文ニ最モ近キモノ、例ヘハ楠南谿ノ東西遊記、伴高溪ノ近世畸人傳、貝原益軒ノ訓誡

第四編 中學校及高等女學校

三九一

第四編 中學校及高等女學校

三九二

書類、成嶋司直ノ徳川實記附録ノ類

漢文

前學年ニ準シ又我國近世作家ノ簡易ナル敘事文或ハ傳記、紀行等ノ文意完結セル短篇ヲ加フ、例ハ
八頼山陽ノ日本外史、大槻磐溪ノ近古史談、鹽谷宕陰ノ存稿、安井息軒ノ讀書餘適ノ類
國語漢文ヲ課スル比ハ國語七、漢文三ニシテ國語ハ今文二、近世文一ノ比ヲ以テ之ヲ課スヘシ
文法及作文
每週一時

文法

品詞各論

作文

書取 前學年ニ同シ

復文 前學年同シ

作文 書翰文、記事文、敘事文、但敘事文ハ段メ其ノ構造ヲ示スヘシ
作文ノ卽題ハ凡隔週一回、宿題ハ凡毎月一回之ヲ課スヘシ

習字

前學年ニ同シ

每週一時

講讀

第三學年

每週七時

讀方 發音ノ外抑揚緩急ニ注意スヘシ

每週五時

解釋 語義、文義ノ外文法上ノ句法ニ注意スヘシ
暗誦 前學年ニ同シ

講讀ノ材料

國語

今文 現代ノ思想及事實ヲ叙述論議スル今文

近世文 室鳩巢ノ駿臺雜誌、安藤年山ノ年山紀聞、新井白石ノ讀史餘論、本居宣長ノ玉勝間ノ類

近古文 鎌倉室町時代ノ文、例ハ保元平治物語、神皇正統記、十訓抄、樵談治要ノ類

韻文 主トシテ今樣歌

漢文

前學年ニ準シ又我國作家ノ論說文ヲ加フ、例ハ八頼山陽ノ日本外史ノ敘論ノ類

國語漢文ヲ課スル比ハ國語七、漢文三ニシテ國語ハ今文三、近世文二、近古文一ノ比、漢文ハ記事文
敘事文一、論說文一ノ比ヲ以テ之ヲ課スヘシ

每週一時

文法

文章論ノ大要 係結ノ法則 文章ノ解剖

作文

書取 文章ヲ朗讀シテ其ノ大意ヲ記述セシムヘシ

譯文 漢文ヲ譯セシメ又時トシテ外國文ヲ譯セシムヘシ且簡單ナル國文ヲ漢文ニ譯セシメテ用字ノ
法ヲ知ラシムルモ可ナリ

第四編 中學校及高等女學校

三九三

第四編 中學校及高等女學校

三九四

作文 記事文、敘事文、傳記文、但傳記文ハ豫メ其ノ構造ヲ示スヘシ
作文ノ即題ハ凡隔週一回、宿題ハ凡毎月一回之ヲ課スヘシ

文法及作文ヲ授クル際便宜辭典、字書ニ就キ假名引、番引、偏傍冠等ノ名稱ヲ授ケテ國語又ハ漢字ノ
檢索方ヲ知ラシムルヘシ

習字

每週一時

行書 草書

第四學年

每週六時

講讀

每週五時

讀方 前學年ニ同シ

解釋

國語ノ古文ハ口語ヲ以テ之ヲ解釋スルノミナラス又之ヲ今文ニ對照シ漢文ハ之ヲ國文ニ對照シ
テ意味セシメ修辭上ノ注意ヲ加フヘシ

暗誦 前學年ニ同シ又時トシテ名家ノ文章ヲ暗誦セシムヘシ

講讀ノ材料

國語

今文 前學年ニ準シ又詔勅、上書等ヲ加フ

近世文 新井白石ノ折焚柴の記、太宰春臺ノ經濟錄ノ類、但釋史ノ類ト雖モ教育上ノ目的ニ戻ラサ
ル限ハ之ヲ採ルヲ可トス

近古文 源平盛衰記、太平記ノ類

歌 古今和歌集ノ類

漢文

句讀及返リ點ヲ施シ送り假名ヲ省キタルモノ

散文 前學年ニ準シ又支那作家ノ簡易ナル傳記、紀行等ノ文ヲ加フ例ハ清初作家、唐宋八家ノ文
佐藤一齋、松崎慊堂ノ文ノ類

詩 唐詩選ノ類

國語漢文ヲ課スル比ハ國語六、漢文四ニシテ國語ハ今文ニ、近世文一、近古文一ノ比、漢文ハ我國作
家ノ文一、支那作家ノ文一ノ比ヲ以テ之ヲ課シ詩歌ハ適宜之ヲ加ヘ授クヘシ

文法及作文

每週一時

文法

前各學年中授ケタル事項ノ復習 近古以上ノ文ニ特有ナル法則

作文

書取 前學年ニ同シ

譯文 前學年ニ同シ

作文 記事文、敘事文、傳記文、論說文、但論說文ハ豫メ其ノ構造ヲ示スヘシ

作文ハ即題宿題トモ各凡毎月一回之ヲ課スヘシ

第五學年

講讀 第一學期及第二學期

每週六時

讀方 前學年ニ同シ

每週五時

解釋 前學年ニ同シ

每週二時

第四編 中學校及高等女學校

三九五

暗誦 前學年ニ同シ
講讀ノ材料

國語

今文 前學年ニ準ス

近世文 前學年ニ準ス

近古文 前學年ニ準ス

歌 前學年ニ準ス

漢文

散文 前學年ニ準シ又史記、蒙求、論語ノ類ヲ加フ

詩 前學年ニ準ス

國語漢文ヲ課スル比ハ國語六、漢文四ニシテ國語ハ今文一、近世文一、近古文一ノ比、漢文ハ我國作家ノ文一、支那作家ノ文三ノ比ヲ以テ之ヲ課シ詩歌ハ適宜之ヲ加ヘ授クヘシ

國文學史 第三學期

每週三時

主要ナル文學時代 顯著ナル文學者 顯著ナル著作物 各種ノ文體、歌體

國文學史ヲ授クルニハ我國ノ漢學ヲモ度外ニ置クヘカラス又上古文學ノ一班ヲモ窺ハシムヘシ

文法及作文

每週一時

前各學年中授ケタル事項ノ復習

單語ノ構造 國語沿革ノ大要

作文

書取 前學年ニ同シ

譯文 前學年ニ同シ

作文 前學年ニ同シ

各學年ニ於ケル講讀ノ教授ハ國語、漢文ノ時間ヲ分タス之ニ用フル讀本ハ成ルヘク國語ト漢文トヲ適當ニ交ヘテ組織シタルモノヲ採ルヘシ

讀本ニ於ケル今文ノ材料ハ創作ノ必要少カラス又漢文、外國語ヲ今文ニ翻譯シタルモノニシテ其ノ模範トナスヘキモノハ之ヲ採ルヘシ

口演ハ別ニ之ヲ舉ケスト雖モ常ニ生徒ヲシテ言語態度ニ留意セシメ又時々生徒ノ學習或ハ經驗セル事項ニ就キテ談話解説等ヲナサシメ正シキ國語ノ使用ニ慣レシムヘシ

教授上ノ注意

- 一 讀本中ノ事項ハ單ニ其ノ意義ヲ解釋スルニ止メス之ニ關スル説明ヲ加ヘ成ルヘク地圖、繪畫、標本等ニ依リ生徒ノ理會ヲ明確ナラシムヘシ
- 二 故事古語等ハ之カ解釋出處ニ關シテ徒ニ生徒ヲ苦マシムルコトナク初ヨリ其ノ説明ヲ與フヘシ
- 三 國語ノ文法ニ於テ最モ誤リ易キハ活用語ノ用法ナルヲ以テ教授ノ際特ニ之ニ法意ヲ常ニ其ノ練習ヲ怠ラサルヘシ
- 四 作文ハ其ノ文體、教授法等ニ關シテ一定ノ標準ヲ定メ難ト雖モ迂遠ニ流レス難澁ニ失セス簡易ニシテ實用ニ適切ナランコトヲ期スヘシ
- 五 漢字ノ字畫ノ似タル瓜、瓜、傳、傳ノ類ハ誤リ易キモノナレハ書取、作文ヲ授クル際特ニ之ニ注意セシムヘシ

第四編 中學校及高等女學校

外國語

此要目ハ英語ニ就キテ之ヲ定ム獨語、佛語ニ就キテハ之ニ準スヘシ

各學年ノ教授事項ハ之ヲ分割スルコトナシ同一教授時間ニ於テ相關聯シテ之ヲ授クヘシ但特ニ示セタル
場合ニ於テハ教授時間ヲ分ツコトヲ得ト雖モ尙其ノ相互ノ連絡ニ留意センコトヲ要ス

第一學年

每週六時

發音、綴字

初ハ發音ヲ正シ單語ニ就キテ綴字ヲ授ケ其ノ概要ニ通シタル後ハ讀方、會話ト附帶シテ之ヲ練習セシ
ムヘシ

讀方、譯解、會話、書取

平易ナル文章

正則文節省英語讀本なしよなる讀本、ろんぐまんす讀本、すらいんどん讀本等ノ第一卷又ハ第二卷
ノ初ノ程度ニ依ルヘシ

讀本ヲ授クル際隨時常用ノ名詞及代名詞ノ數、性及人稱、形容詞及副詞ノ比較、常用ノ動詞ノ直説
法變化、主要ナル不規則動詞、頭文字ノ用法等ヲ知ラシムヘシ

習字

本學年ニ於テハ專ラ習字ヲ授クル爲每週一時ヲ分ツコトヲ得

第二學年

每週六時

讀方、譯解、會話、作文、書取

平易ナル文章

前ニ學ケタル讀本ノ第二卷又ハ第三卷ノ初ノ程度ニ依ルヘシ又日常ノ應對ニ必要ナル用語ヲ授ケテ
其ノ應用ヲ練習セシムヘシ

讀本ヲ授クル際隨時文法ニ關シテ前學年ノ事項ノ外文章ノ構造、名詞及代名詞ノ格、句讀點ノ用法
等ヲ知ラシムヘシ

第三學年

每週七時

讀方、譯解、會話、作文、書取

平易ナル文章

前ニ學ケタル讀本ノ第三卷又ハ第四卷ノ初ノ程度ニ依ルヘシ

文法

名詞ノ變化 代名詞ノ種類及其ノ變化 動詞ノ種類及其ノ變化 形容詞及副詞ノ比較 冠詞
ノ種類 文章ノ解剖

本學年ニ於テハ專ラ文法ヲ授クル爲每週一時ヲ分ツコトヲ得

第四學年

每週七時

讀方、譯解、書取

普通ノ文章

前ニ學ケタル讀本ノ第四卷ノ程度ニ依ルヘシ

會話、作文

平易ナル對話 平易ナル翻譯 簡單ナル記事文、書翰

第四編 中學校及高等女學校

文法

代名詞ノ用法 時及法ニ關スル動詞ノ用法 前置詞ノ用法 冠詞ノ用法 文章論
本學年ニ於テハ專ラ文法ヲ授クル爲毎週一時ヲ、專ラ會話、作文ヲ授クル爲毎週二時以內ヲ分ツコトヲ得

第五學年

每週七時

讀方、譯解、書取

普通ノ文章

前ニ擧ケタル讀本ノ第五卷又ハろんぐまんす讀本ノ第六卷ノ程度ニ依ルヘシ
會話、作文

前學年ニ準シテ稍々其ノ程度ヲ進ムヘシ

前記ノ事項ノ教授ニ附帶シテ文法ヲ復習シ又接頭語、接尾語、同意語等ノ説明ヲ與フヘシ
本學年ニ於テハ專ラ會話、作文ヲ授クル爲毎週二時以內ヲ分ツコトヲ得

教授上ノ注意

- 一 英語ヲ授クルニハ習熟ヲ主トスヘシ生徒ノ學力ヲ顧ミスシテ徒ニ課程ヲ進ムルコトアルヘカラス
- 二 第二年以後ニ於テハ發音、綴字、習字ノ目ヲ擧ケスト雖モ讀方、會話、作文及書取ニ附帶シテ便宜之ヲ練習セシムヘシ
- 三 發音ハ特ニ英語教授ノ初期ニ於テ嚴ニ之ヲ正シ又國語ニ存セサル發音ニ留意シテ之ニ習熟セシムヘシ
- 四 英語ノ意義ヲ了解セシムルニハ之ヲ譯解シ又ハ實物、繪畫等ニ依リ之ヲ直指スヘシ稍々進ミタル生徒ニ對シテハ英語ヲ用ヒテ説明スルコトアルヘシ

徒ニ對シテハ英語ヲ用ヒテ説明スルコトアルヘシ

五 譯解ハ正シキ國語ヲ以テシ成ルヘク精密ニ原文ノ意義ニ適應セシムヘシ

譯解ヲ授クル際東西ノ人情、風俗、制度等ノ異同ヲ知ラシムヘシ

六 讀方ハ既ニ意義ヲ了解セル文章ニ就キテ反復練習セシメ又時々暗誦ヲ課シ發音、抑揚、緩急及止聲ニ留意シ生徒ヲシテ誦讀ニ依リテ文章ノ真意ヲ見ハル、樣之ニ習熟セシムヘシ

七 書取ハ讀本中ノ文章又ハ生徒ノ容易ニ了解シ得ヘキ文章ニ就キテ之ヲ授ケ生徒ノ耳ヲ慣ラシム且綴字、運筆ニ習熟セシムヘシ

八 會話ハ讀本中ノ文章又ハ事項ニ因ミテ之ヲ授ケ進ミテハ日常ノ事項ニ就キテ對話ヲナサシメ生徒ヲシテ文字ヲ離レテ英語ヲ了解シ又自己ノ思想ヲ表ハスコトヲ習ハシムヘシ

九 文法ヲ授クルニハ生徒ヲシテ煩雜ナル規則ノ記憶ニ陷ラシムルコトナク應用自在ナラシメンコトヲ期スヘシ

十 適當ノ機會ニ於テ辭書ノ用法ヲ授ケ漸次對譯ニアラサル辭書ノ使用ニ慣レシムヘシ

歴史

第一 日本歴史

每週一時

第一學年

太古

神代、皇基ノ遠達

上古

神武天皇、崇神天皇、景行天皇、日本武尊、熊襲及蝦夷、成務天皇、神功皇后、韓土内附、仁徳

第四編 中學校及高等女學校

第四編 中學校及高等女學校

四〇二

天皇、雄略天皇 韓土ノ變遷、歸化人及其ノ子孫、韓土傳來ノ工藝文物 佛教ノ傳來、蘇我物部兩氏ノ爭亂 聖德太子、佛教ノ興隆、文物制度、遣唐使 蘇我氏ノ專橫及滅亡

中古

大化ノ新政 越蝦夷征伐、隼人及西南諸嶋、百濟高麗ノ滅亡 天智天皇、藤原鎌足 壬申ノ亂 律令ノ撰定 奈良興都、國史ノ撰修 聖武天皇、寺院ノ造營、美術、工藝、風俗、和氣清麿 平安寬都、蝦夷ノ鎮定、渤海ノ入貢 嵯峨天皇、入唐ノ高僧及新宗派、漢文學及學校ノ設立 藤原氏及他氏ノ盛衰、皇族賜姓、攝政關白 菅原道真、延喜時代、地方ノ狀況 承平天慶ノ亂藤原氏家門ノ爭、藤原道長 國文ノ隆盛、工藝、風俗 刀伊ノ亂、地方ノ亂、前九年ノ役

第二學年

每週二時

中古ノ續

後三條天皇 院政、武人ノ登用、僧徒ノ跋扈 後三年ノ役、源氏 保元ノ亂、平治ノ亂 平清盛、平氏ノ繁榮 諸源ノ舉兵、平氏ノ滅亡

近古

鎌倉幕府、守護地頭 鎌倉三代 承久ノ亂 北條氏ノ執權、貞永式目 鎌倉武士、京都公卿、風俗、文學、新宗派 元寇 兩皇統ノ交立、五攝家 元弘ノ亂、勤王諸將、北條氏ノ滅亡 建武中興 足利尊氏ノ反 南北朝 室町幕府、鎌倉管領 足利義滿ノ驕奢、應永ノ亂 永享嘉吉ノ亂 應仁ノ亂 關東ノ分裂、北條早雲 東山時代、文學、美術、工藝、風俗 足利季世京都ノ衰替 群雄割據 皇室、織田信長 豐臣秀吉 朝鮮征伐

近世

德川家康、關原ノ役 江戸幕府、諸侯 天主教、福原ノ亂、通商貿易 後水尾天皇 文學ノ復興、德川光圀、著名ナル學者 元祿時代、奢侈、風俗 新井君美 德川吉宗、治、實學及殖産ノ獎勵 田沼意次ノ執柄 松平定信、諸藩ノ治附著名ノ藩侯 國學、尊王論、蘭學、海防策 露人ノ寇、英船其ノ他ノ來寇 米國使節ノ來朝、開港攘夷ノ論 安政ノ大獄、井伊直弼ノ武斷、幕府ノ衰頹 討幕論、元治ノ變、長州征伐 大政奉還、伏見ノ戰 戊辰ノ役

現代

明治新政、五條ノ誓文、開港、奠都

第五學年

每週一時

建國ノ體制

大化以前ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、支那及韓土トノ關係 氏族部民ノ制、祭祀教法

大化以後延曆以前ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、支那及韓土トノ關係 制度ノ概畧(官制、田租賦役、兵制、刑制等)、文化

平安時代ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、文物制度ノ變遷 院政及平氏時代ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、莊園ノ起源、寺院ノ勢力、武門ノ興起 鎌倉時代ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、幕府ノ制度、朝廷ト幕府トノ關係

南北朝及足利時代ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、室町幕府ノ制度 明トノ交通、「倭寇」

歐洲人ノ來航、通商貿易、天主教ノ傳播、外征及冒險ノ氣象

第四編 中學校及高等女學校

四〇三

第四編 中學校及高等女學校

四〇四

天文慶長年間ニ於ケル國內變動ノ概要
江戸時代ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括
江戸幕府ノ諸制度
邊境ノ事情、洋學

維新ノ原因及其ノ事蹟ノ概括

明治新政、新設官制、版籍奉還、廢藩置縣

外交、大使派遣、歐米文物制度ノ採用

朝鮮下ノ關係、征韓論、佐賀ノ亂

臺灣征討、北海道、樺太及千島

熊本及蕨ノ暴動、鹿兒嶋ノ亂

琉球ノ處分、朝鮮ノ修好及事變、天津條約

民選議院論、元老院、地方官會議、府縣會、國會開設ノ請願、政黨、新聞紙、國會開設ノ準備

憲法、皇室典範、帝國議會

諸制度ノ發達、學術ノ進歩、交通機關ノ擴張、殖産工業貿易ノ振興、條約改正

明治二十七八年ノ戰役

世界ニ於ケル日本ノ地位

第二 東洋歴史

第三學年

上古

每週二時

上代ノ支那 唐虞三代 春秋ノ世 周ノ制度文物 孔子 戰國 周末ノ學術 上代ノ印度、佛教ノ興起

中古

秦ノ一統、漢楚ノ爭 漢高祖、文帝景帝ノ治 武帝ノ業、四夷ノ服屬、王氏ノ篡立 後漢ノ政、匈奴、西域ノ叛服 三國 晉、五胡、十六國 南北朝 隋 唐太宗、武韋ノ禍 開元ノ治安史ノ亂 藩鎮宦官ノ禍、唐末ノ大亂 朝鮮半嶋ニ於ケル諸國ノ盛衰、渤海 漢唐ノ儒學文藝 佛教道教及其ノ他ノ宗教、南海ノ貿易 五代 宋太祖、仁宗ノ治 王安石ノ新法 遼金ノ廢興、高麗ノ盛衰宋金ノ交涉 宋代ノ儒學文藝及宗教

近古

蒙古ノ勃興、元太祖ノ西征 太宗憲宗ノ南征 附拔都及旭烈兀ノ西征 世祖ノ一統及東侵 元代ノ治亂 附諸汗國ノ盛衰 明太祖、靖難ノ役、成祖ノ遠略 帖木兒 明ノ中世(邊境ノ寧、大禮ノ議) 交趾ノ叛服、沿海ノ寇盜 明ノ末世(萬曆朝鮮ノ役、東林ノ獄、流賊) 元明ノ儒學文藝 莫臥兒帝國ノ興亡 ぼるとがる、いすばにあノ東畧、天主教ノ東流

近世

清ノ開國、世祖ノ一統 清聖祖高宗ノ業 清ノ學術 東洋ニ於ケル蘭英諸國ノ競爭 英領印度 清英ノ交渉 長髮賊ノ亂、英佛ノ北清侵伐 露ノ東畧、清露ノ關係 安南暹羅、清佛ノ交渉 日清韓ノ關係、日清ノ戰役 東洋ニ於ケル英露及佛獨米 世界ニ於ケル東亞諸國ノ現勢

第四學年

每週二時

第四編 中學校及高等女學校

四〇五

上古

にじふと、へふらい、ふふにきあ ばびるにあ、あつしりあ べるしあ、だりうす、くせるく
せすノ業 ぎりしあ、ぎりしあノ文物 あてん、すばるた、てーべ、べるしあノ交渉 黒海沿
岸の地方、まげせにあ、あれくさんぞるノ業 ふふにきあ殖民地、いたりあ統一ニ至ルノ
ははに戦役 あれくさんぞる後ノ東方諸國(ぎりしあ、まげせにあ、にじふと、まりあ、ばるちあ、
いくぞりあ) ろーま共和制ノ末路 ろーまノ東征、かひざるノ業 ろーま帝政ノ初 ろー
まトばるちあ、べるしあ ろーまノ制度及國情、基督教

中古

げるまにノ遷徙 東ろーまトべるしあ、すらぶ諸部落 さらせん 中古ニ於ケル東ト西歐、か
るる大帝ノ業 のるまん 神聖ろーま帝國、法皇ノ權威 西歐ノ制度及國情 十字軍ト東方
諸國 いぎりすトふらんす 東歐ノ國情、蒙古ノ侵入 古學復興、活版ノ發明、兵制ノ變遷、
地理上ノ發見附まるこぼろノ日本 西歐諸國ノ中央集權、議會ノ起、地方ノ連合 宗教ノ顯慶
及救済ノ企圖 ふつとまんぞるこノ侵入 宗教改革、いすばにあふらんす しゆまるかるでん
同盟

近古

ほるあがる、いぎりすににあ、三百年前
はるあがる、いぎりすににあ、三百年前
いぎりすノ革命 南洋及東洋ニ於ケルほるとがる、いすばにあ、ふらんた、いぎりす 近古
ニ於ケル北歐及東歐諸國ノ盛衰 北歐ノ戰役 ばいらんとト近鄰諸國、ふるしあノ勃興
ろしあノ外交及拓殖 北米合

すとりあ繼承ノ役 七年戰役 いぎりす、ふらんすノ殖民策 ろしあノ外交及拓殖 北米合
衆國ノ獨立 十八世紀ニ於ケル歐洲列國ノ情勢及文物

第五學年

毎週一時

近世

ふらんす革命 ばいらんとノ滅亡 列國局面ノ變化 なはれか一ノ業 いぎりす殖民地
ノ擴張 上ろつば獨立ノ戰役 さいん列國會議 歐洲亂後ノ國情 あめりか諸國及ぎり
しあノ獨立 七月革命及其ノ影響 いぎりすノ政黨政治 東方問題 二月革命及其ノ影響
西歐ト東歐(なはれか三世、くりひ戦争) あじあニ於ケルろしあ、いぎりす、ふらんす いた
りあ統一、さいつ統一ノ企圖 北米合衆國ノ經濟ト南北戦争 めきしこ、ふらんすノ交渉 し
ゆすれういこほるとさいん問題、ふるすあ、ふらんすとりあノ戰役 さいつ、ふらんすノ確執、さいつ
統一ろしあトばるかん半島、埃及問題 英、西、蘭、佛、荷、米ト太平洋洲、北米合衆國是ノ變遷ト太平
洋、あふりか、南部ノ拓殖ばんすらういせい 十九世紀ノ文明及思潮(政治上、宗教上、社會上、經濟
上ノ進歩) 世界ニ於ケル日本ノ地位及日本ト諸外國トノ關係
前記各學年ノ事項ハ便宜分合シテ之ヲ授クルコトナ得

教授上ノ注意

- 一 歴史ヲ授クルニハ社會ノ變遷、邦國ノ盛衰ニ關スル明晰ナル概念ヲ得シムルコトナ主トシ正確ナ期
スル爲徒ニ細密ナル事實ノ穿鑿ニ流レサランコトヲ要ス
- 二 偉人ノ事蹟ヲ授クルニ當リテハ其ノ性行、事業及當時ノ事情ヲ詳ニシ生徒徳性ノ涵養ニ資センコト
ヲ力ムヘシ

- 三 有名ナル詩歌、文章、傳記等ニシテ歷史上ノ事蹟ノ説明ニ資スヘキモノハ便宜之ヲ引用シテ興味ヲ助クヘシ
- 四 特ニ學校所在地方ニ關係多キ事蹟ハ稍々詳ニ之ヲ授クルヲ可トス
- 五 外國歷史ハ特ニ我國ト關係アル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ
- 六 對照年表ヲ用ヒテ紀年ノ連絡ヲ知ラシメ又常ニ地圖、實物、圖書、標本等ヲ示シテ生徒ノ知識ヲ確實ナラシムヘシ
- 七 地名人名等ノ稱呼ハ必シモ此要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス
- 八 教授用物品ハ次ノ例ニ依ルヘシ
 - 御歴代表、對照年表、各國帝王及諸家ノ系統表等ノ掛圖
 - 日本沿革及現代地圖
 - 東洋諸國沿革及現代地圖
 - 西洋諸國沿革及現代地圖
 - 著名ナル城邑、戰場、其ノ他古蹟ノ寫真又ハ圖書
 - 著名ナル人物ノ肖像
 - 古人ノ筆蹟、古文書等ノ實物又ハ模寫
 - 風俗工藝ノ變遷、文化ノ程度等ヲ示ス實物、模型又ハ圖書

地理

第一學年

每週二時

緒論

大洋大洲、嶋嶼 南極、赤道 三帶 經緯度 地圖ノ描キ方及滲ミ方ニ關スル簡單ナル解説

日本地理

總論

位置	境域	廣袤
位置	地形	水系
地勢	海岸	山系
海岸	氣候	水系
氣候	溫度	雨量
溫度	天產物	風
天產物	住民	
住民	種族	人口
種族	政治	教育
政治	國體	宗教
國體	國體	區畫
區畫	兵備	
兵備	生業	
生業	農業	林業
農業	礦業	水產業
礦業	工業	商業
工業	商業	
商業	交通	
交通	道路	鐵路
道路	鐵路	航路
鐵路	航路	郵便
航路	郵便	電信
郵便	電信	電話
電信	電話	
電話	地方誌	
地方誌		

地方誌ニ於テハ北海道、臺灣及府縣ノ區分ニ依リ地方ノ天然上及人事上國民ノ生活ニ關スル事項ヲ授クヘシ

外國地理

第四編 中學校及高等女學校

第四編 中學校及高等女學校

あじあ

總論

位置

地勢

氣候

天産物

住民

交通

朝鮮

第二學年

毎週一時

外國地理ノ續キ

あじあノ續キ

支那

あじあろしあ

あじあをるこ附あらびあ

いらん地方

いんご

いんご支那半島

まらい群嶋

大洋洲

總論

前二準ス

あーすとらりあ

めらねじあ

みくろねじあ

ぼりねじあ

第三學年

毎週一時

外國地理ノ續キ

よーろつば

總論

前二準ス

スしあ

すうねでん、のるうわい

でんまるく

どいつ

あーすとらりあ、ほんがりあ

すいす

ふらんす

おらんた

べるぎい

いざりす

いすばにあ

ほるとがる

第四編 中學校及高等女學校

第四編 中學校及高等女學校

いたりあ
ばるかん半嶋

第四學年

每週一時

外國地理ノ續キ

あふりか

總論

前ニ準ス

北部あふりか

中部あふりか

南部あふりか

あめりか

總論

前ニ準ス

かなだ

北米合衆國

めきしこ附中央あめりか、西いんと

南あめりか

西部 東部

結論

世界ニ於ケル貿易及交通 世界ニ於ケル人口、言語、宗教 日本ト外國トノ關係及其ノ富力、兵力、領土、殖民地ノ比較 世界ニ於ケル日本ノ地位

第五學年

每週一時

地文

總論

太陽系 地球ノ形、大サ

地球ノ密度

地熱

地球ノ運動、晝夜、四季、日蝕及月蝕 經

緯度 標準時 地圖

陸

沿岸線

地勢及構造

山嶽、原野、谿谷等

泉、河、湖

岩石及造岩礦物

地層

岩脈

地殻内ノ產物即有用

ノ礦物及岩石

變動

火山

地震

大陸及山脈ノ生成

沿岩線ノ生成

大氣

水

生物

日本ノ土地發育

本氣

性質及作用

溫度

氣壓

風

濕氣

氣候及天氣

海

海水ノ組織、色、鹽分等

海底

海水ノ溫度

波、海流、潮汐

第四編 中學校及高等女學校

生物

分布 植物景

教授上ノ注意

- 一 地理ヲ授クルニハ生徒既知ノ事實ト關係ナル事實ニ及ホサンコトヲ旨トシ必シモ此要目ノ順序ニ依ルコトヲ要セス
- 二 地理ヲ授クルニハ成ルヘク事實ノ比較連合チカメ特ニ外國地理ヲ授クルニ當リテハ我國ノ狀勢ヲ以テ比較ノ基礎トナスヘシ
- 三 日本地理外及國地理ヲ授クルニハ常ニ地文ニ關スル事項及實業ニ關スル事項ニ留意シ濫ニ細密繁多ナル事實數量ヲ記憶セシムルコトハ之ヲ避クヘシ
- 四 外國地理ヲ授クルニハ我國ト關係多キ地方ニ留意シ此要目ノ中特ニ重要ナル部分ハ更ニ之ヲ細分シテ授クルコトヲ得
- 五 歷史上著名ナル場所ニ就キテハ其ノ事蹟ノ大要ヲ附説スヘシ
- 六 有名ナル詩歌文章紀行等ニシテ地理教授ニ資スルニ足ルモノハ便宜之ヲ引用シテ興味ヲ助クヘシ
- 七 實地ニ觀察シ得ヘキ事項ハ成ルヘク直接ニ觀察セシメ其ノ他ハ常ニ地圖、標本、寫真、繪畫、表等ニ依リ生徒ノ知識ヲ確實ナラシムヘシ又生徒ヲシテ略圖ヲ描カシムルモ可ナリ但徒ニ精密ニ涉リ時間ヲ浪費セサランコトヲ要ス
- 八 地文ハ特ニ我國ニ關スル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ
- 九 地名ノ稱呼ハ必シモ此要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス
- 十 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ

日本及世界地形圖

世界分圖

日本行政區畫圖

日本及世界交通地圖

人種分布地圖

日本及世界水陸動物分布圖

日本及世界植物區系圖

日本地質圖

日本及世界同溫線圖

日本及世界同緯線圖

日本及世界風向圖

日本及世界雨量圖

日本及世界海流圖

同時潮

圖 地震及火山分布圖

日本地震圖、天氣圖ノ一例

其ノ他人文、地文ヲ説明スル地圖

諸統

計ヲ示ス圖又ハ表

風俗、風景、其ノ他地文上ノ現象ヲ示ス圖畫又ハ寫真

土地ノ高低、褶曲、斷層等ヲ示ス模型又ハ圖畫

主要ナル岩石

主要ナル造岩鑛物

日本ノ主要ナル農産、林産、水産物及加工品ノ標本

主要ナル貿易品ノ標本

風化ヲ示ス標本

主要ナル化石又ハ其ノ模

型或ハ圖畫

其ノ他ノ掛圖等

地ノ儀

羅針盤 測斜器

あねろいど晴雨計

水銀晴雨計

寒暖計

日時計

人文地理ニ關スル事項ハ時々異動ヲ來スコト多クレハ之ヲ圖表等ハ常ニ其ノ訂正増補ニ留意シ最近

ノ形勢ヲ示スモノヲラシムヘシ

數學

第一 算術

第一學年

每週四時

緒論

命數法

位數法

小數

整數及小數

加減乘除

諸等數

第四編 中學校及高等女學校

第四編 中學校及高等女學校

四一六

時間 めーとる法度量衡 尺貫法度量衡 本邦貨幣 外國度量衡及貨幣 諸等進法及命法

諸等數ノ加減乘除 英國度量衡及貨幣其ノ他十進法ニ依ラサル複雜ナル諸等數ハ分數ノ中或ハ分數ノ後ニ於テ便宜之ヲ授ルルコトヲ得

整數ノ性質

可約性 素數 約數 最大公約數 最小公倍數

分數

分數ノ主要ナル性質 約分 通分 分數ヲ小數ニ化スルコト 小數ヲ分數ニ化スルコト

分數ノ加減乘除

比及比例

比 比例

第二學年

每週二時

比及比例ノ續キ

連鎖法 比例配分 混合

割合

總說 歩合算 利息算其ノ他割合ニ關聯スル日用諸算

乘及根

自乘算及平方根 三乘算及立方根 求積

第二 代數

第二學年

每週二時

緒論

記號ノ定義 代數式 結合ノ法則 定義ノ擴張 負數

整式

加減乘除

方程式

一元一次方程式

第三學年

每週二時

方程式ノ續キ

多元一次ノ聯立方程式

整式ノ續キ

分配ニ關スル公式 因數 最大公約數 最小公倍數

分數式

分數ノ基本性質 約分、通分 分數ノ加減乘除

方程式ノ續キ

一次式ニ歸セシムルコトヲ得ヘキ一元方程式 一元二次方程式 二次式ニ歸セシムルコトヲ得ヘ

キ一元方程式 二次方程式ヲ含ミタル聯立方程式 方程式ノ解決ニ關スル釋義

第四學年

每週二時

無理式

第四編 中學校及高等女學校

四一七

第四編 中學校及高等女學校

指數定義ノ擴張 無理數 無理數ニ近似スル有理數値
比及比例

不名數ノ場合 量ノ場合(通約スヘキ量、通約スヘカラサル量) 不盡數

級數

等差級數 等比級數

順列及組合

二項式定理

正整數ナル指數ノ場合

對數

對數ノ基本性質 對數表

第三 幾何

第三學年

每週二時

緒論

直線

角 平行線 三角形 平行四邊形

圓

圓ノ基本性質 中心ニ於ケル角 弦 弓形ニ於ケル角 切線 二ツノ圓 軌跡

第四學年

每週二時

圓ノ積キ

內接形及外接形

面積

直線形ノ面積ノ等同

比例

等シキ比ノ定義 此定義ヨリ派生スル一般ノ定理

比例ノ應用

比例線 相似形

第五學年

每週二時

比例ノ應用ノ續キ

面積 軌跡

平面

直線及平面 立體角

多面體

角嚮 角錐 正多面體

曲面體

球 圓嚮 圓錐

第四 三角法

第五學年

每週二時

角ノ計リ方

第四編 中學校及高等女學校

六十分法

圓函數

銳角ノ圓函數

圓函數相互ノ關係

餘角ノ圓函數

格別ナル角ノ圓函數

真數表

直角三角形ノ解法

圓函數ノ積キ

圓函數ノ一般ノ定義

圓函數相互ノ關係

圓函數ノ符號及大サノ變化

負角ノ圓函數

補角

角ノ和ニ對スル公式

二角ノ角ノ和及差ノ圓函數

倍角及分角ノ圓函數

圓函數ノ積ニ對スル公式

圓函數ノ和及差

ニ對スル公式

三角形ノ邊ト其ノ角ノ圓函數トノ關係

對數表ノ用方

三角形ノ解法

高サ、距離等ノ測法及之ニ關スル實習

教授上ノ注意

一 數學ヲ授クルニハ常ニ正確ナル言語ヲ用ヒテ法則、命題等ノ宣言證明ヲナシ正確ニ理會セシメンコトヲ力ムヘシ

二 算術ニ於テハ單ニ算法ヲ授クルニ止メス常ニ實算ヲ重ンシ正確ニ且迅速ニ計算シ得ルニ至ラシムヘシ

三 計算ニハ成ルヘク驗シテ行ハシメ之ニ對スル自信ヲ深厚ナラシムヘシ

四 算術ノ例題ハ成ルヘク生業上適切ナルモノヲ選ビ歩合算其ノ他日用諸算ニ關スル例題ヲ課スルニハ特ニ注意シテ其ノ事項ヲ説明スヘシ

五 算術ヲ授クル際法則ノ理由ヲ充分ニ理會セシメ難キ場合ニ於テハ單ニ其ノ一端ヲ指摘スルニ止メ直ニ法則其ノ物ニ移リ其ノ嚴格ナル理由ノ說明ハ之ヲ代數ニ譲ルヘシ

六 代數ニ於テ一次方程式ヲ授クルニハ之ヲ一箇處ニ纏ムルコトナク其ノ最モ簡易ナルモノハ成ルヘク早ク之ヲ引用シテ代數ノ趣味ヲ得シムヘシ

七 幾何ヲ授クルニハ論理ノ嚴格ヲ重ンスヘシ例ヘハ比例論ヲ授クル場合ノ如キ證ニ簡易ニ就カントスル爲之ヲ省略シ若ハ之ヲ曖昧ニ附シ去ル弊ニ陥ラザランコトヲ要ス但生徒學力ノ進度ニ依リ一時之ヲ假定シテ後回シトナスハ妨ナシ

八 作圖題ハ證明ノ連絡上適當ノ處ニ於テ之ヲ授クヘシ

九 定理ノ形式、其ノ相互ノ關係等ハ最初ニ於テ授クルヨリモ寧稍々進ミタル後便宜之ヲ授クルヲ可トス

十 三角法ニ於テ高サ、距離等ノ測法ハ其ノ實習ト共ニ成ルヘク早ク之ヲ授ケテ興味ニ訴フルコトヲ要ス

十一 圓函數ハ初真數ヲ用ヒ後對數ヲ用フルヲ可トス

十二 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ

日時計 時計 羅針盤 めしとる法尺 三種比較尺 日本秤 めしとる法分銅 臺秤

液量樹 穀量樹 めしとる法量器 外國度器 黑板用こんばす 黑板用各種ノ定

第四編 中學校及高等女學校

四二一

第四編 中學校及高等女學校

四二二

規 尺 なるにえし模型 ておぼりつと 卷尺 ちえーん 旗竿等

日本貨幣圖 外國貨幣圖 幾何立體ノ模型

博物

第一 礦物界

第一學年

每週二時

礦物界ノ教授ハ細密ナル記載ニ偏スルコトナク又科學上ノ順序ニ泥ムコトナク生徒日常ノ經驗ニ訴ヘ成ルヘシ具家ノ標本ヲ基礎トシテ礦物界ニ關スル主要ナル事項ヲ約説スヘシ其ノ目凡次ノ如シ

水晶、砂岩 水晶ノ玉(石英) 水晶ノ自然ノ形(結晶) 結晶ノ見分ケハ稜ノ鏡鈍ニ依ルコト 結晶ノ生長ノ

仕方 結晶ノ集合體 水晶ノ脈等(産出ノ狀) 其ノ硬度 硬度ノ計リ方 花崗岩ノ中ノ

石英 石英ノ砂 河海ノ砂 砂層、粘土層、礫層(破片質水成岩) 地層ノ形砂岩 礫ノ

砂ノ中ノ介 砂岩ノ中ノ介(化石) 珪岩

教授用具

水晶ノ玉 山ヨリ出テタル儘ノ水晶 測角器 水晶ノ晶族 水晶ノ晶群 硬度計

花崗岩 川ノ砂 砂岩 介化石ヲ含ミタル砂岩 珪岩

石炭

汽車汽船等ノ動力 石炭ノ用途 其ノ色、脆サ、熔ノ臭ミ等 石炭坑 石炭層 其ノ變位

(皺、斷層等) 九州、北海道等ニ於ケル石炭ノ産地 石炭ノ生因 仙臺ノ埋木 泥炭 石

墨

教授用具

石炭ノ片 石炭坑内ノ畫 厚紙、板、粘土等(地層ノ曲リ、厚サノ變化、斷層等ヲ説明スル爲

ノモノ) 仙臺ノ埋木 泥炭 鉛筆

粘土、粘板岩

瓦、煉化石 茶碗等ノ原料 其ノ製法 河沼等ノ底ニアル粘土 粘土ノ性質 陶土 粘土

ノ中ニ介化石ノ存在スルコト 石盤、硯石等 粘板岩ト粘土ノ比較

教授用具

瓦、煉化石、茶碗 捏ネタル粘土 川ノ粘土 介化石ヲ含ミタル粘土 學校ノ石盤 黒

キ硯石

石灰

漆喰ノ中ノ一原料 燒キテ石灰ヲ得ル石 石灰ノ燒キ竈 石灰岩ノ産出 鐘乳石ノ生因

鹽酸ト石灰岩トノ反應 石灰岩ニ對スル水ノ作用 石灰洞 石灰岩ノ材料ナル方解石 其ノ

劈開 重屈折 大理石 美濃赤坂ノ石灰山 石版用ノ石灰岩 珊瑚礁

教授用具

石灰 石灰岩 石灰ノ燒キ竈ノ畫 石灰岩掘リ場ノ畫 固有ノ凹凸多キ石灰岩表面ヲ示ス

畫 鐘乳洞ノ畫 鹽酸 方解石ノ劈開片(透明ナルモノ) 大理石 石版印刷ノ石 硯

珊瑚ノ畫

石油

石油ノ産出ト採取 汲ミ井戸、噴キ井戸 其ノ色、臭ミ、比重、揮發性 製油所 らんぶ油、

第四編 中學校及高等女學校

四二三

器械油、石蠟 越後ノ火ノ井戸(石油ト共ニ出ツル瓦斯)
教授用具

硫黃

山ヨリ出テタル儘ノ石油 石蠟ノ蠟燭 器械油

附木ノ硫黃 硫黃ノ色、つや、燃ユル臭ミ等 火山ノ蒸氣ト其ノ臭ミ 同所ニ生スル花硫黃
硫黃ノ産出ノ狀 噴火山 硫氣ノ岩石分解 火山ノ岩石 火山灰 熔岩ノ形(其ノ生因)
岩脈 熔岩流

教授用具

附木 硫黃ノ粉 火山ノ花硫黃 硫氣ニテ朽チタル火山ノ石 火山岩 火山灰 富士
ノ繩狀熔岩 岩脈ヲ示スヘキ粘土即成ノ模型 熔岩流ヲ示ス圖
銀、銅、鉛、鐵等

銀、銅、鉛、鐵等及其ノ合金ノ用途 銀、銅、鉛、鐵ノ鑛石 其ノ鑛山 輝銀鑛ノ外見 方鉛鑛
ニモ銀ヲ含ムコト 黃銅鑛 其ノ色、つや、粉末ノ色、燒クル臭ミ等 方鉛鑛 其ノ色、つ
や、劈開等 吹管ヲ用ヒテ分析スレハ鉛ヲ得ルコト 磁鐵鑛 其ノ色、磁氣 鑛石一般ノ産
出 鑛脈、鑛床

教授用具

銅板 鉛ノ玉 鐵釘 輝銀鑛 黃銅鑛 條痕板 方鉛鑛(粗粒質ノモノ) 木炭
ソーダ 吹管 ぶらちな板 酒精燈 磁鐵鑛 鑛脈ヲ示ス圖 鑛塊ノ鑛 鑛脈、
鑛塊ノ粘土模型

黃金

黃金ノ用途 其ノ鑛展 其ノ色、つや、比重 砂金 金鑛 北海道、佐渡等ニ於ケル金産

地

教授用具

金箔 砂金場ノ鑛 黃金ヲ含ミタル石英脈

飾リノ石

寶石ノ特性 金剛石 日本ノ黃玉、水晶 孔雀石、瑪瑙 大理石、蛇紋石 琥珀等 是

等ノ物ノ用途

教授用具

日本ノ黃玉 孔雀石 大理石 蛇紋石 琥珀

岩石

石灰岩、砂岩、礫岩(層狀岩) 安山岩、花崗岩(塊狀岩) 岩石ノ生因(水成岩、火成岩) 土地
ノ岩石ノ生因ヨリ昔ノ地勢等ヲ知ルコト 岩ノ中ノ化石 海ノ介カ山ノ岩ノ中ニ見出サル、コト
奇形ノ化石ト其ノ時代 岩石識別ノ諸點 其ノ薄片ヲ顯微鏡ニテ見タル様子 粘板岩、大
理石等、建築ノ石材 石垣ノ石材 礫岩等、道鋪ノ石材 石碓

教授用具

石灰岩 安山岩 花崗石 あんもん介又ハ其ノ齒 顯微鏡ニテ岩石ヲ見タル様子ヲ示ス圖

地球

地殼ノ構造(岩ト土) 層、皺、斷層、岩脈、岩株等 岩石分解、崩壞等 水蝕ト沈澱 石垣等

ノ風化 景色ト地質トノ關係 地中ノ有用物 地變(火山、地震、山崩等) 大氣、氣象
四季、晝夜 地球ト日月 日蝕、月蝕 月ノ表面、運動 惑星、太陽系 其ノ他ノ天體
教授用具

●土 鐵道切手割リニ於ケル地層ノ斷面圖 堅岩ノ山ト軟岩ノ山ノ景色畫 風化シタル岩ト其
ノ新鮮ナル部分 火山、地震、山崩等ノ畫 雨量圖 風向圖 同溫線圖 地球儀 羅針
盤 日時計 日蝕、月蝕ノ説明圖 月ノ表面ノ畫 太陽系ノ畧圖

前記ノ教授事項及用具ノ目ハ其ノ目的及範圍ヲ示スニ止マレハ必シモ之ニ拘ルコトナク便宜之ヲ變更ス
ルコトヲ得要スルニ是等ハ成ルヘク日常學近ノモノニシテ礦物及岩石ノ類ヲ代表シ且廣ク形態、理化學
性、產出ノ狀、生因及變化、應用、地質上ニ於ケル相互ノ關係等ニ涉リテ礦物界全般ノ概念ヲ得シムル
便アラシモノタルヘシ

第二 植物

第二學年

每週二時

植物ノ教授ハ分類ニノミ偏スルコトナク植物界ノ現象全般ニ涉ルヘシ其ノ事項ノ主要ナルモノ次ノ如シ

形態 植物體ノ主要ナル器官 其ノ種々ナル變形
解剖

植物體根本的構造ノ大要(細胞、導管、組織、細胞含有物ノ主要ナルモノ、根、莖、葉等ノ解剖) 顯微鏡
及顯微鏡ノ用法 生理

營養 同化 吸收 通發 呼吸 生長 運動 刺戟感應 生殖等ノ大要 是等ノ

諸作用ト人體及動物體ニ於ケルモノトノ類同

生態

植物生活ト外圍トノ關係 其ノ形態、解剖、生理、分布上ニ於ケル影響

分類

分類ノ主意 簡易ナル一ノ自然分類法 雙子葉類、其ノ主要ナル科ノ數例 單子葉類、其ノ主

要ナル科ノ數例 松柏類 羊齒門、蘇苔門、菌藻門ノ大要 醱酵、腐敗、傳染病ノ原因タル下等植

物ノ大要 學校所在地方ノ普通植物中顯著ナルモノ、種類、名稱

分布

學校所在地方ニ於ケル植物ノ分布 生態的分布 植物群落 高山植物 海濱植物 砂地植

物 濕地植物等 地球上ニ於ケル顯著ナル植物區系及日本植物區系ノ大要

應用

植物カ自然界ノ經濟上ニ及ボス影響 植物ノ人生ニ於ケル關係 木材其ノ他食用、藥用、工業用、

園藝用等ニ係ル日本產及外國產植物中最モ主要ナルモノ 其ノ有用ナル部分ノ特性

前記ノ事項ハ必シモ順序ヲ追ヒテ授クルコトヲ要セス適宜分合シテ之ヲ授クルコトヲ得、特ニ季節ニ應

ジテ適當ナル題目(例ハ、春季ニ發芽、櫻花、菜花、秋季ニ果實、紅葉、落葉等)ヲ選ビ之ニ就キテ便宜形態、

解剖、生理、生態、分類、分布、應用ノ諸項若ハ其ノ中ノ數項ヲ歸納的ニ授クルカ如キハ生徒ノ興味ヲ增シ

理解ヲ助クル益アルヘシ

第三 生理及衛生

第四編 中學校及高等女學校

第四編 中學校及高等女學校

第三學年 第一學期及第二學期

每週二時

四二八

總論

人體ハ有機體ナルコト 生理、衛生ノ意義 其ノ人生ニ於ケル價值、衛生及道德 人體作用ノ主要ナルモノ 器官系統 人體ヲ構造スル結局ノ要素ハ植物ニ於ケルカ如ク細胞ナルコト

骨格系統 骨格ノ大要(頭骨、頸骨、上肢骨及下肢骨ノ主要ナルモノ) 關節及其ノ種類 骨ノ構造 軟骨 骨格ノ作用

筋系統

筋ノ構造 腱、靱帶 筋ト骨トノ關係 筋系統ノ作用 直立及諸種ノ運動(步行、走行、跳ぶこと) 顯著ナル筋肉(兩頭筋、三稜筋、大臂筋、腓腸二頭筋等)

衛生

消化系統

消化系統ノ諸部 其ノ消化作用 食物ノ種類 普通食物ノ成分ノ大要、其ノ營養及消化ノ程度

衛生

循環系統

血液 心臟ノ構造 動脈 靜脈 毛細管 心臟ノ鼓動 脈搏及其ノ數 循環系統ノ作用 淋巴管及腺

衛生

呼吸系統

肺臟及氣管ノ構造 呼吸運動 呼吸系統ノ作用 發聲器

衛生

皮膚

皮膚ノ構造、結締組織、脂肪 皮膚ノ作用 毛髮、爪

衛生

腎臟

腎臟ノ構造及作用

衛生

神經系統

腦ノ構造及作用 脊髓ノ構造及作用 神經ノ構造及作用 交感神經

衛生

五官

眼ノ構造及作用 耳ノ構造及作用 嗅器ノ構造及作用 味器ノ構造及作用 觸器ノ構造及作用

衛生

衛生(特ニ近視眼豫防上ノ注意)

全身ニ關スル事項

體温、發熱 新陳代謝、生長、肥滿、羸瘦 全身ノ調整

全身ノ衛生

第四編 中學校及高等女學校

四三〇

清潔 運動、休息 起臥 修學時間 旅行ニ對スル心得 救急療法 疾病ニ對スル心得等

公衆衛生

各器官系統ノ衛生ヲ授クル際其ノ系統ノ最モ難リ易キ疾病ノ名稱ヲ知ラシムヘシ

第四 動物

第三學年 第三學期

第四學年 第一學期及第二學期

每週二時
每週一時

動物ノ教授ハ分類ニノミ偏スルコトナク動物界ノ現象全般ニ涉ルヘシ其ノ事項ノ主要ナルモノ次ノ如シ

分類

分類ノ主意 分類ノ方法 動物界諸門ノ概性

脊椎動物

節足動物

多足類、蜘蛛類

軟體動物

瓣鳃類

棘形動物

棘皮動物

腔腸動物

鳥類 爬蟲類 兩棲類 魚類

其ノ諸目ノ大要

各類諸目ノ大要

腹足類 頭足類

甲殼類

海綿動物

原生動物

分類ヲ授クルニハ顯著ナル適例ヲ示シテ綱或ハ主要ナル目ヲ說スルニ止メ分類區分ノ名稱、特徵等ヲ細密ニ授クルコトナク主トシテ動物界ニ含有セラル、動物ノ概念ヲ與フルコトヲ力ムヘシ又必シモ前記ノ順序ニ依ルコトヲ要セス

習性

生徒ノ容易ニ實驗又ハ目撃シ得ヘキモノ、自然界ノ現象トシテ趣味アルモノ、及人類ニ關係アルモノ

解剖、組織

脊椎動物ノ解剖ハ人體解剖ト比較シテ大要ヲ授ケ其ノ下等ニ至ルニ從ヒ漸次簡單ユナルコトヲ知ラシムメ無脊椎動物ニ在リテハ其ノ一二ニ就キテ解剖ヲ授ケ其ノ他ハ特ニ注目スヘキ點又ハ外部ヨリ觀察シ得ヘキ點ノ器クルニ止ムヘシ

組織ニ於テハ動物體ハ細胞ヨリ成ルコトヲ知ラシムルヲ旨トシ必シモ各器官ニ就キテ詳細ナル説明ヲナスコトヲ要セス

生殖、發生、生長

生物界ニハ自然發生ナキコト

變體其ノ他ノ變體ノ大要

生態

卵ノ發生ハかへる、うに、なめくじら等を等ノ卵ニ就キテ之ヲ説明スヘシ

寄生

共生 保護色及其ノ他ノ彩色等

第四編 中學校及高等女學校

四三一

分布

動物ノ散布 世界分布區系ニ就キ二三顯著ナル事實

動物界ノ變遷

化石 過去ノ動物ハ現今ノ動物ト異ナルコト 顯著ナル化石動物ノ數例

動物界ト植物界、礦物界トノ關係

應用

寄生蟲ニ對スル豫防 病媒媒介動物ニ對スル注意 農林業上ノ有害動物、有益動物 兩者ノ關係及其ノ應用 家畜、人為淘汰 肥料 我國特ニ學校所在地方ニ於ケル主要ナル水産物ノ利用、

食料 衣料 藥品、香料、染料 裝飾品等

前記ノ事項ハ分類ヲ主トシ各類ニ就キテ之ヲ授クルトモ、或ハ其ノ或ルモノハ分類ト同時ニ之ヲ授ケテ

其ノ他ノモノハ別ニ之ヲ授クルトモ妨ナシ

第四學年第三學期ニ於テハ第一學年ヨリ授ケ來リタル事項ヲ總括シテ

自然界ノ微妙複雜ナル關係

生存競爭 自然淘汰 人為淘汰 進化論

ノ大意ヲ約説シ自然界ト人類トノ關係ヲ理會セシムヘシ

教授上ノ注意

一 博物ニ於テハ室内教授ニ伴フニ野外觀察ヲ以テシ生徒ヲシテ修業ノ後博物ノ名ヲ聞クトキハ直ニ自然界ヲ想ヒ出スニ至ラシメンコトヲ期スヘシ

二 博物ヲ授クルルニハ實物ニ依リテ生徒ノ觀察及記載ヲ練習シ常ニ實物ニ訴ヘテ事物ヲ判斷スル習性ヲ養成スヘシ之カ爲時トシテ其ノ教材タル實物ノ要點ヲ簡明ニ寫生セシムルコトアルヘシ

三 博物ハ區分シテ之ヲ授クト雖モ常ニ植物、動物、動物三界ノ相互ノ關係ニ留意シ生徒ヲシテ自然界ノ統一ニ就キテ明晰ナル概念ヲ得シムヘシ

四 人生ニ關係アル顯著ナル天然物ニ就キテハ直接、間接ニ其ノ有用又ハ有害ナル理由ヲ示シ其ノ利用ヲ尙且ニ附スヘカラサルコトヲ知ラシムヘシ

五 各地固有ノ風景ハ之ヲ構成スル植物、岩石、植物、動物ニ歸スルコト多キモノナレハ學校所在地方ニ於ケル其ノ種類、分布又ハ生態ヲ野外ニ於テ親シク示シ生徒ヲ愛シ從ヒテ己ノ郷土ヲ慕フ念ヲ起サシメ又進ミテハ熱帶、溫帶、寒帶ノ風俗ノ異ナルコトヲ說キテ他郷異邦ニ遊ブ快樂ヲ覺ラシムヘシ

六 植物及動物ノ教材ハ成ルルヘク日本産普通ノ生物中ヨリ之ヲ採ルル可トスト雖モ亦世界各地ニ産スル生物ニシテ最モ顯著ニ且最モ緊要ナルモノ、如キハ之ヲ引用センコトヲ要ス

七 解剖、組織ヲ授クルニハ實物ニ就キテ解剖ヲ行ヒ又諸組織ノ簡易ニシテ生徒ノ理會シ得ヘキモノハ

ふればらトシテ用ヒテ説明スヘシ

八 人體内臟ノ構造ヲ授クルニハ他ノ動物、就中哺乳類ヲ解剖シテ之ヲ明ニスヘシ又毛細管中ノ循環ハ

蛙等ニ就キテ其ノ實狀ヲ目撃セシムヘシ

九 植物ノ教材ハ悉ク季節ニ從ヒテ之ヲ配列スルコト能ハサルモ成ルルヘク季節ニ對應セシメンコトヲ力

ムヘシ

十 生理及衛生ヲ授クルニハ各器官系統相互ノ關係ニ注意シ其箇々獨立ノモノニアラサルコトヲ明ニス

ヘシ

十一 生理及衛生ノ事項ハ出來得ル限生徒自身ノ身體及經驗ニ訴ヘテ歸納的ニ之ヲ授ケ其ノ生徒自身ニ極

ムヘシ

第四編 中學校及高等女學校

四三三

メテ親密ナル關係アルコトヲ知ラシムヘシ

十一 適當ノ機會ニ於テ日常卑近ノ現象、例ヘハ循環ニ於テ赤面スルコト、顔面ノ蒼クナルコト、呼吸ニ於テくさめ、さくり、あくび、せきノ類ヲ説明シテ興味ヲ添ヘンコトヲカムヘシ

十二 衛生ニ於テハ吾人日常ノ生活ニ最も近接ナル事項ヲ授クヘシ

十三 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ

顯微鏡 蟲眼鏡 解剖用具(解剖針、解剖刀、解剖鉗、解剖皿、びんせつど等) みくろとーむ

剃刀 草薙 消毒器 酒精燈 試驗管 諸種ノ壘 貯藏藥品 其ノ他ノ材料

顯微鏡ハ接物れんす及接眼れんすノ組ミ合セニ依リ凡五十倍乃至四百倍ノ間ニ種々ノ廓大度ヲ有スルモノヲ以テ最も便利トス

鑛物ニ關スルモノ

鐵錘 採集囊 吹管分析用具 硬度計 天平 螺旋秤 測角器 條痕板 あねろい

冬晴雨計 寒暖計 日時計 羅針盤 地球儀

主要ナル鑛物 結晶、晶簇、晶群ヲ示ス標本 主要ナル岩石 化石ヲ含ミタル岩石 鑛物、

岩石ヲ原料トシタル加工品 風化ヲ示ス標本 簡單ナル結晶形ヲ示ス模型 鑛脈、鑛床、鑛坑

ノ内部、地層、斷層、火山等ヲ示ス模型又ハ圖畫 風景圖 雨量圖 風向圖 同温線圖

其ノ他ノ掛圖

植物ニ關スルモノ

採集胸籠 壓搾器 主要ナル生理器概

乾燥標本

主要ナル植物ノ腊葉 學校所在地方ノ植物腊葉 材鑑 年輪其ノ他幹ノ構造ヲ示スモノ

纖維原料及製品 有用乾燥果實及種子 藥用植物、纖維植物、染料植物等ノ有用植物 澱粉

製品 有毒植物 農業植物及果樹ノ媒助昆蟲 主要ナル組織ノふればらいと 微細植物ノ

ふればらいと

乾燥標本トシテ備フルモノハ生標本ヲ得難キモノ又ハ腊葉トシテ尙天然ノ色及形ヲ保存スルモノタルヘシ而シテ有用植物ノ標本ハ單ニ花及枝葉ノ形狀ニ重キヲ置カス主トシテ其ノ用途ニ從ヒテ有用ノ部分ヲ具備セシムヘシ例ヘハ根ヨリ澱粉ヲ取ルモノハ根部、皮ヨリ纖維ヲ取ルモノハ皮ヲ具備セシムルカ如シ

あるこゝる又ハふるるまりん標本

多肉果實 多肉植物 食蟲植物 寄生植物 有毒菌類 食用菌類

あるこゝる又ハふるるまりん標本トシテ備フルモノハ實驗ニ使用スヘキ材料ニシテ季節ニ於テ容易ニ得難キモノ又ハ其ノ時期長カラスシテ適當ノ季節ヲ誤ル虞アルモノ、模範的ニシテ大ナル果實ノ

解剖標本、其ノ他乾燥スルトキハ天然ノ狀態ヲ損フコト甚シキ虞アルモノタルヘシ

生標本

主要ナル山林樹木 藥用植物、纖維植物、染料植物等ノ有用植物 有毒植物 花又ハ果實ノ色、

大サ、形等ノ顯著ナルモノ 形狀、生態等ノ珍奇ナルモノ 普通ノ接木、取木等

花壇ハ定時又ハ臨時ニ材料ヲ得ル所タルノミナラス又屋外教授ヲモナシ得ヘキ所タランヲ要ス

花壇ニハ簡單ナル分類花壇ノ外、生理花壇生態花壇等ヲ設ケ、生理花壇ニハ就眠植物、纏繞植物等ヲ

第四編 中學校及高等女學校

四三六

生花壇ニハ肉食植物、寄生植物等植ウルモ亦興アルヘシ
前記 外模型又ハ圖畫ヲ利用スルコトヲ怠ルヘカラス
植物園、農事試驗場等ノ設アル地方ニ在リテハ之ヲ利用シ學校ノ設備ノ不足ヲ補ハンコトヲ力ムヘシ
生理及衛生ニ關スルモノ

遠眼鏡 暗箱 寶體鏡 觸覺ヲ測ル器 體溫器 救急函
人體骨格 人體紙製模型 眼ノ模型 耳ノ模型 主要ナル組織ノムればらトモ 病菌ノム
ればらトモ 人體寄生動物
掛圖

動物ニ關スルモノ

捕蟲網 ぞれつぢ ぞろろ ちつぱー 採集箱 展翅板 注射器 解剖用鋸 骨錠、
主要ナル綱目ヲ代表スル動物 其ノ骨格 解剖、生長、變體ヲ示ス標本又ハ模型 保護色、
季候變形、兩性變形、寄生、共生等ヲ示ス標本又ハ模型 有用動物 有害動物 學校所在地方
ノ動物 動物ヲ原料トシタル加工品 主要ナル組織ノムればらトモ 微細動物ノムればらトモ
化石動物數種又ハ其ノ模型或ハ圖
動物ノ標本ハ生標本ヲ以テ最良トス然レトモ種々ノ事情ニ依リ之ヲ備ヘ難キコト多キ故ニ創製標本、
あるコト標本等ヲ備フルコトヲ要ス而シテ是等ノ標本ハ生キタル動物ノ代表者ナレハ成ルヘシ其ノ
生態ヲ示スモノヲ可トスあるコト標本ニシテ收縮等ニ依リ其ノ生時ノ狀態ヲ推知シ能ハサルモノ、
如キハ教授上殆ト無益ナリトス
掛圖ハ時トシテ標本ヨリモ用ヲナスコト多キコトアレハ十分ニ之ヲ利用スヘシ

動物園、水産試驗場等ノ設アル地方ニ在リテハ之ヲ利用シ學校ノ設備ノ不足ヲ補ハンコトヲ力ムヘシ、
物理及化學

第一 物理

每週四時

力學

長さ、面積、立積、時ノ單位 静止及運動 速度及其ノ計リ方 加速度 運動ノ組立及分解
圓運動 慣性 力 質量 質量ノ單位 密度 力ノ絕對單位 力ノ重力單位 運動量、
作用及反動 質點ニ作用スル力ノ組立及分解 重力 落體 拋射體 剛體ニ作用スル力
ノ組立及分解 力ノ能率 重心 物體ノ座リ 天秤 挺子、輪軸、滑車等 摩擦
仕事 仕事ノ單位 ねぐるぎニ二種アルコト ねぐるぎノ保存 單振子 合成振子
相當單一振子 時計 宇宙引力

物性

分子 分子力 物質ノ三態 彈性 ふつくノ定律 毛管現象 表面張力 潮散 澄
透 吸収 液體ノ壓力 ばすかるノ原理 水壓器 重力ニヨリテ生スル壓力 水平面
水準器 あるきめですノ原理 浮游體 比重及其ノ測定 浮秤 流出液ノ速度 大氣ノ
壓力 ぞりちねりノ實驗 晴雨計 晴雨計ニヨリテ山ノ高サヲ測ルコト 大氣中ノ浮力
度いるノ定律 空氣ばんぶ 水ばんぶ 物質ノ保存

音響

振動 週期 振動數 振幅 波動 波及ノ速度 波長 位相 高低波 疎密波
第四編 中學校及高等女學校 四三七

音響ノ發生及傳達 音響ノ速度 音ノ反射 音ノ干涉 音ノ強サ 音ノ高サ 音ノ音色
原音 陪音 人ノ音聲及音樂ニ用フル音ノ振動 蘇音器 唸リ 共鳴リ 絃、板、膜、棒、
氣柱等ノ振動

熱

温度 諸種ノ寒暖計 固體ノ膨脹 膨脹ニ伴フ密度ノ變化 膨脹係數 液體ノ膨脹 水
ノ膨脹 氣體ノ膨脹 しやゝるノ定律 ぼゝるノ定律 ぼゝるノ定律トしやゝるノ定律トノ關係 絕對温度、
熱量及其單位 物體ノ熱容量 物質ノ比熱 比熱ノ測定 熱ハ受ねるぎトナルコト 仕事
當量 しやゝるノ實驗 蒸氣機關 融解及凝固 融解熱 寒劑 蒸發 沸騰 氣化
熱 液化 濕度及濕度計 蒸溜 傳導 安全燈 對流 輻射

光

光體 光ノ直進 陰影 速度 透明、半透明、不透明 光ノ強サ 光度計 反射ノ定律
散光 平面鏡 像 球面鏡 焦點距離 屈折ノ定律 屈折率 逐次ノ屈折 全反
射 れんす れんすノ焦點距離及れんすノ作ル像 暗箱 眼鏡 顯微鏡 望遠鏡 幻
燈 ぶゝすむ 光ノ分散 すべくとる 分光器 すべくとるノ種類 ぶらうんぼーふえ
る線 輻射線ノ種類 輻射ト吸收トノ關係 すべくとる分析 虹 物體ノ色 燐光、螢光、
光ノ波動說 波長 光ノ干涉 光ノ偏リ 複屈折

磁氣

磁石ノ兩極 羅針盤 兩極間ノ作用 磁氣ノ感應 くらんノ定律 磁場及指力線 磁
石ノ作り方 地磁氣 方位角 傾角 水平分力 等磁線及地磁氣ノ變化

靜電氣

摩擦ニヨル發電 傳導 二種ノ電氣 くらんノ定律 電氣量ノ單位 驗電器 電氣ノ
分配 尖端ノ作用 電氣ノ感應 電氣盆 らいむしやーすとノ起電機 ぼてんしやる
電氣容量 れいでん瓶及こんでんさー 雷電 避雷針

流動電氣

電池 極 電流 輪道 電動力 各種ノ電池 えるすてつぎノ實驗 あんべーるノ定
律 電流ノ作ル磁場 それのいど 電流相互ノ作用 電磁石 電鈴 電信機 電流計
無定位針 抵抗 おーむノ定律 電氣諸量ノ單位 輪道ノ分派 電池ノ繋キ方 電磁
氣感應 相互感應 れんつノ定律 自己感應 るーむてるふノ感應器 電氣火花 がい
すれる管 くるーくす管 れんとげんノ實驗 電話 微音器 だいなも及電氣發動機
じやうるノ定律 電燈 熱電流 電流ノえねるぎー 電氣分解 ふあらでーノ定律 電
鍍術及電鍍術 蓄電池

尺貫法單位ノ外めーとる法特ニCGS法ヲ授クヘシ
光ノ波動說、偏リ及複屈折ハ其ノ大意ヲ說クニ止ムヘシ

第二 化學

第四學年 第一學期及第二學期

每週三時
每週四時

普通ノ氣體 空氣、酸素及窒素 燃燒及酸化 化學變化 化合物、單體及元素 質量ノ不變 水及水素
定比例ノ定律 無水炭酸 炭素ノ循環 元素ノ不滅 酸化炭素 倍數比例ノ定律

第四編 中學校及高等女學校

鹽化水素及鹽素 あむもにあ及鹽化あむもにうむ 氣體ノ通性 氣體反應ノ定律 分子量
 原子量 記號 分子式 實驗式 原子價 基 示性式 原子分子説
 酸素及其ノ化合 酸素及ぶぞん 酸化物、水酸化物及過酸化物 酸化物ノ分類 酸、鹽基及鹽 非金屬元素
 及金屬元素 はろげん及其ノ化合物 はろげんノ酸化物、酸及鹽 溶液 飽和及結晶
 鹽素、臭素、沃素及弗素 電解及其ノ定律 電解質ノ水溶液ノ特點 電離 酸及鹽基ノ強弱
 確黃及其ノ化合物 確黃 確化物 確黃ノ酸化物、酸及鹽 溶液
 溶液ノ滲透壓 蒸氣壓、沸點及氷點ノ變化 中和熱 反應熱
 鹽素、燐及砒素 其ノ水素化合物 其ノはろげん化合物 其ノ酸化物、酸及鹽 窒素ノ循環
 活動量 化學變化ノ速度 活動量 可逆反應 化學平衡
 炭素、珪素、 硼素及其ノ化合物 炭素 木炭及石炭 石炭瓦斯及水瓦斯 めたん、えちれん及あせちれん 火焰 炭素ノ酸

化物及確化物 炭酸及其ノ鹽 しあん及しあん化合物 錯鹽 珪素、珪酸及其ノ鹽 硼素
 硼酸及其ノ鹽 金屬及其ノ化合物 などりうむ、かりうむ及其ノ化合物 あむもにうむ化合物 かるしうむ及其ノ化合物 まぐね
 しうむ、亞鉛及其ノ化合物 鐵、につける、こばると、まんがん、くろむ、あるみにうむ及其ノ化合物
 錫、鉛、蒼鉛、あんちもん及其ノ化合物 銅、銀、水銀、金、白金及其ノ化合物 合金 冶金術
 週期律 原子量ノ順序ニ配列シテノ元素ノ比較 原子量ト物理性質及化學性質トノ比較
 有機化合物ノ通説 有機化合物ノ特性 其ノ成分 異性體 構造式
 脂肪族化合物 鎖狀炭化水素 石油 あるこゝる類 はろげん誘導體 ねしてゐる類 あるでひと類及けど
 ん類 酸類 ねすてる類 蠟 油及脂肪 石鹼 あみん類及あみぞ化合物 炭水化物
 芳香族化合物 こゝるたゝる べんせん及其ノ同族體 ねとろ及あみの誘導體 ふねのる類 酸類 なふ
 たれん及あんつらせん ありざりん、藍靛及あにりん染料、てるべん及樟腦族 びりぢん、きのり
 ん及あるかろいぞ 蛋白質
 酸酵及腐敗 酸酵 酵素及酵母 腐敗 消毒及防腐

硫酸、あるかり、漂白剤、肥料、硝子、陶磁器、漆喰、せめんど、合金等ノ製法及用途、普通金屬ノ冶金、寫眞、染色、醸造等應用ニ關スル事項ハ適當ノ機會ニ於テ之ヲ授クヘシ
教授上ノ注意

- 一 物理及化學ヲ授クルニハ成ルヘク卑近ナル實例ニ依リ且器械、標本等ノ許ス限實物ヲ示シ實驗ヲ行フヘシ
- 二 密度ト比重ト、質量ト重サトノ區別ハ初學者ノ誤リ易キモノナレハ特ニ注意シテ之ヲ明ニスヘシ
- 三 物質保存及包むる等ノ保存ノ二大定律ハ物理學ノ骨子タレハ其ノ諸目ヲ授クルニ當リ常ニ此二定律ニ留意スヘシ
- 四 化學上ノ定律及學說ハ生徒既知ノ事實ニ關聯シテ之ヲ授ケ尙過ク化學ノ諸目ニ通シテ之カ活用ヲ示シ徒ニ高遠ナル理論ニ馳セザランコトヲ要ス特ニ溶液ニ關スル諸目ノ如キハ日常ノ事柄ニ關聯スルモノ少カラサレハ適例ヲ舉ケテ充分之ヲ説明スヘシ
- 五 時々簡易ナル計算問題ヲ課シ生徒既得ノ知識ヲ精確ナラシムヘシ
- 六 實驗ハ教授前周到ニ注意シテ之ヲ試ミ教授ノ際仕損シナカランコトヲ力ムヘシ
- 七 實驗ニ要スル器械、器具、材料及藥品等ハ成ルヘク教授前ニ教室ニ出シテ準備シ置クヘシ
- 八 實驗ハ之ヲ全體ノ生徒ニ同時ニ示サンコトニ留意シ教員及前面ノ生徒ノミ之ヲ見テ他ハ之ヲ見得サル弊ニ陥ラザランコトヲ要ス例ヘハ物堀ニ於テ金箔驗電器ノ金箔ノ開閉及電流計ノ針ノ運動ヲ示ス如キ實驗ハ之ヲ一人ツ、各自ニ見シムルトキハ時間ヲ費ヤスコト多キニヨリ能クヘクハ教室ノ窓ヲ閉チテ暗黒ナラシメ得ル裝置ヲナシヘカハすたつとテ以テ太陽ノ光ヲ導キ色消れんすノ口徑五六センチちめーとるニシテ焦點距離ノ長キモノ(一めーとる)ト短キモノ(廿乃至三十センチちめーとる)ト

ヲ使用シテ幻燈的ニ教室ノ内壁ニ投影セシムルナトモ一策ナリ

九 學校附近ニ工場等アルトキハ成ルヘク實地ニ就キテ機械工業、化學工業等ノ説明ヲ與フヘシ

十 物理ト化學トハ成ルヘク同一ノ教員之ヲ擔任シ其ノ教授ハ互ニ關聯補充スヘキハ勿論又他ノ學科目ト特ニ博物數學トノ連絡ヲ圖ルヘシ

十一 術語ハ物理ニ於テハ成ルヘク東京數學物理學會編纂物理學術語和英佛獨對譯字書ニ、化學ニ於テハ成ルヘク高松豐吉櫻井錠二編纂化學語彙ニ據ルヘシ

十二 教授用備品ハ次ノ例ニ據ルヘシ

- 物理ニ關スルモノ
- 尺 めーとる尺 卷尺 紙すけーる數枚 日本樹 五〇cc及五〇〇ccノ硝子製量器
- 時計 がえるにほし模型 回轉器 鐵、亞鉛、銅、眞鍮等ノ同大ノ球及圓塊 象牙球 鐵す
- ふらんぐ(螺旋形)ニシテ強キモノ及弱キモノ 化學天秤 精微分銅一組 天秤 日本秤
- 臺秤 分銅 鉛製分銅數箇(五〇瓦、一〇〇瓦、一きろ瓦等各數箇) 大小單滑車數箇 輪軸
- 各種滑車 斜面螺旋等ノ標本 繃 すたんど數箇 上下臺 取付萬力 試驗管各種
- 蒸發皿 びーかト大小數箇 硝子管大小數種 毛細管數種 ふうすこ若干 硝子板
- こむ管細大數種 木栓大小數種 金工道具 木工道具
- ばすかるノ原理ヲ示ス器 底壓ヲ示ス裝置 ふうま水壓器 連通水平器 準 浮秤(にて
- るそん及ばーめー) あるきですノ原理ヲ示ス裝置 比重瓶 水銀晴雨計 あるるいど晴雨
- 計 空氣ばんぶ及附屬品 水ばんぶ
- 波動ヲ示ス裝置 さがあし齒輪 音叉(振動數ノ知レタルモノ二三種及兩脚ニ重錘ヲ附シ之ヲ

移動セシメテ音調ヲ變シ得ルモノ(二三種) ものこーど 風琴管 りーどばいぶ 蘇音器
 さいれん くらとにノ實驗ヲ示ス圓板、角板及萬力
 寒暖計(水銀、あるこーる、最高、最低、乾濕球等ノ攝氏目盛寒暖計、外ニ華氏目盛寒暖計一本) 標準點
 ナ定ムル裝置 金屬ノ膨脹ヲ示ス器 補整振子 蒸氣器械模型 いんげんはうす熱傳導比較
 器 安全燈
 平面鏡 凹凸球面鏡 四方硝子水入箱 おぶちかるべんちノ用ヲナスヘキV字形溝付長板及其
 ノ上ニ動クヘキ臺 ぶらすむ(直角及六十度) 液ぶらすむ れんす數種(凹凸共) 照像鏡
 望遠鏡 雙眼鏡 すべくどろめーどる 色硝子數種 寫真器械 眼鏡模型 あいすら
 んどすばー 偏光器 へりおすたつと
 棒磁石二本一組 馬蹄形磁石 羅針盤 傾角針 振り秤ノ裝置(靜電氣ニモ使用スルモノ)
 鐵粉 鐵棒 鋼棒
 ばばないど、棒、硝子棒、猫皮等ノ一組 絶緣臺 金箱驗電器 電氣振子 電氣盆 ういひ
 しやーすと起電機(放電ヲ示ス附屬器附) れいでん瓶數箇 (大小又分解シ得ルモノヲ含ム)
 放電子 電氣ノ表面ニノミアルコトヲ示ス裝置
 ぶんせん、だににる、乾電池等ノ電池各數箇 鏡附高抵抗電流計(らんぶすげーる附) 正切電流計
 粗製電流計 それのいど あんべーる臺 電磁石 電鈴 もーるす印字機 受話器
 微音送話器 抵抗箱 すらいどぶらつち 感應ヲ示スこいる一組 感應こいる がいす
 れる管 くるーくす管(又線ニ使用シ得ルモノ) 靑酸白金ばらうひすくりーん はんぞだい
 なる もーどる 白熱電燈 あーく燈 さーもばいる 電氣分解器 絶緣不絶緣ノ銅線

數種

器械及其ノ標本ハ總テノ種類ノモノヲ完備スルコトヲ得ハ甚タ好都合ナルコト勿論ナレトモ經費等ノ
 事情ニ依リ之ヲ許サ、ルコト多シ宜ク輕重ヲ察シテ之ヲ選擇スヘシ次に學クル所ハ此選擇ヲナスニ當
 リ考フヘキ主要ノ點ナリ
 器械ニハ其ノ製作上甚タ精巧ナルモノト然ラサルモノトアリ例ヘハ前者ニハるゝむこるふ受應こいる
 ノ如キアリ後者ニハ作用ト反動トヲ示ス器ノ如キアリ而シテ感應こいるノ如キ精巧ナルヘキ性質ノモ
 ノニシテ唯々外觀ノミ美ニシテ其ノ用ヲナサルモノアリ此種ノモノハ價ヲ吝マズ其好ノモノヲ購入
 スヘシ分光器ノ如キモ不長ノモノヲ購入シテふらうんほーにる線ヲ示スコト能ハサリ例アリ又
 精巧ヲ要セサル性質ノモノニシテ徒ニ華美ナル臺ヲ附ケ柱ヲ立テ金具ヲ以テ飾リ強クテ外觀ノ美ヲ尙
 フモノアリ是等ノ器械ヲ購入スルハ全ク無用ノ業ナレハ極メテ粗製ノモノヲ有スレハ可ナリ
 作用ト反動トヲ示ス器ノ如キハ粗製ニテ可ナルコトヲ述ヘタレトモ尙一步進ミテ考フルトキハ此ノ如
 キモノハ殆ト購入ノ價値ナキモノナリ是等ノ器械ハ教室ニ備ヘ置クヘキすたんど及象牙球又ハ水球等
 ナ用ヒテ隨時裝置シ得ヘキナリ特ニ注意スヘキハ新ラシキ事實現象ヲ示スニ一々特種ノ器械又ハ裝置
 ナ用フルトキハ生徒ハ此ノ如キ器械ニ非サレハ是等ノ事實現象ヲ學ビ得サルモノト考フルニ至ルコト
 アリ故ニ止ムヲ得サル場合ニ於テ特別ノ器械裝置ヲ用フルトキハ充分ニ生徒ヲシテ其ノ精巧ノ器械裝
 置ヲ要スル所以ヲ悟ラシメ然ラサル場合ニ於テハ成ルヘキ丈ケ勿體ラシキ器械裝置ヲ使用セサル様ニ
 スヘシ

化學ニ關スルモノ

酒精燈及酒精噴燈若ハ瓦斯燈 化學天秤及分銅 寒暖計 木栓壓搾器 木栓穿孔器 圓形

鑷 三角形鑷 鉗 小刀 吹管 吹管用燈 磁製及鉛製坩堝 坩堝架 足踏鞴
 手鞴 燃燒匙 燃燒管 乳鉢及乳棒 漏斗及漏斗臺 びべつと びゆれつと及びゆれつ
 と臺 れとると及れとると臺 冷却器及冷却器臺 木製及金屬製架臺 三脚臺 湯煎器
 水浴 空氣浴 調度圓筒 量液瓶 挾止 挾子 活栓付硝子管 水槽 瓦斯溜
 きつと氏氣體發生器 U字形乾燥器 塔狀乾燥器 乾燥放冷器 有口硝子鐘 有底圓筒
 炭酸定量器 水ノ電解器 鹽化水素ノ電解器 加里球 あひるにあ容積成分測定器
 鹽化水素容積成分測定器 ゆいぢらめーとる 驗氣器 滲透壓實驗器 示差寒暖計 溶液
 沸點測定器 溶液水點測定器 びりかー 蒸發皿 時計皿 廣口硝子壺 狭口硝子壺
 丸底硝子瓶 平底硝子瓶 三口壺 二口壺 安全管 漏斗管 活栓付漏斗管 硝子
 板 硝子管 硝子棒 試驗管 びび管 濾紙 白金線 銅線 木栓 金網 其
 ノ他ノ諸材料
 次ノ諸製造等ノ裝置機關ヲ示ス模型又ハ掛圖
 硫酸製造 あるかり製造 石炭ノ乾溜 陶磁器窯 反射爐 鼓風爐 製鋼爐 鑛造
 蔗糖製造

化學藥品ハ之ヲ示サスト雖モ此要目ニ關スルモノニシテ保存ニ不便ナルモノ若ハ高價ナルモノ、外ハ
 必ズ之ヲ備ベ其ノ品質ニ依リ或ハ之ヲ標本用トシ或ハ兼ネテ之ヲ試驗用トスヘシ
 法制及經濟

第五學年

每週二時

法制

法制、經濟及道德

國體及政體

天皇

皇位繼承 大權

臣民

國籍 臣民ノ權利義務

帝國議會

議會ノ組織、權限

國務大臣及樞密顧問

司法裁判所

議會ノ召集、會期、開會、閉會、停會及衆議院ノ解散

行政

裁判所 辨護士、執達吏、公證人 民事訴訟、刑事訴訟及非訟事件

外務行政

內務行政 財務行政 軍事行政 教育行政 農商務行政 遞信行政

府縣

地方長官附警視總監 府縣會 府縣參事會

郡

郡長 郡會 郡參事會 市町村

市長、町村會 市參事會 市長、町村長

第四編 中學校及高等女學校

行政ヲ授クル際適當ノ機會ニ於テ臺灣總督及北海道廳長官ニ關スル事項ヲ知ラシムヘシ

行政裁判所 訴訟

人及法人

未成年者 禁治產者 準禁治產者 法人

物權

物權ノ性質 物權ノ主要ナル種類

債權

債權ノ性質 債權ノ主要ナル原因

親族

親等 家 親子 親權 後見 婚姻 扶養ノ義務

相続

家督相続 遺產相続 遺言

經濟

經濟上主要ナル概念

生産

生産ノ要素 分業及協力 企業 機械 競争

交換

物價附市場 貨幣及現行貨幣制度 信用及信用證券 銀行 貿易 交通

分配

地代 利子 賃銀 利潤

消費

消費ノ種類 家計 勤儉貯蓄 保險

財政

豫算 租稅 公債

前記ノ事項ハ必シモ順序ヲ追ヒテ授クルコトヲ要セス便宜分合シテ之ヲ授クルコトヲ得特ニ日常ノ生活上出來スヘキ事實(例ヘハ法制ニ於テ選舉、貸借等經濟ニ於テ賃銀、家計等)ノ中ヨリ適當ノ題目ヲ選ビ之ニ就キテ前記ノ諸項若ハ數項ヲ授クルカ如キハ生徒ノ興味ヲ増シ理會ヲ助クル益アルヘシ

教授上ノ注意

一 法制及經濟ハ理論ニ馳セス學說ニ泥マス日常生活ノ事實ニ關聯シテ之ヲ授ケ國民的經濟的思想ヲ養ハントトヲ要ス

二 統治及行政機關ノ組織、作用ヲ授クルニハ各種ノ地位職業ニ應ジテ實踐上必須ナル臣民ノ權利義務、

其ノ他警察租稅、手數料、兵役、條約、戶籍等ニ關スル主要ナル行政事務ヲ知ラシムヘシ

三 私法ニ關スル諸目ニ於テハ唯々民事ニ關スル事項ヲ授クルノミナラス商事ノ概念(例ヘハ法人ノ目

ニ於テ商事會社ノ種類性質等、債權ノ目ニ於テ商事上ノ債權債務等)ヲモ併セ授クヘシ

四 經濟ニ於テハ主要ナル經濟上ノ現象及其ノ理法ヲ授クルト共ニ現時ニ於ケル我國經濟上ノ狀態ヲモ知ラシムヘシ

五 財法ニ關スル諸目ニ於テハ單ニ國家ノ財政ノミニ止ラス市町村其ノ他地方團體ノ財政ヲモ説キ法制

第四編 中學校及高等女學校

四五〇

- ニ於テ授ケタル是等ノ團體ノ概念ヲ補修セシムヘシ
- 六 法制ト經濟トハ教授上相關聯シテ互ニ補充スヘキハ勿論又他ノ學科目トノ連絡ヲ圖リ特ニ修身、歷史及地理等ト密接ノ關係ヲ保タシムヘシ
- 七 此要目ノ順序ニ依ラス日常生活ノ事實ヲ基礎トシテ教授スル場合ト雖モ目的ヲ誤マラサランコトハ勿論教材ノ連絡ヲ闕キ生徒ニ正確ナル思想ヲ得シメサル弊ニ陥ラサランコトニ留意スヘシ

圖畫

第一學年

每週一時

自在畫

寫生畫、臨畫

簡單ナル幾何形體、器具、植物、動物ノ類

第二學年

每週一時

自在畫

寫生畫、臨畫

前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ又生徒學力ノ進度ニ應ジテ便宜著色畫ヲ加ヘ授クヘシ

用器畫

幾何畫

直線、角、圓、多角形、常用曲線等ニ關スル描法

第三學年

每週一時

自在畫

寫生畫、臨畫

前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ又著色畫ヲ加ヘ授クヘシ

考察畫

寫生畫、臨畫及幾何畫ニ於テ習得シタル技能ヲ應用シテ簡單ナル圖案ノ類ヲ構成セシムヘシ

第四學年

每週一時

自在畫

寫生畫、考察畫

前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ人物景色ノ類ニ及ホスヘシ

用器畫

幾何畫

各種ノ平面形、立體(角錐、角錐、圓錐、圓錐)、立體ノ截斷及立體表面ノ展開ニ關スル投影畫法
第五學年ニ於テ圖畫ヲ加ヘタルトキハ前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ又透視畫法ノ一斑ヲ授クルコトヲ得

教授上ノ注意

- 一 寫生畫ニ於テハ實物又ハ模型ニ就キ生徒ヲシテ視像ノ形狀、陰影及色ヲ正シク判斷スルコトヲ習ハシメ且物體ノ位置距離等ニ從ヒテ視像ノ異ルコトヲ理解セシメ精確ニ之ヲ模寫スル技能ヲ養フヘシ
- 二 寫生畫ヲ授クルニハ成ルヘク先ツ教員自ラ模範畫ヲ示シテ其ノ布置描法ヲ説明スヘシ
- 三 臨畫ハ寫生畫ト圖畫シテ之ヲ授ケ教授ノ際成ルヘク先ツ實物ヲ示シ臨本ニ對照シテ説明ヲ加フヘシ
- 四 臨本ハ正格ナル畫法ニ基キ奇癖ニ陥ル嫌ナキモノタルヘシ

第四編 中學校及高等女學校

四五二

- 五 書題ハ成ルヘク他ノ學科目ト教授上ノ連絡ヲ圖リ應用ノ廣キモノ又ハ生徒ノ趣味ヲ養フニ足ルモノヲ選ヒ其ノ高尚ニ過クルモノ或ハ鄙陋ニ涉ルモノハ之ヲ避クヘシ
- 六 生徒ヲシテ常ニ姿勢及執筆ヲ正シクセシムヘシ
- 七 生徒ヲシテ成ルヘク名畫ノ類ヲ見シメンコトニ留意スヘシ
- 八 生徒ヲシテ常ニ器具ノ整頓及保存ニ注意セシムヘシ
- 九 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ

- 臨本 幾何立體ノ模型 動物、植物及人物ノ模型 寫生用實物 畫板 筆洗 繪具匣
- 圖引器械 黑板用こんばす 黑板用各種ノ定規 投影畫法ヲ示ス裝置 寫生畫教授用トシ
- テ透視畫法ノ説明ニ用フル簡單ナル裝置

唱歌

第一學年

每週一時

普通樂譜法

- 雪中行軍(中學唱歌) 運動會(同上) 明日は日曜(同上) 朋友(國教唱歌集) 朝起の鐘(中學唱歌)
- 駒の蹄(同上) 雲雀(同上) 牛ふぶ童(同上) 我等は中學一年生(同上) 前途萬里(同上)
- 占守嶼(同上) 夏やすみ(同上)

第二學年

每週一時

普通樂譜法

- 太平洋(中學唱歌) 四季の朝(同上) 寄宿舎の古釣瓶(同上) 大皇國(國教唱歌集) 馬上の少年(中學唱歌)
- 旅路の愉快(同上) 告別(同上) 義勇奉公(國教唱歌集) 箱根八里(中學唱歌)

松下清水(同上)

去年今夜(同上)

七剣八起(國教唱歌集)

第三學年

每週一時

普通樂譜法

- 豐太閤(中學唱歌) 荒城月(同上) 遠別離(同上) 昇る日(國教唱歌集) 甲鐵艦(中學唱歌)
- 小川の流(同上) 歸雁(同上) 世界はひろし(輪唱)(重音唱歌集) 樂しき教場(中學唱歌)
- 今は學校後に見て(同上) 御國の民(中等唱歌集) 植生の宿(復音又重音)(同上)
- 前記各學年ニ配當シタル歌曲ハ其ノ程度ヲ示スニ止マレハ便宜之ヲ交換加除スルコトヲ得要スルニ歌詞曲譜ハ其ニ生徒ノ知識感情ニ適應シタルモノニシテ歌詞ハ特ニ趣味ニ富ミタルモノ曲譜ハ音域廣カラスシテ成ルヘク爽快ナルモノタルヘシ
- 祝日、大祭日、其ノ他國家ノ典禮、學校ノ儀式ニ關スル歌曲ハ別ニ其ノ曲名ヲ標ケスト雖モ機會アル毎ニ歌メ之ヲ授クヘシ

教授上ノ注意

- 一 氣息演習、發音演習、拍子演習、調子演習、發想演習等ハ之ヲ遺漏ナク併セ授クルニハ樂譜ニ依ルコト最モ便ナレハ唱歌教授ノ際歌曲ト附帶シテ之ヲ授クヘシ
- 二 唱歌ヲ授クルニハ常ニ生徒ノ感情ヲ興起センコトニ留意シ其ノ品位ヲ高雅ニシ氣韻ヲ雄大ナラシメシテ成ルヘク力ムヘシ
- 三 唱歌ヲ授クルニハ其ノ數ノ多キヲ求メスシテ十分之二熟達セシメ其ノ歌詞ヲ永ク記憶セシメンコトヲ要ス
- 四 生徒ヲシテ唱歌セシムル際常ニ姿勢ニ注意セシメ又成ルヘク教員及樂器ニ依頼スルコトナカラシム

第四編 中學校及高等女學校

四五三

第四編 中學校及高等女學校

四五四

- 五 生徒中聲嘶、咳嗽等ノ疾患アル者及變聲期ニ際セル者ニハ便宜唱歌ヲ免除スヘシ
- 六 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ
 - 風琴、洋琴又ハばいおらん
 - 譜表ヲ記入シタル黑板
 - 掛圖
 - 掛圖臺
 - 調音叉
 - めとろのー
 - ひ 譜表臺
 - 體操

第一學年

每週三時以上

普通體操

- 同矯正術
- 徒手體操
- 啞鈴體操

兵式體操

- 徒手柔軟體操
- 徒手各個教練
- 徒手小隊教練

第二學年

每週三時以上

普通體操

- 矯正術
- 徒手體操
- 啞鈴體操
- 球竿體操
- 棍棒體操

兵式體操

- 徒手柔軟體操
- 徒手各個教練
- 徒手小隊教練
- 徒手中隊教練

第三學年

每週三時以上

普通體操

前學年ニ同シ

兵式體操

- 徒手柔軟體操
- 徒手各個教練
- 徒手小隊教練
- 徒手中隊教練
- 器械體操
- 號令演習

第四學年及第五學年

每週三時以上

普通體操

前學年ニ同シ

兵式體操

- 柔軟體操
- 各個教練
- 小隊教練
- 中隊教練
- 器械體操
- 號令演習

教授上ノ注意

- 一 體操ヲ授クルニハ先ツ其ノ運動ノ目的筋肉ノ使用部等ヲ精ク説明シ然ル後正確ニ其ノ模範ヲ示シテ之ニ倣ハシムヘシ
- 二 一運動ヲ始メテ授クル場合ニハ精密ニ注意シテ些少ノ誤謬タリトモ寛假スルコトナク之ヲ矯正スヘシ
- 三 體操ヲ授クルニハ生徒ノ體力ニ留意シ過度ノ運動ヲナサシムヘカラス虚弱ナル生徒ニハ特ニ留意シテ始ヨリ強キ運動ヲナサシメス漸次之ニ堪フルニ至ラシムヘシ
- 四 既ニ授ケタル運動ハ反復練習シテ之ニ熟達セシムヘシ然レトモ長時間連續シテ同一ノ運動ノミヲナサシムヘカラス
- 五 塵埃ノ充滿シタル場所又ハ酷暑ノ時日光ノ直射ヲ受クル場所ニ於テ運動セシムルコトハ之ヲ避クヘシ
- 六 器械體操ハ普通演習又應用演習ヲ課スヘシ進步セル生徒ニハ特別演習ヲ課スルコトヲ得

第四編 中學校及高等女學校

四五五

第四編 中學校及高等女學校

四五六

- 七 體操教授時間ニ於テ運動ヲ行フコト能ハサルトキハ遊戲ノ方法ヲ説明シ其ノ他體育ニ關スル講話ヲナシ又ハ軍事學ノ大要ヲ授クヘシ
- 八 哑鈴ノ用ハ敏捷ナル運動ヲサシムルニ在レハ其ノ重量重キニ過クハカラス棍棒ハ之ニ反シ緩徐ニシテ多ク力ヲ要スル運動ヲサシムルモノナレハ其ノ重量輕キニ失スヘカラス
- 九 器械體操場ノ敷砂ハ常ニ軟ニナシ置クヘシ
- 十 生徒ヲシテ常ニ器械ノ整頓及保存ニ注意セシムヘシ
- 十一 體操教授時間外ニ於テモ常ニ生徒ノ姿勢ニ留意シ又適宜各種ノ遊戲運動ヲ獎勵スヘシ
- 十二 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ

- 哑鈴 球竿 棍棒 銃及附屬品 軍刀及附屬品 背囊 喇叭 銃ノ分解品 洗矢
- 鐵棒 木馬 柵 手摺 跳繩 跳臺 梁木

○秋田縣中學校規則

(明治四十一年七月
秋田縣令第五十八號)

第一章 學科、學科課程及教授時數

第一條 中學校ノ學科目ハ修身、國語及漢文、外國語、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、法制及經濟、圖畫、體操トス

外國語ハ英語トス

第二條 學科課程及每週教授時數ハ左表ノ如シ

學科	學年	每週教授時數	一學年	二學年	三學年	四學年	五學年
修身	一	一	一	一	一	一	一
國語及漢文	一	七	七	七	六	六	六
外國語	一	六	六	七	七	七	七
歷史地理	一	三	三	三	三	三	三
數學	一	四	四	四	四	四	四
博物	一	二	二	二	二	二	二
物理及化學	一	二	二	二	二	二	二
修身	二	一	一	一	一	一	一
國語及漢文	二	七	七	七	六	六	六
外國語	二	六	六	七	七	七	七
歷史地理	二	三	三	三	三	三	三
數學	二	四	四	四	四	四	四
博物	二	二	二	二	二	二	二
物理及化學	二	二	二	二	二	二	二
修身	三	一	一	一	一	一	一
國語及漢文	三	七	七	七	六	六	六
外國語	三	六	六	七	七	七	七
歷史地理	三	三	三	三	三	三	三
數學	三	四	四	四	四	四	四
博物	三	二	二	二	二	二	二
物理及化學	三	二	二	二	二	二	二
修身	四	一	一	一	一	一	一
國語及漢文	四	六	六	六	六	六	六
外國語	四	七	七	七	七	七	七
歷史地理	四	三	三	三	三	三	三
數學	四	四	四	四	四	四	四
博物	四	二	二	二	二	二	二
物理及化學	四	二	二	二	二	二	二
修身	五	一	一	一	一	一	一
國語及漢文	五	六	六	六	六	六	六
外國語	五	七	七	七	七	七	七
歷史地理	五	三	三	三	三	三	三
數學	五	四	四	四	四	四	四
博物	五	二	二	二	二	二	二
物理及化學	五	二	二	二	二	二	二

第四編 中學校及高等女學校

四五七

第四編 中學校及高等女學校

四五八

計	二七	二七	二八	三〇	三〇
體操	三 普通體操 兵式體操	三 同上	三 同上	三 同上	三 同上
圖畫	一 自在畫	一 同上	一 自在畫	一 同上	二 法制經濟
法制及經濟					
學期			第三四		

前表ノ外第一學年乃至第三學年ニ三時第四第五學年ニ二時ヲ加ヘ其ノ時數ハ學校長ニ於テ適宜國語及漢文、圖畫、外國語、數學ニ配當スヘシ

第三條 教授終始ノ時刻ハ學校長之ヲ定ムヘシ

第二章 休業日及式日

第四條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一、祝日大祭日
- 二、日曜日
- 三、夏季休業日
自七月二十一日
至八月三十一日
- 四、冬季休業日
自十二月二十五日
至翌年一月七日
- 五、學年末休業日
自三月二十五日
至三月三十一日

六、學校紀念日

第五條 式日ニハ左ノ式ヲ行フヘシ

- 一、職員及生徒「君が代」ヲ合唱ス
- 二、職員生徒ハ
天皇陛下
皇后陛下ノ御影ニ對シ奉リテ敬禮ヲ行フ

- 三、學校長ハ教育ニ關スル勅語ヲ捧讀ス
- 四、學校長ハ教育ニ關スル勅語ニ基キ聖旨ノ在ル所ヲ報告ス

第三章 入學及退學

- 第六條 生徒入學ノ時期及募集人員ハ學校長之ヲ廣告スヘシ
- 第七條 品行端正身体健康ノ者ニアラザレバ入學スルコトヲ許サス
- 第八條 入學願書及履歷書ハ第一號書式ニ依ルヘシ
- 第九條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ第二號書式ノ在學證書ヲ差出スヘシ
- 第十條 保證人ハ二名トシ一名ハ父母後見人又ハ親屬一名ハ學校所在地一里以內ニ居住スル男子タルハ
- 第十一條 保證人ハ成年以上ニシテ相當ノ職業又ハ資産ヲ有シ一戸ヲ構ヘ治産ノ禁ヲ受ケス且生徒ノ身元ヲ引受ケ之レヲ保護監督ノ責ヲ負フニ足ルモノトス
- 第十二條 保證人轉居改印等ヲ爲シタルトキハ其ノ都度届出ツヘシ
- 第十三條 保證人旅行セントスルトキハ相當ノ代理者ヲ立テ其ノ住所氏名ヲ届出ツヘシ

第四編 中學校及高等女學校

四五九

第四編 中學校及高等女學校

四六〇

第十四條 保證人中死亡シ又ハ第十條第十一條ノ資格ヲ失ヒタル者アルトキハ更ニ保證人ヲ定メ在學證書ヲ差出スヘシ

第十五條 學校長ニ於テ保證人又ハ其ノ代理者ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ更ヘシムルコトアルハシ

第十六條 生徒疾病事故等ニ依リ轉學若クハ退學セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ノ上願出ツヘシ

第四章 課程ノ修了及卒業ノ認定

第十七條 各學科目ノ成績ハ點數ヲ以テ之ヲ表シ一百ヲ以テ最高點トス

學校長ハ學科目ノ種類ニヨリ一學科目ヲ割キテ數分科トナシ其ノ各分科ヲ以テ一學科目ト見做シ點數ヲ定ムルコトヲ得

第十八條 各學期末及學年末ニ於テハ各學科目ノ成績點ヲ定ムヘシ各學科目ノ成績點ハ試験點ニ依リ又ハ日課點及試験點ヲ斟酌シテ之ヲ定ムルモノトス但國語及漢文、外國語、數學、圖畫、体操ニ就キテハ日課點ノミニ依ルコトヲ得

正當ノ事由ニ依リ試験ニ缺席シタル者ニ對シ課程ノ修了及卒業ヲ認ムル場合ハ平素ノ學業ノ成績ヲ考査シテ其ノ成績點ヲ定ムヘシ

第十九條 一學年間ノ各學科目ノ成績點ヲ定ムルニハ第一第二學期ノ成績點ヲ合算シ之ヲ二除シタルモノト學年末ノ成績點トナシ加ヘ更ニ二除スルモノトス

但日課點ノミニ依リ成績點ヲ定メタル學科目ニアリテハ第一第二及第三學期ノ成績點ヲ合算シ之ヲ三除スルモノトス

第二十條 課程ノ修了及卒業ヲ認ムルニハ各學科目ノ學年成績五十點以上ニシテ成績總平均點六十點以上ヲ得タルモノトス但一科目ノ成績點四十點以上五十點未滿ノモノ三科目以內ナルモノニ限リ平素ノ成績ニヨリ認定スルコトアルヘシ

第二十一條 卒業證書ハ第三號書式ニ依ルヘシ

第五章 特待生

第二十二條 第二學年以上ノ生徒ニシテ性行善良學力優等ナルヲ選抜シテ特待生トス

特待生タル期間ハ一學年トシ其ノ間授業料ヲ免ス

第二十三條 學校長ハ每學年末ニ於テノ學年ノ成績ニヨリ次學年ノ特待生ヲ定ムヘシ

第二十四條 特待生ノ數ハ六百名定員ノ學校ニ在リテハ十五名以內四百名定員ノ學校ニ在リテハ十名以內トス

第二十五條 學校長ニ於テ特待生ノ資格ヲ失ヒタリト認メタル者アルトキハ其ノ待遇ヲ解クヘシ

特待生ノ待遇ヲ解キタルトキハ其ノ翌月ヨリ授業料ヲ徵收スヘシ

第六章 懲戒及賠償

第二十六條 學校長ハ生徒ニシテ規則訓示ニ違背シ其ノ他生徒タルノ本分ヲ失スル行爲アリト認メタル者アルトキハ之ヲ懲戒スヘシ

第二十七條 懲戒ハ證實、留置、禁足及停學ノ四トス

留置、禁足ノ期間ハ一週以內トス、停學ノ期間ハ一箇年以內トス

第二十八條 學校長ハ學校所屬ノ建設物物品等ヲ毀損亡失又ハ汚染シタル生徒ニ對シ現品若クハ代價ヲ辨償セシメ又ハ其ノ修繕費ヲ徵收スヘシ

第七章 授業料

第四編 中學校及高等女學校

四六一

第四編 中學校及高等女學校

第二十九條 授業料ハ一ヶ月金壹圓五拾錢トス

第三十條 授業料ハ左ノ期日內ニ其ノ月分ヲ徴收ス但其ノ前ニ退學スル者及其ノ後ニ入學スル者ニ就テハ即時ニ徴收スヘシ

- 一 三月、七月、十二月ハ十日ヨリ十五日迄
- 二 其他ノ月ハ二十一日ヨリ二十八日迄

縣立中學校間ノ轉學者ニ就キテハ轉學前ノ學校ニ於テ其ノ月分全額ヲ徴收スヘシ

正當ノ事由ナクシテ期日內ニ納付セサル者ハ登校ヲ停止シ未納十五日ニ及フトキハ其ノ學籍ヲ除ク

第三十一條 所定ノ休業其ノ他學校ノ都合ニ依リ課業ヲ授ケサルコト全月ニ亘リタル場合ニ限り其月分ノ授業料ヲ徴收セス

第八章 寄宿舍

第三十二條 生徒ハ總テ寄宿舍ニ入ルヘキモノトス

但學校長ニ於テ通學ヲ許シタルモノハ此限リニアラス

第三十三條 寄宿生徒ハ第四號書式ノ在舍證書ヲ差出スヘシ

第三十四條 膳料其ノ他寄宿ニ要スル費額及其ノ出納方法ハ學校長之ヲ定ムヘシ

第三十五條 寄宿生徒管理ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ムヘシ

第九章 補習科

第三十六條 補習科ノ修業期間ヲ六月トス

第三十七條 補習科ノ每週教授時數ヲ二十一時トシ第一條ノ學科目ノ中ニ就キ學校長適宜配當スヘシ

學科目及教授時數ノ配當ヲ定メタルトキハ直ニ知事ニ報告スヘシ其ノ變更ヲナシタルトキ亦同シ

第三十八條 補習科生徒ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ學籍ヲ除ク

一、引續キ一ヶ月以上缺席シタルモノ

二、正當ノ事由ナクシテ一週間以上缺席シタル者

三、出席常ナラサル者

附則

第三十九條 本章ニ規定ノ外ハ前各章ノ規定ヲ準用ス

第四十條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第四十一條 明治三十四年秋田縣令第二十九號明治三十七年秋田縣令第十一號明治三十七年秋田縣令第十二號明治三十九年秋田縣令第七十六號ハ之ヲ廢止ス

(第一號書式)

入學願書

私儀今般御校第何學年ニ入學志願ニ付御許可相成度別紙履歷書及卒業證書寫(若クハ修業書寫)戶籍謄本相添此段相願候也

年 月 日

本籍道府縣郡市町村番地族稱

現居所同上

何某何男(兄弟等)又ハ戶主

入學志願者 氏

名 印

本籍道府縣郡市町村番地族稱

第四編 中學校及高等女學校

第四編 中學校及高等女學校

四六四

現居所同上

右父母祖父等又ハ後見人

氏

名印

秋田縣立々々中學校長氏名殿

履 歷 書

本籍道府縣郡市町村番地族稱

現居所同上

何某何男(兄弟等)又ハ戶主

氏

名

生年月日

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何所何學校ニ於テ又ハ某ニ就キ何學科修業

一 何年何月何學校ニ於テ何科卒業

一 賞罰

右之通相違無之候也

年 月 日

右

氏

名印

(第二號書式) (用紙美濃紙)

收 入 印 紙

在 學 證 書

私儀今般御校へ入學御許可相成候ニ於テハ御規則御告諭等堅ク可相守ハ勿論遊リニ退學致開致且在學中ニ係ル一切ノ件ハ保證人ニ於テ引受可申仍テ保證人連署ノ上證書如斯候也

年 月 日

本籍道府縣郡市町村番地族稱

現居所同上

何某何男(兄弟等)又ハ戶主

氏

名印

生年月日

本籍道府縣郡市町村番地族稱

現居所同上

族稱職業

右父母祖父等又ハ後見人

保證人 氏

名印

生年月日

秋田縣郡市町村番地

族稱職業

保證人 氏

名印

生年月日

秋田縣立何々中學校長氏名宛

第四編 中學校及高等女學校

四六五

第四編 中學校及高等女學校

(保證人ノ身元證明書式)

右保證人何某ハ當市町村內ニ居住シ成年以上ニシテ一戸ヲ構ヘ治産ノ禁ヲ受ケス保證ノ責ニ堪フヘキ者ニ相違無之候也

年 月 日

道府縣郡市町村長 氏

名 印

(第三號書式)

番 號	卒業證書	族 籍	氏 名
校 印			生年月日
中學校ノ全學科ヲ卒業セリ仍テ之ヲ證ス			
年 月 日	秋田縣立何中學校長位勳爵氏名印		

(第四號書式) (用紙美濃紙)

在 舍 證 書

私儀今般御校寄宿舍へ入舍仕候ニ付テハ御舍則御告諭等堅ク可相守ハ勿論在舍中ニ係ル一切ノ件ハ保證人ニ於テ引受可申仍テ保證人連署ノ上證書如斯候也

年 月 日

第何學年生徒 氏 名 印

現居所族稱

右父母(祖父兄等)又ハ後見人 氏 名 印

保證人 氏 名 印

現居所族稱

保證人 氏 名 印

秋田縣立何々中學校長氏名宛

○高等女學校令

(明治三十二年二月) 勅令第三十一號

第一條 高等女學校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 北海道及府縣ニ於テハ高等女學校ヲ設置スヘシ

前項ノ校數ハ土地ノ情況ニ應シ文部大臣ノ指揮ヲ承ケ地方長官之ヲ定ム

第三條 前條ノ高等女學校ノ經費ハ北海道及沖繩縣ヲ除ク外府縣ノ負擔トス

第四條 郡市町村 北海道及沖繩縣ノ區ヲ含ム又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域內小學教育ノ

施設上妨ナキ適合ニ限リ高等女學校ヲ設置スルコトヲ得

第五條 郡市町村立ノ高等女學校ニシテ府縣立高等女學校ニ代用スルニ足ルヘキモノアルトキハ地方長

第四編 中學校及高等女學校

第四編 中學校及高等女學校

官ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ府縣費ヲ以テ相當ノ補助ヲ與ヘ第二條ノ設置ニ代フルコトヲ得

第六條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ高等女學校ヲ設置スルコトヲ得

第七條 高等女學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

高等女學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 公立高等女學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第九條 高等女學校ノ修業年限ハ四箇年トス但シ土地ノ情況ニ依リ一箇年ヲ延長スルコトヲ得

高等女學校ニ於テハ二箇年以内ノ補習科ヲ置クコトヲ得

第十條 高等女學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ之

ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第十一條 高等女學校ニ於テハ女子ニ必要ナル技藝ヲ專修セントスル者ノ爲ニ技藝專修科ヲ置クコトヲ得

高等女學校ニ於テハ其ノ卒業生ニシテ某學科ヲ專攻セントスル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得

第十二條 高等女學校ノ學科及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十三條 高等女學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ

定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スルノ必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經

テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

高等女學校教科書ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 高等女學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ但シ文部大臣ノ定

ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等女學校教員ノ免許ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十五條 公立高等女學校職員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則ハ別段ノ規程アルモノヲ除クノ外

地方長官之ヲ定ム

第十六條 高等女學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 公立高等女學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ於テハ之ヲ減免スルコトヲ得

授業料入學料等ノ額ハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ文部大臣

ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十八條 本令ノ規定ニ依ラサル學校ハ高等女學校ト稱スルコトヲ得ス

第十九條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

第二十條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令施行ノ日ヨリ四箇年以内第二條ノ設置ヲ延期スルコトヲ得

○高等女學校令施行規則

(明治三十四年三月 文部省令第四號)

第一章 學科及其ノ程度

第一條 高等女學校ノ學科目ハ修身、國語、外國語、歷史、地理、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、音

樂、體操トス

外國語ハ英語又ハ佛語トス

外國語ハ之ヲ缺キ又ハ隨意科目ト爲スコトヲ得

第四編 中學校及高等女學校

第四編 中學校及高等女學校

四七〇

圖畫、音樂ノ一科目又ハ二科目ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺クコトヲ得
第一項ノ學科目ノ外交部大臣ノ認可ヲ受ケ隨意科目トシテ土地ノ情況ニ依リ必要ナル學科目ヲ加フル
コトヲ得

生徒身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル學科目ハ之ヲ其ノ生徒ニ課セサルコトヲ得

第二條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ中等以上ノ社會ニ於ケル女子ニ必要ナル品格ヲ具ヘシメンコトヲ期シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身ハ初ハ嘉言善行等ニ徴シ又生徒日常ノ行狀ニ因ミテ道德ノ要領ヲ教示シ又作法ヲ授ケ進ミテハ稍々秩序ヲ整ヘテ自己、家族、社會及國家ニ對スル責務ヲ知ラシムヘシ

第三條 國語ハ普通ノ言語、文書ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ得シメ文學上ノ趣味ヲ養ヒ兼テ智徳ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語ハ現時ノ文章ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ノ文章ニ及ホシ又實用簡易ナル文ヲ作ラシメ文法ノ大要及習字ヲ授クヘシ

第四條 外國語ハ普通ノ英語又ハ佛語ヲ了解シ且之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ兼テ知識ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字ヨリ始メ簡易ナル文章ノ讀方、譯解、書取、作文ヲ授ケ進ミテハ普通ノ文章ニ及ホシ又文法ノ大要、會話及習字ヲ授クヘシ

第五條 歴史ハ歴史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷、文化ノ由來ヲ理會セシメ特ニ我國ノ發達ヲ詳ニシ國體ノ特異ナル所以ヲ明ニスルヲ以テ要旨トス

歴史ハ我國ノ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ重要ナル事蹟ヲ授ケ兼テ外國歴史ノ大要ヲ授クヘシ

第六條 地理ハ地球ノ形狀、運動並ニ地球表面及人類生活ノ狀態ヲ理會セシメ我國及諸外國ノ國勢ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ日本地理並ニ我國ト重要ノ關係アル諸外國ノ地理ノ大要ヲ知ラシメ兼テ地文ノ一斑ヲ授クヘシ

第七條 數學ハ數量ノ關係ヲ明ニシ計算ニ習熟セシメ兼テ生活上必要ナル事項ヲ知ラシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ算術ヲ授クヘシ又必要ニ應シ代數ノ初歩及幾何ノ初歩ヲ授クルコトヲ得

第八條 理科ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則並ニ其ノ相互及人生ニ對スル關係ヲ理會セシメ兼テ日常ノ生活ニ資スルヲ以テ要旨トス

理科ハ重要ナル植物、動物、礦物ニ關スル一般ノ知識、人體ノ構造、生理及衛生ノ大要並ニ重要ナル物理上及化學上ノ現象及定律、器械ノ構造及作用、元素及化合物ニ關スル知識ヲ授クヘシ

第九條 圖畫ハ物體ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ能ヲ得シメ意匠ヲ練リ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

圖畫ハ自在畫トシ寫生畫ヲ主トシ臨畫ヲ加ヘ授ケ又時々自己ノ考案ヲ以テ畫カシムヘシ

第十條 家事ハ家事整理上必要ナル知識ヲ得シメ兼テ勤勉、節儉、秩序、周密、清潔ヲ尙フノ念ヲ養フヲ以テ要旨トス

家事ハ衣食住、看病、育兒、家計簿記其ノ他一家ノ整理、經濟等ニ關スル事項ヲ授クヘシ

第十一條 裁縫ハ裁縫ニ關スル知識技能ヲ得シメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

裁縫ハ普通ノ衣類ノ縫ヒ方、裁キ方及繕ヒ方ヲ授クヘシ

第四編 中學校及高等女學校

四七一

第四編 中學校及高等女學校

四七二

第十二條 音樂ハ音樂ニ關ル知識技能ヲ得シメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ兼テ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

音樂ハ單音唱歌ヲ授ケ又便宜輪唱歌及復音唱歌ヲ交ヘ樂器使用法ヲ授クヘシ

第十三條 体操ハ身体ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメテ之ヲ強健ナラシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ容儀ヲ

整ヘ精神ヲ快活ニシ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

体操ハ普通体操及遊戯トシ普通體操ニ於テハ矯正術、徒手体操、懸鈴体操ヲ授ケ又便宜球竿体操及豆

莢体操ヲ授クヘシ

第十四條

第十五條

第十六條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	學科目			
		第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身		二	二	二	二
國語		六	六	六	五
外國語		三	三	三	三
歷史				三	
地理		三	三	三	三

學科目	學年	學科目						
		第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	計	
數學		二	二	二	二	二	二	
理科		二	二	二	二	二	二	
圖畫		一	一	一	一	一	一	
家事					二		二	
裁縫		四	四	四	四	四	四	
音樂		二	二	二	二	二	二	
體操		三	三	三	三	三	三	
計		二八	二八	二八	二八	二八	二八	

修業年限ヲ延長シタルトキハ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	學科目				
		第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身		二	二	二	二	二
國語		六	六	六	五	五
外國語		三	三	三	三	三

第四編 中學校及高等女學校

四七三

計	體 操	音 樂	裁 縫	家 事	圖 畫	理 科	數 學	地 理		歷 史	
								地	理	地	理
二八	三	二	四		一	二	二	三			
二八	三	二	四		一	二	二	三			
二八	三	二	四		一	二	二	三			
二八	三	二	四	二	一	二	二	二			
二八	三	二	四	四	一		二				二

外國語、圖畫、音樂ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ每週教授時數ハ便宜前二表中ノ學科目ニ配當スヘシ
裁縫ノ每週教授時數ハ六時以內増加スルコトヲ得

第一條第五項ニ依ル加設科目ニ充ツル爲各學年ノ每週教授時數ヲ六時以內増加スルコトヲ得但シ加設
科目中實習ニ關セサルモノニ充ツル爲増加スル時數ハ二時ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ外地ノ情況ニ依リ前二表中各學科目ノ各學年ノ配當又ハ每週教授時數ヲ變更スルノ必要アル
ルトキハ其ノ事由ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ各學年每週教授時數ノ増加時數ハ二時ヲ超ユ
ルコトヲ得ス

前三項ノ規定ニ依リ每週教授時數ヲ増加スルトキハ其ノ増加時數ハ合計六時ヲ超ユルコトヲ得ス

第十七條 補習科ノ學科目ハ第一條ノ學科目中ニ就キ之ヲ定ムヘシ

補習科ノ各學科目ハ隨意科目ト爲スコトヲ得

第十八條 技藝專修科ノ修業年限ハ二箇年乃至四箇年トス

第十九條 技藝專修科ノ學科目及其ノ程度ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

技藝專修科ノ學科目中ニハ修身、國語及體操ヲ加フヘシ

第二十條 專攻科ノ修業年限ハ二箇年又ハ三箇年トス

第二十一條 專攻科ノ學科目及其ノ程度ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 補習科、技藝科專修科及專攻科ノ每週教授時數ハ三十時以內トス

但シ特別ノ事情アルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ三十四時マテ之ヲ増スコトヲ得

第二章 學年、教授日數及式日

第二十三條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

前項ノ規定ハ補習科ニ關シテハ之ヲ適用セス

第二十四條 教授日數ハ毎年二百日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケ

タル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

試験及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第四編 中學校及高等女學校

四七六

第二十五條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲サシムルコトヲ得
前項ノ事由アルトキハ地方長官ハ道府縣立以外ノ高等女學校ノ休業ヲ命スルコトヲ得

第二十六條 紀元節、天長節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編制

第二十七條 高等女學校ノ生徒數ハ四百人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ六百人マテ之ヲ増スコトヲ得
補習科及專攻科ノ生徒數ハ前項ノ生徒數ニ算入セス

第二十八條 學級ハ同學年ノ生徒ヲ以テ之ヲ編制スヘシ

一 學級ノ生徒數ハ五十人以下トス

第二十九條 修身、裁縫、音樂、体操及隨意科目ハ教授上支障ナキ場合ニ限り學科、學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第三十條 教員ノ數ハ五學級以下ノ學校ニ於テハ一學級毎ニ二人以上トシ五學級以上一學級ヲ加フル毎ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ増スヘシ但シ一學級毎ニ一人ハ他ノ職ヲ兼ネス又ハ他ノ職ヨリ兼ネサルコトヲ要ス

第四章 設備

第三十一條 高等女學校ニ於テハ校地、校舍、体操場及校具ヲ備フヘシ

道府縣立高等女學校及之ニ代用スヘキ公立高等女學校ニ於テハ前項ノ外成ルベク寄宿舎ヲ備フヘシ
第三十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ教育上並ニ衛生上害ナキ所タルヘシ

第三十三條 校舍ハ教授上、管理上並ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナランコトヲ要ス

第三十四條 校具ハ圖書、器械、標本模型及表簿等トス

第三十五條 高等女學校ニ於テ備フヘキ表簿ノ種類左ノ如シ

- 一 高等女學校ニ關係アル法令
- 二 學則、日課表、教科用圖書配當表及學校醫視察簿
- 三 職員ノ名簿、履歷書、出勤簿並擔任學科目及時間表
- 四 生徒ノ學籍簿、出席簿及身体檢査ニ關スル表
- 五 試驗ノ問題、答案及成績表
- 六 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書器械器具標本模型ノ目錄
- 七 往復書類

前項ノ表簿中生徒學籍簿ハ十箇年以上之ヲ保存シ其ノ他ノ表簿ハ五箇年以上之ヲ保存スヘシ

第三十六條 土地ノ狀況ニ依リ學校長、舎監及教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第三十七條 校舍、寄宿舎ノ建設又ハ變更ハ道府縣立高等女學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ届出

ツヘシ其ノ他ノ高等女學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ地方長官ニ於テ認可シタルトキハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ届出ツヘシ

第五章 設置及廢止

第三十八條 高等女學校ノ設置ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

一 名稱

二 各學科ノ修業年限

第四編 中學校及高等女學校

四七七

第四編 中學校及女高等學校

三 各學科ノ生徒定員

四 開校年月

五 經費及維持ノ方法

前項ノ事項ノ外公立學校ニ就キテハ地方長官ニ於テ位置ノ認可ヲ申請シ私立學校ニ就キテハ設立者ニ於テ位置ヲ具シ申請スヘシ

第一項第一號乃至第四號及位置ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クベシ但シ第三號ノ變更ニシテ總定員ニ増減ヲ生セザル場合ニ於テハ文部大臣ニ届出ツヘシ

前二項ノ位置ニ關スル申請ニハ校地ノ面積、地質、屋外探場ノ區域、面積并ニ附近ノ情況ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定性分析表ヲ添付スヘシ

第三十九條 高等女學校ノ廢止ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

第四十條 公立高等女學校ノ費用負擔者ヲ變更シ私立高等女學校ヲ公立高等女學校ニ公立高等女學校ヲ私立高等女學校ニ變更セントスルトキハ第三十八條第一項第一號乃至第三號第五號及變更ノ年月日ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六章 入學、在學、退學及懲戒

第四十一條 第一學年入學志願者中尋常小學校ノ課程ヲ卒ラサル者ニ就キテハ試驗ニ依リテ其ノ學力ヲ檢定スヘシ

第一學年入學志願者中尋常小學校ヲ卒リタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チテ入學ヲ許スコトヲ得

第四十二條 前條第一項ノ試驗ハ國語、算術、日本歴史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ

之ヲ行フヘシ

第四十三條 第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ相當年齢ニ達シ相當ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項ノ學力ハ試驗ニ依リテ檢定スヘシ

第四十四條 高等女學校生徒ニシテ退學シタル者一箇年以内ニ其ノ高等女學校若ハ他ノ高等女學校ニ入學ヲ志願シタルトキハ試驗ニ依ラスシテ原學年以下ノ學年ニ入學ヲ許可スルコトヲ得

第四十五條 他ノ高等女學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認めタル場合ニ限り其ノ生徒ノ在學証明書及成績表ヲ移轉先學校ニ送付スヘシ

移轉先學校ニ於テハ缺員アル場合ニ限り前項生徒ノ轉學ヲ許可スルコトヲ得

轉學スル生徒ハ試驗ヲ行ハスシテ同一學年ニ編入スルコトヲ得

第四十六條 各學年ノ課程ノ修了又ハ卒業ヲ認めルニハ平素ノ學業ヲ考查シテ之ヲ定メ又ハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ

第四十七條 補習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ高等女學校ヲ卒業シタル者タルベシ

第四十八條 技藝專修科ノ入學資格ハ年齢十二年以上學力尋常小學校卒業ノ程度以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ

入學ニ關シテハ第四十一條乃至第四十三條ノ規定ニ依ルベシ

第四十九條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十條 學校長ハ修業年限ノ終リニ於テ高等女學校ノ學科ヲ卒業セリト認めタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第五十一條 學校長ハ左ノ各項ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

學校長ハ補習科又ハ專攻科ヲ修了セリト認めタル者ニハ修業證書ヲ授與スルコトヲ得

第四編 中學校及高等女學校

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二 成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三 出席常ナラサル者

第五十二條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第七章 補則

第五十三條 高等女學校ノ學則ヲ定メタルトキハ遲滯ナク文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

- 一、休業日ニ關スル事項
- 二、學科課程、教授時數ニ關スル事項
- 三、課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項
- 四、生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項
- 五、授業料、入學料等ニ關スル事項
- 六、寄宿舎ニ關スル事項

第五十四條 道府縣立以外ノ高等女學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ

前項ノ文書中學校ノ設置及廢止ニ關スル申請ニ就キテハ地方長官ハ其ノ意見ヲ具スヘシ

第五十五條 本令中學校長トアルハ私立學校ニ在リテハ其ノ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ包含ス

第八章 附則

第五十六條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十七條 明治三十四年文部省令第四號高等女學校令施行規則第三十七條及第三十八條ノ規定ハ本令ニ依リ其ノ効力ヲ失フコトナシ

第五十八條 第一條第五項ノ學科目ニシテ從來ノ規定ニ依リ加設セルモノハ總テ本令ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

○高等女學校教授要目

(明治三十六年三月) 文部省訓令第二號

本要目實施上ノ注意

- 一 高等女學校ニ於ケル教授ハ常ニ訓育ト相待チテ高等普通教育ノ目的ヲ達センコトヲ期スヘシ
- 二 教授ハ各學科目固有ノ目的ヲ失ハサルト同時ニ相互ノ連絡ヲ保チ且小學校ノ教科ト關聯シテ全體ノ統一ヲ圖ルヘシ
- 三 教授ハ漫ニ繁多ノ事項ニ涉リ又ハ形式ニ流ル、コトナク生徒ヲシテ正確ニ理會シ應用自在ナラシメシコトヲ期スヘシ
- 四 學科目ノ性質上止ムヲ得サルモノ、外ハ教科書ヲ用ヒテ之ヲ教授スヘシ
教科書ハ常ニ之ヲ活用センコトニ留意シ之カ爲ニ箝束セラレサランコトヲ力ムヘシ
教科書ハ其ノ選擇ヲ慎ミ濫ニ之ヲ變更スルコトアルヘカラス
- 五 教授ハ學年ノ始ニ精シシテ其ノ終ニ粗ナルカ如キ弊ニ陥ラサランコトヲ要ス
- 六 生徒ノ自修ヲ要スル學科目ニ就キテハ豫メ其ノ時間ノ標準ヲ定メ自修ヲシテ一ニノ學科目ニ偏シ若ハ過度ニ陥ルノ弊ナカラシムヘシ
- 七 修業年限ヲ伸縮シタル場合ニ於テハ適宜本要目ヲ斟酌スヘシ

第四編 中學校及高等女學校

第四編 中學校及高等女學校

四八二

八 教授用備品ハ教授上差支ナキ限必シモ正式精緻ノモノタルコトヲ要セス成ルヘク日用品ヲ利用シ又ハ教員自ラ製作シテ之ニ充テシコトヲカムヘシ
諸學科目ニ適スル備品ハ教授上差支ナキ限成ルヘク之ヲ兼用スヘシ必シモ各別ニ之ヲ備フルコトヲ要セス

九 學校所在地ニ圖書室、博物館、工場、試驗場等ノ設アルトキハ之ヲ利用スルコトヲ怠ルヘカラス
修身 第一學年及第二學年 每週二時

道德ノ要領

每週一時

嘉言善行等ニ徴シ生徒日常ノ行狀ニ因ミテ近易ノ事項ヲ授クヘシ其ノ目ハ概ネ次ノ如シト雖必シモ之ニ拘ラス又整然秩序ヲ設クルコトヲ要セス生徒學力ノ進歩ト時機トニ適應シテ實踐ニ適切ナラシムヘシ
生徒心得 該學校ノ規則、師長ニ對スル心得、生徒ノ本分等

衛生ニ關スル心得

運動ヲ勉ムヘキコト、飲食ヲ節制スヘキコト、身體衣類住居ヲ清潔ニスヘキコト等

修學ニ關スル心得

志操ヲ堅固ニスヘキコト、學業ヲ勵ムヘキコト、困難ヲ忍フヘキコト等

朋友ニ對スル心得

信義ヲ重ニスヘキコト、愛憎ヲ以テ交ハルヘキコト、互ニ助力スヘキコト等

起居動作ニ關スル心得

時ヲ貴フヘキコト、秩序ヲ整フヘキコト、禮容ヲ重ニスヘキコト等

物品ニ關スル心得

物品ノ取扱ヲ鄭重ニスヘキコト、節約利用ニ注意スヘキコト等

家庭ニ於ケル心得

父母ニ孝ナルヘキコト、兄弟ニ友ナルヘキコト、婢僕ニ親切ナルヘキコト等

國家ニ對スル心得

國體ヲ尊崇スヘキコト、國法ニ遵フヘキコト、義勇公ニ奉スヘキコト等

社會ニ對スル心得

長者ヲ尊フヘキコト、公德ヲ尚フヘキコト、自己ノ地位職業ニ對スル責任ヲ重ニスヘキコト等

修徳ニ關スル心得

主要ナル諸徳ノ説明及其ノ實踐ノ方法、誘惑ノ危險ナルコト、操持ヲ完クスヘキコト等

作法

每週一時

坐作、進退、應對、受授、進撤ニ關スル心得及實習

寢食、服裝、訪問、迎接、通信、贈答、響應、公會、吉凶、慶弔、忌服等ニ關スル心得

第三學年及第四學年

每週二時

道德ノ要領

自己ニ對スル責務

身體

第四編 中學校及高等女學校

四八三

第四編 中學校及高等女學校

健康 生命

精神

知情意 理想、趣味等

人格 職業 財產

家族ニ對スル責務

父母、舅姑 兄弟、姊妹 夫婦 子女 親族 祖先、家門 婢僕

社會ニ對スル責務

個人

他人ノ人格 他人ノ身體、財產、名譽 秘密、約束等 恩誼 朋友 長幼、貴賤、主從等

公衆

協同 社會ノ秩序 社會ノ進歩

國家ニ對スル責務

國體 皇室 國憲、國法 兵役、租稅、教育 公務、公權

人類ニ對スル責務

鰥寡孤獨 病者、貧者、罹災者等 遠來人

前記ノ目ハ主トシテ責務ノ對象タルヘキモノナレハ之ニ就キテ主要ナル責務ヲ授クヘシ例ヘハ自己ノ精神ノ目ニ於テハ知能ヲ練磨シ迷信ヲ排シ常識ヲ養ヒ情慾ヲ制シ情操ヲ養ヒ意志ヲ鍛鍊スヘキコト等又他人ノ人格ノ目ニ於テハ其ノ權利、思想、信仰、感情、希望等ヲ推重スヘキコト等成ルヘク遺漏ナク授ケンコトヲ要ス

責務ト關聯シテ德ヲ説明シ諸責務及諸德相互ノ關係ヲ知ラシメ且嘉言善行等ヲ引用シテ之ヲ心裏ニ浸潤セシムヘシ

教授上ノ注意

- 一 格言例話ヲ引用スルニハ必シモ其ノ多キヲ求メズ務メテ現代ノ時勢ト生徒ノ境遇トニ適切ナルモノヲ選ブヘシ詭激ナル例話ハ成ルヘク之ヲ避クヘシ若シ偶々之ニ及フコトアルトキハ其ノ應用ヲ誤ラシメザランコトニ留意スヘシ
- 二 責務ヲ授クルニハ土地ノ風俗習慣生徒將來ノ地位職業等ノ差別アルコトニ注意シ其ノ各方面ニ互リテ之カ應用ヲ知ラシムヘシ
- 三 第二學年又ハ第三學年ニ於テハ生徒ノ身體及精神漸ク變動ヲ起シ内外ノ誘惑ニ關リ曩キ傾向アルヲ以テ特ニ此ノ時期ニ注意シ堅固ノ志操ヲ養ヒ良習慣ヲ作ラシメンコトヲ力ムヘシ
- 四 教訓ニ資スヘキ事件ノ偶發シタルトキ又ハ式日紀念日等ニ際シテハ全校又ハ一部ノ生徒ヲ集メテ臨時教訓スルヲ可トス
- 五 作法ハ故實古禮ニ拘泥セス現時ノ衣食住ノ情況ニ適合セシメンコトニ注意シ坐禮立禮ヲ併セ授ケ實際ニ應用セシメンコトヲ要ス

國語

第一學年及第二學年

每週六時

誦讀

讀方 發音ヲ正確明瞭ニシ句讀正シク讀マシムヘシ

每週四時

第四編 中學校及高等女學校

第四編 中學校及高等女學校

四八六

解釋 平易ナル口語ヲ用ヒテ語義文義ヲ正確ニ解釋セシムヘシ
誦讀 讀本中ノ佳句、格言、韻文等ヲ適宜誦讀セシムヘシ

誦讀ノ材料ハ小學校ニ於ケル國語トノ連絡ヲ保チ今文ヲ用ヒテ修身、歴史、地理、理科、家事、實業、美術、社交等ニ關スル事項ヲ記シタル平正ナル記事文、敘事文、書翰文、唱歌及新體詩等ニシテ生徒ノ知識ノ進歩ニ適合スルモノタルヘシ又便宜歌及正確ナル口語ノ標準ヲ示スヘキ演說談話ノ筆記ヲ加ヘシ

材料ノ配當ハ凡記事文敘事文九、書翰文韻文一ノ比ニ依ルヘシ

文法及作文

每週一時

文法

普通ナル假名遣ノ大要 品詞ノ分別

文法ハ言文ノ對照ヲ主トシ常ニ口語ト今文トヲ關聯セシメテ今文ニ必須ナル法則ヲ示スヘシ

作文

書取 假名遣ヲ正シ漢字ノ字畫ヲ正確ナラシメ且速記ニ慣レシムヘシ

復文 口語ヲ今文ニ今文ヲ口語ニ譯セシムヘシ

作文 今文體ノ書翰文、記事文、敘事文ヲ綴ラシムヘシ

作文即題ハ凡隔週一回、宿題ハ凡毎月一回之ヲ課スヘシ

習字

每週一時

楷書 行書 草書(書翰文等ニ用フル普通文字ニ止ム)

習字ハ凡隔週一回之ヲ課スヘシ

第三學年

每週五時

每週三時

誦讀

讀方 發音ノ外抑揚緩急ニ注意スヘシ

解釋 語義文義ノ外文法ニ注意スヘシ

暗誦 前二學年ニ準ス

誦讀ノ材料ハ前二學年ニ準シ平正ナル近世文ヲ加フ之ヲ課スル比ハ凡今文六、近世文四トス

材料ノ配當ハ今文ニ於テハ凡記事文敘事文六、論說文三、書翰文韻文一トシ近世文ニ於テハ凡記事文

敘事文七論說文韻文等三ノ比ニ依ルヘシ

每週一時

文法及作文

文法

前二學年中授ケタル事項ノ復習及補說 文章論ノ大要

作文

書取 前二學年ニ準ス

復文 前二學年ニ準ス

作文 前二學年ニ準ス

習字

每週一時

行書 草書

習字ハ凡隔週一回之ヲ課スヘシ

第四學年

每週五時

第四編 中學校及高等女學校

四八七

第四編 中學校及高等女學校

講讀

讀方 前學年ニ準ス

解釋 前學年ニ準ス

暗誦 前學年ニ準ス又時トシテハ名家ノ文章ヲモ暗誦セシムルコトアルヘシ

講讀ノ材料ハ前學年ニ準シ平正ナル近古文ヲ加フ之ヲ課スル比ハ凡今文五、近世文三、近古文二トス

材料ノ配當ハ前學年ニ準シ近古文ニ於テハ近世文ノ例ニ依ルヘシ

作文

作文 前學年ニ準シ又論說文ヲ加フ

每週一時

教授上ノ注意

- 一 訛言ハ初ヨリ嚴ニ之ヲ矯正スヘシ
- 二 讀本中ノ事項ハ單ニ其ノ意義ヲ解釋スルニ止メス之ニ關スル説明ヲ加ヘ成ルヘク實物、標本、地圖、繪畫等ニ依リ生徒ノ理會ヲ明確ナラシムヘシ
- 三 口演ハ別ニ其ノ目ヲ擧ケスト雖生徒ヲシテ時々其ノ學習或ハ經驗セル事項ニ就キテ談話解説等ヲナサシメ特ニ言語態度ニ留意シ思想感情ノ明瞭溫雅ナル表出ニ慣レシムヘシ
- 四 故事口語等ニ關シテハ初ヨリ簡單ナル説明ヲ與ヘ徒ニ生徒ヲ苦マシムヘカラス
- 五 第四學年ノ講讀ニ於テハ顯著ナル作家ノ文ヲ授クル際便宜其ノ傳記文體等ニ關シ簡單ナル談話ヲ交フルモ妨ナシ
- 六 文法ヲ授クルニハ生徒ヲシテ其ノ熟知セル實例ニ就キ歸納的ニ自ラ法則ヲ知ラシメンコトニ注意スヘシ

- 七 作文ノ文題ハ成ルヘク諸學科目ニ互リ生徒既修ノ事項ニ就キテ之ヲ選ブヘシ
- 八 作文ハ達意ヲ主トシ用語ノ爲ニ思想ヲ拘束スル弊ナカラシムヘシ
- 九 作文其ノ他書寫ノ際ニハ常ニ習字ニ關スル注意ヲ怠ルヘカラス又成ルヘク變體假名ヲ避クヘシ
- 十 適當ノ機會ニ於テ辭書ノ用法ヲ授クヘシ

外國語

各學年ノ教授事項ハ之ヲ分割スルコトナク同一教授時間ニ於テ相關聯シテ之ヲ授クヘシ但時宜ニ依リテハ教授時間ヲ分ツコトヲ得ト雖尙其ノ相互ノ連絡ニ留意センコトヲ要ス

第一學年及第二學年

每週三時

發音、綴字

初ハ發音ヲ正シ單語ニ就キテ綴字ヲ授ケ其ノ概要ニ通シタル後ハ讀方會話ニ附帶シテ之ヲ練習セシムヘシ

讀方、譯解、會話、書取

平易ナル文章

習字

既修ノ綴字ト關聯シテ之ヲ授ケ又書取ニ依リテ之ヲ練習セシムヘシ

每週三時

讀方、譯解、書取

平易ナル文章

會話、作文

第四編 中學校及高等女學校

第四編 中學校及高等女學校

平易ナル對話、翻譯 簡易ナル記事文、書翰

教授上ノ注意

- 一 外國語ヲ授クルニハ習熟應用ヲ主トシ生徒ノ學力ヲ顧ミスシテ徒ニ課程ヲ進ムルコトアルヘカラス
- 二 發音ハ特ニ外國語教授ノ初期ニ於テ嚴ニ之ヲ正シ又國語ニ存セサル發音ニ留意シテ之ニ習熟セシムヘシ
- 三 讀方ハ既ニ意義ヲ了解セル文章ニ就キテ反復練習セシメ又時々諸語ヲ課シ發音、抑揚、緩急及止聲ニ留意シテ生徒ヲ誦讀ニ依リテ文章ノ真意ヲ見ハル、様之ニ習熟セシムヘシ
- 四 譯解ハ正シキ國語ヲ以テシ成ルヘク精密ニ原文ノ意義ニ適應セシムヘシ
- 五 會話ハ讀本中ノ文章又ハ事項ニ因ミテ之ヲ授ケ進ミテハ日常ノ事項ニ就キテ對話ヲナサシメ生徒ヲシテ文字ヲ離レテ英語ヲ了解シ又自己ノ思想ヲ表ハスコトヲ習ハシムヘシ
- 六 書取ハ生徒既修ノ文章又ハ其ノ容易ニ了解シ得ヘキ文章ニ就キテ之ヲ授ケ耳ヲ慣ラシ且綴字運筆ヲ練習セシムヘシ
- 七 文法ハ別ニ其ノ目ヲ擧ケスト雖教授ノ際便宜實用ニ適切ナル法則ヲ了解セシムヘシ
- 八 外國語ノ意義ヲ了解セシムルニハ成ルヘク貨物繪畫或ハ所作等ニ依リテ之ヲ直指シ進ミテハ英語ヲ用ヒテ之ヲ説明スヘシ
- 九 外國ノ人情、風俗、習慣等ニ關レテハ便宜説明ヲ與フヘシ

歴史

第一學年

每週一時

日本歴史

太古 神代、皇基ノ遠遷

上古

神武天皇 崇神天皇 景行天皇、日本武尊、成務天皇 神功皇后 仁德天皇 雄略天皇
 及皇后 文物工藝ノ傳來、歸化人及其ノ子孫 佛教ノ傳來、大臣大連ノ争闘 推古天皇、聖德太子、佛教ノ興隆、工藝、遺唐使 蘇我氏ノ專横及滅亡

中古

大化ノ新政 天智天皇、藤原鎌足 律令ノ制定、奈良奠都、國史ノ撰修 聖武天皇及皇后、寺院ノ造營、美術、工藝、風俗 和氣清應及廣蟲 桓武天皇、平安奠都、蝦夷ノ鎮定 嵯峨天皇及皇后、僧最澄及空海、新宗派、文藝、私學ノ設立 藤原氏及他氏、攝政關白 菅原道真、延喜時代 承平天慶ノ亂 外戚ノ跋扈 國文ノ隆盛、才媛、風俗、工藝 地方ノ争亂、武人ノ興起 後三條天皇 院政、僧徒ノ強暴 保元ノ亂、平治ノ亂 平氏ノ繁榮 諸源ノ擧兵、平氏ノ滅亡

第二學年

每週二時

近古

鎌倉幕府、平政子 承久ノ亂、北條氏ノ執權、元寇 風俗、工藝、文學、新宗派 兩皇統ノ交立、五攝家 元弘ノ亂、勤王諸將、北條氏ノ滅亡 建武中興、足利尊氏ノ反 南北朝 室町幕府、足利 滿ノ廢置 鎌倉管領、關東ノ分裂 應仁ノ亂 東山時代、美術、工藝、佛教、文學 京都ノ衰替、足利氏ノ末路群雄割據、武家妻女ノ境遇及行動 明トノ交通、國人ノ冒險、歐洲人ノ來航 皇室、織田信長 豐臣秀吉及其ノ雄圖

第四編 中學校及高等女學校

第四編 中學校及高等女學校

四九二

近世

徳川家康、關原ノ役、大阪ノ役 江戸幕府、徳川氏ノ政畧 後水尾天皇、明正天皇 文學ノ復興
徳川光圀 通商、貿易、國人ノ海外ニ於ケル事業、天主教、嶋原ノ亂 元祿時代、風俗、工藝、新
井君美 徳川吉宗ノ治 田沼父子ノ專權、松平定信、諸藩ノ治、附著名ノ藩費 國學、尊王論、
蘭學、海防策 露英人ノ來航、米國使節ノ來朝 假條約、開港據夷ノ論 安政ノ大獄、井伊直
弼、幕府ノ衰頽、討幕論、長州征伐 大政奉還、戊辰ノ役

現代

明治新政、五條ノ誓文、尊都 版籍奉還、廢藩置縣 外交、歐米文物制度ノ採用 征韓論、臺
灣征討、樺太及千島 鹿兒嶋ノ亂、琉球ノ處分、朝鮮ノ事變、天津條約 憲法發布、帝國議會
明治二十七八年ノ戰 條約改正、北清ノ事變

第三學年

每週二時

東洋歴史

上代ノ支那、周及春秋戰國 孔子、文物 秦、漢ノ統一 文帝、武帝、王氏 後漢、三國
兩漢ノ文物、印度、佛教ノ東流 晉、南北朝、隋 唐太宗、武氏、玄宗 五代、宋太祖、仁宗、神
宗 韓土ノ變遷、遼金ノ興廢 唐宋ノ文藝宗敎風俗 蒙古ノ勃興、元世祖 明太祖、成祖
朝鮮、明ノ衰運、清ノ興起 元明ノ儒學文藝 歐洲人ノ東漸 清聖祖、高宗、清ノ文藝 英國
ノ印度經營 清英ノ交渉、長髮賊、英佛ノ北清侵伐 清露ノ關係 日清韓ノ關係 北清事變、
東洋ニ於ケル英露佛獨米

第四學年

每週二時

西洋歴史

上古

おじふと、ふにきあ、あ、しりあ、べるしあきりしあ 其ノ文物、あれくさんぞる大王 るいま
ノ興起、ほに城役 かおざる、るいま帝政ノ建立、るいまノ文物 基督教ノ西流、るいま帝國の
兩分

中古

げるまにノ遷徙、東るいまトべるしあ、すらふ諸部落 さらせん帝國 かるる大帝 のるまん
神聖ろいま帝國、るいま法王 西歐ノ封建 十字軍 いざりすトふらんす 歐洲ニ於
ケル文藝復興、諸種ノ發明、地理上ノ發見、地理上ノ發見 おつとまんぞるこノ侵入 歐洲ニ於
ケル宗敎改革

近古

いざりす女王わりさす 三十年戰役 ふらんす王の十四世 學藝風俗 いざりす革命
べーとる大帝、ふりーとりひ大王 歐洲人ノ殖民、印度ノ情勢、北米合衆國ノ獨立

近世

ふらんす革命 なほれらん一世 神聖同盟 あめりか諸國及ざりしあノ獨立 七月革命
なほれらん三世 くりむ戰争 いたりあノ統一 さいつノ統一 北米合衆國南北戰争
露土ノ戰争 歐米強國勢力ノ擴張 十九世紀ノ文明
敎授上ノ注意

一 歴史ヲ授クルニハ社會ノ變遷、邦國ノ盛衰ニ關スル明瞭ナル概念ヲ得シムルコトヲ主トシ正確ヲ期

第四編 中學校及高等女學校

四九三

第四編 中學校及高等女學校

四九四

- スル爲徒ニ細密ナル事實ノ穿鑿ニ流レサランコトヲ要ス
 - 二 歴史ヲ授クルニハ上代ニ簡ニシテ近代ニ詳ナランコトヲ要ス
 - 三 偉人ノ事蹟ヲ授クルニ當リテハ其ノ性行、事業及當時ノ事情ヲ詳ニシ生徒徳性ノ涵養ニ資センコトヲ力ムヘシ
 - 四 有名ナル詩歌、文章、傳記等ニシテ歴史ノ教授ニ資スヘキモノハ便宜之ヲ引用シテ興味ヲ助クヘシ
 - 五 特ニ學校所在地方ニ關係多キ事蹟ハ稍々詳ニ之ヲ授クルヲ可トス
 - 六 外國歴史ハ特ニ我國ト關係アル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ
 - 七 對照年表ヲ用ヒテ紀年ノ連絡ヲ知ラシメ又成ルヘク地圖、實物、圖畫、標本等ヲ示シテ生徒ノ知識ヲ確實ナラシムヘシ
 - 八 地名人名等ノ稱呼ハ必シモ此ノ要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス
 - 九 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ
- 御歴代表、對照年表、各國帝王及諸家ノ系統表等ノ掛圖 日本沿革地圖、日本現代地圖 外國沿革地圖、外國現代地圖
- 著名ナル城邑戰場其ノ他古蹟ノ寫眞又ハ圖畫 著名ナル人物ノ肖像 古人ノ筆蹟、古文書等ノ實物又ハ模寫
- 風俗工藝ノ變遷、文化ノ程度等ヲ示ス實物模型又ハ圖畫

地理 第一學年

每週二時

日本地理

總說

位置 地勢 氣候 住民 政治 生業 交通

地方誌

北海道、臺灣及府縣ノ區分ニ依レル地方ノ天然上及人事上國民ノ生活ニ關スル事項

第二學年

每週一時

外國地理

あじあ

總說

位置 地勢 氣候

朝鮮

支那

あじあろしあ

あじあをるて附あらびあ

いらん地方

いんぞ

いんぞ支那半島

まらい諸嶋

大洋洲

總說

第四編 中學校及高等女學校

四九五

第四編 中學校及高等女學校

前二準ス

ふしすどらもあ

めらねじあ みくろねじあ

あふりか

ほりねじあ

總説

前二準ス

北部あふりか

中部あふりか

南部あふりか

第三學年

外國地理ノ續キ

毎週一時

よしろつば

總説

前二準ス

ろしあ

すうえでん・のるうえい

でんまろく

やすし

あしすとりあ・ほんがりあ

ばるかん半島

いたりあ

すうす

ふらんす

べるぎい

おらんた

いざりす

いすばにあ

ほるとがる

あめりか

總説

前二準ス

かなだ

北米合衆國

めきして

南あめりか

中央あめりか 西いんど諸嶋

べるし

ちり

あるせんちん

ぶらじる

其ノ他ノ諸國

結論

世界ニ於ケル人種、言語、宗教、貿易、交通 列強國勢ノ比較

第四編 中學校女高等女學校

地文

總說

每週一時

太陽系 地球ノ形及大サ 地球ノ運動、晝夜、四季日蝕及月蝕、標準時

沿岸線

地勢及構造

山嶽、原野、窪谷等 泉、河、湖 岩石、礦物、地層

變動

火山、温泉 地震 大陸及山脈ノ形成 沿岸線ノ形成 大氣、水及生物ノ作用

大氣

溫度 氣壓 風 濕氣 氣候及天氣

海

海水ノ色、鹽分等 海底 海水ノ溫度 波、海流、潮汐

生物

分布

教授上ノ注意

一 地理ヲ授クルニハ生徒既知ノ事實ヨリ之ニ關係アル未知ノ事實ニ及ボサンコトヲ旨トシ必シモ此ノ要目ノ順序ニ依ルコトヲ要セス

二 地理ヲ授クルニハ成ルヘク事實ノ比較連合ヲ力メ特ニ外國地理ニ於テハ我國ノ狀勢ヲ以テ比較ノ基礎トナスヘシ

三 地理ヲ授クルニハ先ツ地平線、方位、地球、經緯線、經緯度、大洋、大洲、嶋嶼ニ就キ小學校ニ於テ授ケタル事項ヲ復習スルヲ要ス

四 日本地理及外國地理ヲ授クルニハ常ニ地文ニ關スル事項及實業ニ關スル事項ニ留意シ漫ニ細密繁多ナル事實數量ヲ記憶セシムルコトハ之ヲ避ケヘシ

五 外國地理ニ於テハ我國ト關係多キ地方ニ留意シ此ノ要目ノ中特ニ重要ナル部分ハ更ニ之ヲ細分シテ授クルコトヲ得

六 歷史上著名ナル場所及學校所在地方ノ地理ハ稍々詳ニ之ヲ授クルヲ可トス

七 有名ナル詩歌、文章、紀行等ニシテ地理教授ニ資スヘキモノハ便宜之ヲ引用シ興味ヲ助クヘシ

八 實地ニ觀察シ得ヘキ事項ハ成ルヘク直接ニ觀察セシメ其ノ他ハ常ニ地圖、標本、寫眞、繪畫、表等ニ依リ生徒ノ知識ヲ確實ナラシムヘシ又適當機會ニ於テ地圖ノ讀ミ方、指キ方ニ關スル簡單ナル解説ヲ與フヘシ

九 地文ハ特ニ我國ニ關スル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ

十 地名ノ稱呼ハ必シモ此ノ要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス

十一 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ
日本及世界地形圖 世界分圖 日本行政區劃圖 日本及世界交通地圖 人種分布地圖 日本及世界水陸動物分布圖 日本及世界植物區系圖 日本地質圖 日本及世界同溫線圖 日本及世界同壓線圖 日本及世界風向圖 日本及世界雨量圖 日本及世界海流圖 同時潮圖 地

第四編 中學校及高等女學校

五〇〇

震及火山分布圖 日本地震圖、天氣圖ノ一例 其ノ他人文地文ヲ説明スル地圖 諸統計ヲ示ス
圖又ハ表 風俗、風景其ノ他地文上ノ現象ヲ示ス圖畫又ハ寫真 土地ノ高低、褶曲、斷層等ヲ示ス
模型又ハ圖畫 主要ナル岩石 主要ナル造岩礦物、化石 日本ノ主要ナル農産、林産、水産物
及加工品ノ標本 主要ナル貿易品ノ標本 其ノ他ノ模型、圖畫、掛圖等
地球儀 羅針盤 測斜器 時雨計 寒暖計 日時計
人文地理ニ關スル事項ハ時々異動ヲ來スコト多ク之カ圖表等ハ常ニ其ノ訂正増補ニ留意シ最近ノ
形勢ヲ示スモノヲラシムヘシ

數學

第一學年

每週二時

算術

整數及小數

命數法及記數法

四則

心算練習

諸等數

時間、尺貫法度量衡、めしとる法度量衡、本邦貨幣、外國度量衡及貨幣ノ主要ナルモノ

及命法 諸等數ノ四則

諸等通法

分數

簡易ナル化法及運算

比及比例

比 單比例

第二學年

每週二時

算術ノ續キ

前學年中授ケタル事項ノ復習

轉數

$2.5 + 0.3 =$

ニ依ル整數ノ可約性

素數

整數ヲ素因數ニ分ツコト

最大公約數及最小公

倍數ヲ求ムル應用

分數

約分 通分

分數四則

分數ノ特別場合トシテノ小數

分數ヲ小數ニ化スルコト

比及比例

複比例

連鎖法

割合

歩合算 利息算

第三學年

每週二時

算術ノ續キ

前二學年中授ケタル事項ノ復習

比及比例

比例配分

混合法

割合

割引算其ノ他割合ニ關スル日用諸算

第四編 中學校及高等女學校

五〇一

開平

第四學年

每週二時

算術ノ續キ

前三學年中授ケタル事項特ニ理由ノ復習

代數ノ初歩及平面幾何ノ初歩ヲ加フルトキハ次ノ例ニ依リテ之ヲ授クヘシ

代數

記號的運算ノ大要 一次方程式 負數

幾何

定規及こんばすノ用法 主要ナル幾何形體ノ種類及構造

角、平行線、三角形、四邊形、圓、正多角形ノ性質 附作圖題 面積ノ比較及計リ方

教授上ノ注意

一 數學ヲ授クルニハ常ニ正確ナル言語ヲ用ヒテ理由方法等ヲ説明セシメ理會ヲ明瞭ナラシメンコトヲ方ムヘシ

二 例題ハ成ルヘク生業上適切ニシテ家事上ニ資スヘキモノヲ選ヒ歩合算其ノ他割合ニ關スル日用諸算ノ例題ヲ課スルニハ特ニ注意シテ其ノ事項ヲ説明スヘシ

三 算術ニ於テハ單ニ算法ヲ授クルニ止メス常ニ實算ヲ重シテ正確迅速ニ計算シ得ルニ至ラシムヘシ

四 計算ニハ成ルヘク驗算ヲ行ハシメ之ニ對スル自信ヲ深厚ナラシムヘシ

五 算術ヲ授クル際法則ノ理由ヲ十分ニ理會セシメ難キ場合ニ於テハ單ニ其ノ法則ヲ授クルニ止ムヘシ

六 代數ヲ授クルニハ複雑ナル記號的運算ヲ避ケ成ルヘク算術トノ連絡ヲ圖リテ實用ニ資セシメンコト

チカムヘシ

七 幾何ハ成ルヘク實驗觀察ノ方法ニ依リテ之ヲ授ケ必シモ嚴格ナル論理ニ拘ルコトヲ要セス

八 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ

日時計 時計 羅針盤 尺 鯨尺 めーとる法尺 三種比較尺(尺、鯨尺、めーとる法尺)

日本秤 日本秤 めーとる法分銅 臺秤 液量瓶 穀量瓶 めーとる法量器 外國度量器

黑板用こんばす 黑板用各種ノ定規 卷尺

日本貨幣圖 外國貨幣圖 幾何形體ノ模型

理科

第一學年及第二學年

每週二時

植物

緒論

形態

植物體ノ主要ナル器官 其ノ種々ナル變形

解剖

植物體ノ根本的構造ノ大要

生理

營養、吸收、呼吸、通發、同化、生長、運動、刺戟感應、生殖等ノ大要 動植物生理ノ異同

生態

蟲媒花、風媒花 寄生植物、肉食植物 果實種子ノ散布 植物ト外圍 落葉木、常綠木等

分類、應用、分布

植物ノ分類 被子植物及裸子植物中ノ主要ナル科ノ大要 羊齒植物、蘚苔植物、菌藻植物ノ大要
主要ナル有用植物、有害植物 植物分布ノ大要

前記ノ事項ハ必シモ順序ヲ追ヒテ授クルコトヲ要セス適宜分合シテ之ヲ授クルコトヲ得特ニ季節ニ應
シテ適當ナル題目(例ヘハ春季ニ發芽、櫻花、菜花、秋季ニ果實、紅葉、落葉等)ヲ選ヒ之ニ就キテ便宜形
態、解剖、生理、生態、分類、應用、分布ノ諸項若ハ其ノ中ノ數項ヲ歸納的ニ授クルカ如キハ生徒ノ興味ヲ
増シ理解會ヲ助クル益アルヘシ

動物

緒論

分類

動物ノ分類 脊椎動物(哺乳類、鳥類、爬蟲類、兩棲類、魚類) 節足動物(多足類、蜘蛛類、昆蟲類
甲殼類) 軟體動物(瓣鰓類、腹足類、頭足類) 蠕形動物 棘皮動物 腔腸動物、海綿動物
原生動物

分類ヲ授クルニハ顯著ナル適例ヲ示シテ綱或ハ主要ナル目ヲ説明スルニ止メ分類區分ノ名稱特徴等ヲ
細密ニ授クルコトナク主トシテ動物ノ概念ヲ與フルコトヲ力ムヘシ又必シモ前記ノ順序ニ依ルコトヲ
要セス

習性

生徒ノ容易ニ實驗シ又ハ目撃シ得ヘキモノ、自然界ノ現象トシテ趣味アルモノ、人類ニ關係アルモノ
解剖、組織

發生

脊椎動物ヨリ下等動物ニ至ルニ從ヒ其ノ構造漸次簡單ニナルコト 動物體ハ細胞ヨリ成ルコト

自然發生ナキコト

生殖

卵及其ノ發生ノ大要 昆蟲特ニ蠶ノ變態

生態

寄生、共生 保護色、其ノ他ノ彩色等

分布、變遷

撒布、分布、變遷ノ大要

應用

寄生蟲及病毒媒介動物ニ對スル注意 農林業上ノ有益動物、有害動物 家畜、人為淘汰 主
要ナル水産物肥料、食料、衣料、藥品等

前記ノ事項ハ必シモ順序ヲ追ヒテ授クルコトヲ要セス或ハ分類ヲ主トシ各類ニ就キテ之ヲ授クルコト
モ或ハ其ノ一部ハ分類ト同時ニ之ヲ授ケ其ノ他ノ一部ハ別ニ之ヲ授クルトモ妨ナシ

生理及衛生

緒論

消化

口腔、食道、胃、腸、肝臟、脾 消化作用 消化器ノ保護 食物ノ種類及配合 飲料

循環

血液、心臟、動脈、靜脈 血液循環 淋巴管、淋巴腺 脾臟

呼吸

第四編 中學校及高等女學校

五〇六

鼻、喉頭、肺臟 呼吸作用 呼吸器ノ保護 空氣 音聲及言語

排泄 腎臟、尿管、尿管 皮膚及其ノ作用 皮膚ノ保護、冷水浴

新陳代謝、體温

運動

骨格、筋肉 姿勢 運動、運動ト新陳代謝トノ關係

神經作用

腦、脊髓、神經及其ノ作用 休息、睡眠

視官、聽官、嗅官、味官、覺官 眼耳ノ保護

第三學年

每週二時

第四學年

每週一時

化學及動物

緒論

空氣、水

空氣、酸素、窒素 酸化 水、水素 溶解、飽和、結晶 天然水 硬水、軟水 水ノ蒸餾

あひもにあ 化學變化、化合及分解 化合物、單體、元素

木炭、食鹽

木炭、獸炭、油煙 炭素 燃焼、發火點 焰、呼吸 動物ト空氣 食鹽、鹽化水素

鹽素、漂白粉 無水炭酸、酸化炭素 質量ノ不變 定比例ノ定律

硫黃、硝石、磷、硼砂

硫黃、無水亞硫酸、硫化水素 硫酸、其ノ鹽 硝石硝酸及其ノ鹽 火藥 磷、磷酸、燐寸

同素體 硼砂、硼酸

金屬、普通ナル礦物

なとりうむ及かりうむ、其ノ水酸化物、炭酸鹽 かるしうむ、其ノ酸化物、水酸化物、炭酸鹽

酸、あるかり、鹽

花崗岩 石英、長石、雲母 磁器、陶器、硝子、漆喰、せめんど 石灰石、石膏、磷 石灰釜石、

弗化水素

亜鉛、錫、鉛まぐねしうむ あるみけうむ鐵、につける 銅、銀、水銀、黃金、白金 主要ナル原

鑛及金屬化合物 合金 冶金術

金剛石、石墨、石炭、石油、琥珀 黃玉、石榴石、鋼玉、安山岩、黑曜石等 砂岩、粘板岩等 礦物

ト岩石

有機化合物

有機化合物ト無機化合物、沼氣、あせちれん 石油ノ蒸溜 酒精、にてる、かりせりん 酢酸

其ノ他ノ脂肪酸 脂肪、油、木蠟 石鹼、蠟燭 砂糖、澱粉、せるるしす

石炭ノ乾溜、石炭瓦斯、こーるたーる、あにらん染料、石炭酸、なふたれん 沒食子酸、たんじん

樹脂、こひ あるかりいせ 蛋白質 醱酵 腐敗、防腐及消毒

物理

緒論

第四編 中學校及高等女學校

五〇七

運動、力

運動 慣性 力 作用及反動 力ノ釣合 重力 落體、拋射體 重心、物體ノ座リ
挺子、天秤、輪軸、滑車等 振子、時計 宙宇引力

物性

物質、其ノ三態 彈性 毛細管現象 液體ノ壓力 水平面 水準器 重力ニ依リテ生
スル壓力 浮游體 比重 大氣ノ壓力、晴雨計 風船、空氣ばんぶ、水ばんぶ、さいふ
ん、霧吹キ等

音

發音體 振動、波動 音ノ波及、速度 反射 強サ、調子、音色 蓄音器、管、絃等

熱

寒暖計、溫度 物體ノ膨脹 熱容量、比熱 蒸氣機關 融解、凝固 融解熱、寒劑
蒸發、沸騰 氣化熱 濕度、濕度計 傳導、對流、輻射

光

光體 光ノ直進、速度 反射 平面鏡、球面鏡、其ノ像、焦點 屈折 ぶりすひ、れん
す、其ノ像、焦點 暗箱、眼鏡、蟲眼鏡、望遠鏡、幻燈等 光ノ分散、すべくとる 物體ノ色、光澤

磁石

磁石、其ノ兩極 兩極間ノ作用 磁氣ノ感應 羅針盤、地磁氣 磁石ノ作り方

電氣

摩擦ニ依ル發電 導體、不導體 二種ノ電氣、驗電器、電氣ノ分配 尖端ノ作用 電氣ノ感

應 起電機 れんでん油、雷電、避雷針 電池、電流 電流計 電磁石、電鈴、電信機、
電氣燈、電話機 電解、電鍍電鑄術等

教授上ノ注意

- 一 理科ハ分科シテ之ヲ授クト雖其ノ教授ハ成ルヘク一人ノ教員之ヲ擔任シテ常ニ分科相互ノ連絡ニ留意シ生徒ヲシテ自然界ノ統一ニ就キテ明晰ナル概念ヲ得シメントナカムヘシ
- 二 各分科ノ緒論ニ於テハ成ルヘク前分科ノ教材ニ因ミテ準備事項ヲ授ケ分科ノ連絡ヲ圖リ以テ理科全體ノ統一ニ資スヘシ
- 三 教材ノ選擇排列ハ地方ノ情況ニ鑑ミテ之ヲ斟酌スヘシ
- 四 理科ヲ授クルニハ成ルヘク實物實驗ニ徴シテ觀察敘述判斷ヲ練習セシムルト共ニ常ニ家事上ノ應用ニ留意セシメ又時々野外教授ヲ行ヒ以テ自然界ヲ愛スル念ヲ起サシムヘシ
- 五 實驗ハ豫メ之ヲ試ミ置キテ教授ノ際故障ナカラシムコトヲ期スヘシ
- 六 植物動物ハ科學上ノ順序ニ泥ムコトナク生徒ノ日常ノ經驗ニ訴ヘ成ルヘク實物標本ニ因ミテ之ヲ授クヘシ
- 七 生理及衛生ハ衛生ヲ主眼トシ日常適切ナル事項ヲ授ケテ家事トノ連絡ヲ圖リ生理ハ衛生ヲ理會シ得ルニ止ムヘシ
- 八 化學物理ハ生徒既知ノ事實ニ關聯シテ之ヲ授ケテ特ニ庖厨等ニ於ケル應用ニ留意セシメ定律ノ如キハ成ルヘク實例ニ依リテ其ノ應用ヲ示シ生徒ニ高遠ナル説明ニ馳セサランコトヲ要ス
- 九 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ

植物ニ關スルモノ

採集胸蓋 壓搾板、壓搾紙 生理試驗用具 主要ナル植物ノ乾燥標本及生標本、材鑑、年輪其ノ他幹ノ構造ヲ示ス標本 主要ナル組織ノふればらいと 主要ナル微細植物ノふればらいと 主要ナル乾燥果實及種子ノ標本 主要ナル肉質果實ノあるてゝる標本又ハふるるまゝノ標本 顯著ナル花果實等ノ模型又ハ圖畫植物ヲ原料トシタル加工品 成ルヘシ花壇ヲ設ケ主要ナル植物ヲ栽培シテ教授ノ用ニ供スヘシ 動物ニ關スルモノ

捕蟲網 採集箱 展翅板 毒壺 ちつばし 注射器 解剖用鋸 骨錶 昆蟲飼育箱 哺乳類、鳥類、爬蟲類、魚類等ヲ代表スル動物及其ノ骨格 解剖、生長、變態等ヲ示ス標本模型 又ハ掛圖 保護色、寄生、共生等ヲ示ス標本模型又ハ掛圖 主要ナル益蟲害蟲ノ標本 動物ノ原料トシタル加工品 微細動物ノふればらいと等

生理及衛生ニ關スルモノ 人體ノ紙製模型 人體骨格 眼ノ模型 耳ノ模型 主要ナル組織ノふればらいと 病菌ノふればらいと 人體ノ解剖掛圖等

化學及藥物ニ關スルモノ 酒精噴燈又ハ瓦斯燈 硝子鐘、圓筒、時計皿、硝子瓶、二口瓶、三口瓶 製度圓筒、量液瓶、U字管 塔狀乾燥器、乾燥放冷器 びべつと、びゆれつと及其ノ臺 れとると、其ノ臺 びーかー、漏斗及其ノ臺 冷却器、其ノ臺 漏斗管、安全管 ゆーぢぢめいとる 活栓附硝子管 燃燭管 磁製坩堝 鉛皿 硬度計 鐵槌、吹管、白金線、白金板 硝子切 三角錘、圓錘 燃燭匙、掛錘、三却壺 水槽 瓦斯溜 木製及金屬製架臺 砂皿、水浴、空氣浴 換止、換子

濾紙、筥、匙等 主要ナル藥物及岩石 藥物、岩石ヲ原料トシタル加工品 藥品ハ之ヲ示サスト雖此ノ要目ニ關スル主要ナルモノハ必ス之ヲ備フヘシ 物理ニ關スルモノ

木製金屬製等ノ球 挺子、輪軸、滑車、斜面、螺旋 重心ヲ示ス種々ノ板、座リテ説明スル種々ノ立體 天秤 日本秤 尺 めいとる法尺 日本樹 五〇cm及五〇〇cmノ硝子製量器 鉛製分銅數筒(五〇瓦、一〇〇瓦、一きつ瓦等各數筒) 取附萬力 手錶 毛細管數種 木工道具 金工道具 ばすかるノ原理ヲ示ス器 ぶらま水壓器 連通木平器 水浮器 上履ヲ示ス器 あるきめですノ原理ヲ示ス器 浮沈子、浮秤 まぐでぶるぐ半球 晴雨計用硝子管、晴雨計 空氣ばんぶ及附屬品 水ばんぶ 波動ヲ示ス裝置 音叉數種 ものこいと 風琴 管 音ノ波及ヲ示ス器 さばいとる齒輪 蓄音器 摩擦ニ依ル發熱ヲ示ス眞鍮管 熱ノ傳導比較器 比熱試驗用金屬球數種 金屬ノ膨脹ヲ示ス器 乾濕球寒暖計 蒸氣閥模型 光線ノ反射ヲ示ス器 平面鏡 凹凸球面鏡 光線ノ屈折ヲ示ス器 ぶらすむ、れんす數種 顯微鏡、望遠鏡ノ理ヲ示ス裝置 色ノ混合ヲ示ス器 へりあすたつと 磁鐵鐵 棒磁石 馬蹄磁石 羅針磁、磁針 鐵粉、鐵棒 硝子棒、封蠟棒、貓皮、毛布片、絹布片等 電氣振子 絕緣臺 電氣分配ヲ示ス空球、ふあんでい袋 金箔驗電器 電氣感應ヲ示ス器 絶緣シタル導體 電氣盆 ういむしやいと起電機 れいでん瓶數筒、放電叉 ぶんせん、だににる等ノ電氣各數筒 電流計 電磁石 もしるす電信機模型 電鈴 白熱電燈 あいく燈模型 電話機 電解器 感應ている 眞空管 はんせだいなも 絶緣銅線數種 共用ニ屆スルモノ

第四編 中學校及高等女學校

五二二

顯微鏡、蟲眼鏡 解剖用具(解剖針、解剖刀、解剖鉗、解剖皿、びんせつと等) 寒暖計 暗箱
實體鏡 酒精燈 乳鉢、乳棒 蒸發皿 試驗管、其ノ臺、試驗管ふらつこ 硝子瓶、ふらつこ、
硝子管硝子棒、硝子板 こるく、こるく壓搾器、こるく穿孔器 こむ管 金網、針金等

第一學年

每週一時

自在畫

寫生畫、臨畫

簡單ナル幾何形體、器具、植物ノ類

第二學年

每週一時

自在畫

寫生畫、臨畫

前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ動物ノ類ヲ加ヘ又生徒學力ノ進度ニ應シテ便宜彩也ヲ施スコトヲ授
クヘシ

幾何畫

線、角、單形、常用曲線等ニ關スル描法

第三學年

每週一時

自在畫

寫生畫、臨畫

前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ彩色ヲ施スコトヲ授クヘシ

本學年ニ於テ便宜平面形及簡單ナル立體ニ關スル投影畫法、陰影畫法及透視畫法ノ大要ヲ説明シ寫生
畫ノ教授ニ資スヘシ

第四學年

每週一時

自在畫

寫生畫

前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ景色人物ニ及ボスヘシ

考案畫

自在畫及幾何畫ニ於テ習得シタル技能ヲ應用シテ圖案ヲ構成セシムヘシ

本學年ニ於テハ便宜彩色圖案其ノ他美術上ノ事項ニ關スル説明ヲナスコトアルヘシ

本要目ハ幾何畫ヲ授クル場合ニ就キテ示スト雖之ヲ授ケザルトキハ適宜斟酌ヲ加フヘシ

教授上ノ注意

- 一 臨本ハ正格ナル畫法ニ基キ奇癖ニ陥ル嫌ナキモノタルヘシ
- 二 臨畫ハ教授ノ際成ルヘク實物ヲ示シテ臨本ト對照シ生徒ヲシテ畫中形相ノ意義ヲ充分ニ理解セシメ
タル後其ノ布置描法ヲ授クヘシ
- 三 寫生畫ハ模型又ハ實物ニ就キテ行フモノニシテ之ヲ授クルニハ先ツ生徒ヲシテ物體ノ位置距離光線
ノ關係ニ依リテ形相ニ變化アル所以ヲ明ニセシメ然後之ヲ正確ニ描寫スルコトヲ教フヘシ
- 四 寫生ハ物ノ形相ヲ正確ニ描寫スルヲ目的トス然レトモ又徒ニ物ノ細部ニノミ拘泥スルカハ如キ之ヲ
避ケサルヘカラス
- 五 幾何畫ハ實際ノ應用ヲ主トシテ之ヲ授ケ自在畫トノ連絡ヲ圖ルヘシ

第四編 中學校及高等女學校

五二三

第四編 中學校及高等女學校

五一四

- 六 考案畫ノ目ハ第四學年ニ之ヲ舉クト雖便宜他ノ學年ニ於テモ之ヲ課シ意匠ノ練習ヲナサシムヘシ
 - 七 臨畫及寫生畫ノ教授時間ニ於テ時々記憶畫ヲモ課ス形相觀察ノ練習ニ資セシムヘシ
 - 八 教材ハ地方ノ情況ニ鑑ミテ斟酌スヘシト雖成ルヘク應用ノ廣キモノ又ハ生徒ノ趣味ヲ養フニ足ルモノヲ選ヒ其ノ高尚ニ過クルモノ或ハ鄙陋ニ涉ルモノハ之ヲ避クヘシ
 - 九 生徒ヲシテ成ルヘク名畫其ノ他美術上ノ作品又ハ其ノ正確ナル複製物ヲ見シメ之ニ關シテ簡單ナル證明ヲナスヘシ
 - 十 生徒ヲシテ常ニ姿勢ヲ正シクセシメ又器具ノ整頓及保存ニ注意セシムヘシ
 - 十一 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ
- 臨本 參考トナルヘキ美術作品又ハ其ノ複製物 幾何形體、裝飾紋樣 動物植物及人物ノ模型
寫生用實物 畫板、筆洗 繪具皿 圖引器械 黑板用こんばす及各種ノ定規
投影畫法又透視畫法ノ說明ニ用フル簡單ナル裝置

家事

第三學年

每週二時

緒論

家事ニ於ケル女子ノ職分 善良ナル家風ヲ作ルコト

衣食住

衣服

材料ノ選擇 調製、保存、洗濯

食物

成分、性質 常用食品(米、麥、粟、飯、麵類、麩、大豆、豆腐、味噌、醬油、小豆、菓子、果實、醬菜、魚、鳥、卵、牛豚肉、乳、油、食鹽等) 嗜好品 飲料水、淨水法、水ニ依ル病毒傳播 獻立
食器、庖廚具 割烹、其ノ實習(煮物、燒物、蒸物、汁物、漬物、生物) 貯藏

住居

選擇 土地、家屋 方向、採光、暖房、換氣、室房ノ配置、裝飾 門構、庭園、井 掃除、保存
家具、什器

第四學年

每週二時

養老及育兒

養老

衣食住ノ注意 起居ノ介抱 精神ノ保養

育兒

哺乳 生齒 食物 衣服 居所 沐浴 運動 睡眠 疾病

言語、動作 談話 遊戲、玩具 就學

着病、傳染病ノ豫防

衣食住ノ注意 介抱 藥用 危篤ノ場合 救急療法

傳染病及其ノ豫防 清潔方法 消毒方法

整理及經濟

主婦ノ心得 勤勉、節儉、秩序、豫見、周密、清潔 婢僕ノ選ヒ方、扱ヒ方、仕事ノ配當、給料

家産

收支豫算 必要ナル費用、冗費 貯蓄 保險

第四編 中學校及高等女學校

五一五

第四編 中學校及高等女學校

五二六

家計簿記 出納ノ科目、記入ノ方法、帳簿ノ整理

教授上ノ注意

- 一 家事ヲ授クルニハ理論ニ偏セス實際ニ適切ナラシメンコトヲ旨トシ他ノ學科目ニ於テ生徒ノ學習ニタル事項ハ成ルヘク之ヲ利用センコトヲカムヘシ
- 二 割烹ノ實習ハ第三學年ニ於テ凡十回之ヲ課スルヲ常例トスレトモ便宜第四學年ニ涉リ之ヲ課スルモ妨ナシ

- 三 家計簿記ハ日用ニ適切ナル事例ニ依リテ練習セシムヘシ
- 四 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ
 - 衛生試驗表類 衣服地質標本 衣服洗濯用器具及藥品、保存用藥品 割烹實習用器具 食品標本 防腐劑、防臭劑 家屋圖 體溫器 灌腸器 吸入器 綑帶材料 救急函 消毒用器具及藥品 哺乳器 牛乳煮沸器 其ノ他看護用器具

第一學年

每週四時

運針 素縫、本縫

- 本裁男女單衣 部分縫、裁千方、積り方、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方
- 本裁女袴 部分縫、裏ノ裁千方、積り方、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方
- 本裁女綿入 部分縫、標附ケ方、綿ノ入レ方、縫ヒ方順序、仕立方
- 子供帶仕立方
- 繕ヒ方 綿布

服地 名稱、地質、染色、柄合、丈、幅等

第二學年

每週四時

運針 前學年ニ準ス

- 本裁男袴 部分縫、裏ノ裁千方、縫ヒ方順序、仕立方
- 本裁男綿入仕立方ノ解説
- 洗濯張り物ノ仕方
- 腹合帶仕立方
- 片面物三ッ身裁千方及中幅大幅物ニテ小裁中裁本裁ノ裁千方積り方ノ解説
- 小裁又ハ中裁綿入仕立方

本裁女綿入羽織、本裁男袴羽織

部分縫、裁千方、積り方、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方

本裁男綿入羽織仕立方ノ解説

筒袖及袖無綿入羽織 裁千方、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方

繕ヒ方 絹布、毛布

服地 前學年ニ準ス

第三學年

每週四時

本裁男單羽織 部分縫、裁千方、積り方、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方

西洋前掛 部分縫、裁千方、縫ヒ方順序、仕立方

女袴 裁千方、積り方、縫ヒ合セ方、裏取り方、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方 小裁中裁女袴ノ裁千方、積り方、寸法ノ解説

第四編 中學校及高等女學校

五一七

第四編 中學校及高等女學校

五一八

小裁中裁羽織 縫チ方、積リ方、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序ノ解説
小裁中裁本裁被布 裁チ方、積リ方、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序、小裁綿入被布ノ仕立方附飾縫ノ結

ヒ方

片面物及中幅大幅物ニテ羽織被布ノ裁チ方ノ解説

被布合羽 裁チ方、積リ方、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方

みしんノ用法

第四學年

每週四時

しやつ、すぼん下 裁チ方、積リ方、縫ヒ方順序、仕立方

男袴 裁チ方、積リ方、縫ヒ合セ方、腰立糸掛ノ順序、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方

小裁中裁男袴ノ裁チ方、積リ方、寸法ノ解説

足袋、子供腹掛、股引ノ類 裁チ方、縫ヒ方順序、仕立方

丸帶仕立方 男帶仕立方ノ解説

小袖仕立方

夜具 裁チ方、積リ方、寸法、綿ノ分量、標附ケ方、縫ヒ方順序、雛形ニテノ仕立方

みしんノ用法

手藝ヲ加フル爲ニ教授時數ヲ減スルトキハ前記ノ事項ヲ斟酌シテ之ヲ授クヘシ

教授上ノ注意

- 一 裁縫ヲ授クルニハ土地ノ情況ニ適應センコトヲ旨トシ必シモ此ノ要目ノ順序ニ依ルコトヲ要セス
- 二 他ノ學科目特ニ數學ニ於テ生徒ノ學習シタル事項ハ成ルヘク裁縫教授ニ資センコトヲ力ムヘシ

三 材料ノ品質ハ第一學年及第二學年ニ於テハ專ラ綿布類ヲ用ヒシムヘシ

四 模範トナルヘキ實物雛形等ヲ示シテ其ノ要點ヲ説キ生徒技能ノ發達ヲ助クヘシ

五 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ

衣服名稱圖 裁チ方圖 標附ケ方圖 衣服又ハ其ノ雛形 衣服ノ部分又ハ雛形 服地標

本、絲標本 鋸、其ノ臺 火熨斗、其ノ臺 裁板、裁庖刀、定規 霧吹 盛 壓板、張板、

箒 鯨尺 鋏 綿延みしん等

音樂

第一學年

每週二時

普通樂譜法 長音階、階名、音符、獸符、譜表、加線、小節、縱線、すらい、たい、嬰、變、本位記號、延聲

記號、簡易ナル發想記號等

基本教練

呼吸練習 緩吸緩呼、緩吸急呼、急吸緩呼、急吸急呼

聲音練習 發聲、母音、聲音ノ調和、長音階、三度音程、弱中強ノ唱ヒ方等

聲域ハ小字ろヨリ二點ほマテ、拍子ハ二拍子及四拍子、音符及獸符ハ一拍以上ノモノヲ用フ

唱歌 簡易ナル單音唱歌凡二十曲

第二學年

每週二時

普通樂譜法 前學年ニ準シ又音名、音部記號、調子記號、拍子記號、短音階及普通ニ用ヒラル、樂譜

記法、速度標語等ヲ加フ

基本教練

第四編 中學校及高等女學校

五一九

第四編 中學校及高等女學校

五二〇

呼吸練習 前學年ニ準ス但シ急吸緩呼ヲ主トシ呼吸ノ際一定ノ高度ニ於テ母音ヲ合唱セシメ又數
ナ呼ハシムルコトアルヘシ

聲音練習 母音三和音、四度音程、五度音程、旋律的短音階、弱中強、れがしと及すたつかとノ
唱ヒ方等

聲域ハ小字イヨリ二點ヘマテ、拍子ハ既修ノモノ、外三拍子及六拍子ヲ併用シ音符及點符ハ一拍以
上ノモノヲ用フ

唱歌 前學年ニ準シテ程度稍々進ミタル單音唱歌凡十五曲及簡易ナル二部輪唱凡五曲

第三學年

每週二時

基本教練

聲音練習 子音、六度音程、上行漸弱、下行漸強、上行漸強、下行漸弱、三音變拍子及しーんこば、

高音部中音部ノ唱ヒ方等

聲域拍子等ハ前學年ニ同シ

聽音練習 簡易ナル音程ニ於ケル二個乃至七個音ノ連續

唱歌 前學年ニ準シテ程度稍々進ミタル單音唱歌、二部及三部輪唱、二部合唱通シテ凡十五曲

普通樂譜法 前二學年中授ケタル事項ノ復習及補説

樂器

をるがん ぶろーべたる、練習、五指練習、長音階練習、すういゝるノ練習、簡易ナル樂曲若干

ぴあの 五指練習、長音階練習、簡易ナル樂曲若干

第四學年

每週二時

基本教練

聲音練習 子音、七度音程、八度音程、普通鹽梅、高音部中音部ノ唱ヒ方等

聲域拍子等ハ前學年ニ同シ

聽音練習 簡易ニシテ趣味アル旋律中節及大節

唱歌 前學年ニ準シテ程度稍々進ミタル單音唱歌、四部輪唱、二部及三部合唱通シテ凡十二曲

普通樂譜法 前學年ニ準シ又和聲ノ階梯ヲ加フ

樂器

ふるがん又ハびあの 短音階練習及樂曲若干

本要目ハ輪唱歌、複音唱歌、樂器使用法ヲ授ケル場合ニ就キ示ス。雖之ヲ授ケサルトキハ適宜斟酌ヲ加フ
ヘシ

教授上ノ注意

一 聲音聽音ノ練習並ニ唱歌樂器ノ教授ハ初ヨリ樂譜ニ依ルヘシ

二 普通樂譜法ニ於ケル樂理及樂譜材料ハ實際ノ必要ヲ斟酌シ成ルヘク順序ヲ正シ區域ヲ小分シテ漸次
之ヲ授クヘシ

三 基本教練ハ各學年ヲ通シテ之ヲ課シ成ルヘク樂譜法並ニ唱歌ニ關聯セシメンコトヲ要ス

四 呼吸及聲音ノ練習ハ唱歌教授時間ノ初ニ於テシ聽音練習ハ同時間内聲音ヲ休養スル時ニ於テスヘシ

五 歌曲ハ歌詞、歌想、樂式、樂趣共ニ能ク生徒ノ思想、感情、年齡等ニ適應シテ其ノ品位ヲ高稚ナラシ
メ又諸學科目ノ統一ニ資スヘキモノニ就キ之ヲ選フヘシ

六 唱歌及樂器ニ於ケル歌曲ハ其ノ數多キヲ求メスシテ十分之ニ熟達セシメンコトヲ要ス

第四編 中學校及高等女學校

五二一

七 生徒ヲモテ唱歌セシムル際常ニ姿勢ニ注意セシメ又成ルヘク教員及樂器ニ依頼スルコトナカラシムヘシ

八 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ
かるがん又ハびあの ばいあん 調音叉、めどろのーむ 掛圖、其ノ臺 譜表ヲ記入セタル
黑板、譜表臺等

第一學年及第二學年

每週三時

普通體操

準備法 整容法 呼吸法

矯正術

徒手體操

遊戲

行進運動及遊技

第三學年及第四學年

每週三時

普通體操

矯正術

徒手體操

陸鈴體操

遊戲

行進運動及遊技

體操ハ凡普通體操ニ、遊戲一ノ比ヲ以テ之ヲ課スヘシ
土地ノ狀況ニ依リ遊戲ニ於テ便宜遊泳、氷滑リノ類ヲ加フルコトヲ得

教授上ノ注意

- 一 體操ハ成ルヘク女教員ヲシテ之ヲ教授セシムヘシ
- 二 體操ヲ授クルニハ先ツ其ノ運動ノ目的筋肉ノ使用部等ヲ説明シ然ル後正確ニ其ノ模範ヲ示シテ之ニ倣ハシムヘシ
- 三 一運動ヲ始メテ授クル場合ニハ精密ニ注意シテ些少ノ誤謬タリトモ寛假スルコトナク之ヲ矯正スヘシ
- 四 體操ニ於テハ生徒ノ體力ニ留意シ過度ノ運動ヲナサシムヘカラス虛弱ナル生徒ニハ特ニ留意シテ之ヨリ強キ運動ヲナサシムス漸次之ニ堪フルニ至ラシムヘシ
生徒身體ノ定期的異狀アルニ際シテハ體操ヲ休止セシムヘシ
- 五 既ニ授ケタル運動ハ反復練習シテ之ニ熟達セシムヘシ然レトモ長時間連續シテ同一ノ運動ノミヲナサシムヘカラス
- 六 教授ノ回数ハ每週凡六回トシ成ルヘク同一教授時間ニ於テ普通體操及遊戲ヲ併セ課スヘシ
- 七 體操ニ於テハ衣服特ニ帶袴ノ仕立方著方ニ留意シ四肢ノ運動ハ勿論呼吸及血液循環ヲシテ自在ナラシメンコトヲ期スヘシ
- 八 塵埃多キ場所又ハ夏日日光ノ直射スル場所ニ於テ運動セシムルコトハ之ヲ避クヘシ
- 九 教授時間外ニ於テモ常ニ生徒ヲシテ其ノ姿勢ニ留意セシムルハ勿論又適宜各種ノ遊戯運動ヲ勸奨ス

第四編 中學校及高等女學校

五二四

十 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ

噺鈴 羽子板、羽根、豆蕨、毬、輪、綱、くろげし、ろしてんにす等ノ諸遊技ニ用フル器具、
教育

第四學年

每週二時

緒論

心ノ狀態

心ノ觀察法 意識、注意、感覺、知覺、概念、記憶、想像、概念、言語ノ發達、斷定、推理、感應、情緒
情操 衝動、本能、慾望、意志 知的及德的陶冶 心身ノ關係、男兒及女兒、個性

教育

家庭教育 兒童身體ノ養護、遊戲及手技、說話、命令賞罰

幼稚園保育、其ノ方法

學校教育 教授、訓練 家庭教育ト學校教育 家庭教育ト國家

教授上ノ注意

一 教育ハ生徒既知ノ事實ニ關聯シテ之ヲ授ケ家庭教育上ニ適切ナラシメンコトハ勿論生徒ノ修養上ニ
應用セシメンコトヲ旨トシ徒ニ高遠ナル理論ニ馳セサランコトヲ要ス

二 生徒ノ家庭ヲ愛スル念ヲ養ヒ家庭教育ノ重要ナル任務ナルコトヲ曉ラシムヘシ

三 心ノ狀態ニ於テハ近易ナル實例ニ依リ乳兒期、幼兒期、兒童期等各時期ニ於ケル發達ノ大要ヲ敘述シ
其ノ保育ニ關スル注意ヲ與フヘシ

手藝

第二學年以上

每週二時

手藝ハ編物、組絲、蠶物、刺繡、造花等ノ中ニ就キ一種又ハ數種ヲ授クヘシ其ノ事項凡次ノ如シ

編物

毛糸、綿絲、絹絲、麻絲等ヲ用ヒ手袋足袋、帽子、襟卷、巾着、襦袢、髮飾等ニ就キテ種々ノ編ミ方ヲ授
ケ又便宜ノ方法ニ依リ材料ノ性質、圖案、色ノ配合ヲ授クヘシ

組絲

綿絲、絹絲、毛絲、麻絲等ヲ用ヒ打紐、羽織紐、帶留、髮飾其ノ他裝飾品等ニ就キテ種々ノ組ミ方ヲ授ケ
又便宜ノ方法ニ依リ材料ノ性質及色ノ配合ヲ授クヘシ

蠶物

綿布、絹布、毛布、麻布、皮革、合羽紙等ヲ用ヒテ紙入煙入等ノ作り方ヲ授ケ又便宜ノ方法ニ依リ材
料ノ性質及圖案ヲ授クヘシ

刺繡

綿絲、絹絲等ヲ用ヒ襟、服紗、蠶物地、服地、髮飾其ノ他裝飾品等ニ就キテ種々ノ繡ヒ方ヲ授ケ又便
宜ノ方法ニ依リ材料ノ性質、圖案、色ノ配合、絲ノ染メ方ヲ授クヘシ

造花

紙、綿布、絹布、羽毛等ヲ用ヒ花簪、草木花卉ノ模造品、室内裝飾品等ニ就キテ其ノ作り方ヲ授ケ又便
宜ノ方法ニ依リ花葉ノ構造、材料ノ性質及染メ方、圖案、色ノ配合、用具ノ取扱方ヲ授クヘシ

其ノ他ノ技藝ニ關シテハ別ニ其ノ目ヲ舉ケスト雖土地ノ情況ニ應シテ便宜之ヲ定ムヘシ

第四編 中學校及高等女學校

五二五

第四編 中學校及高等女學校

教授上ノ注意

- 一 生徒ノ選擇スヘキ技藝ノ種類ハ成ルヘク多岐ニ互ラスシテ其ノ技藝ニ熟練セシメントナ期スヘク
- 二 實習製品ハ成ルヘク用途アルモノヲ選ヒ材料ヲ徒費セサランコトニ注意スヘシ
- 三 染メ方ハ坊間ニ於テ得難キ色ヲ染メ出サシメントト主トシ簡易ナル方法ニ依リテ之ヲ授クヘク
- 四 圖案ヲ授クルニハ單ニ之ヲ說示スルコトニ止メス成ルヘク生徒ヲシテ之ヲ實習セシムヘシ
- 五 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ

材料標本 作り方ヲ示ス標本 色ノ配合ヲ示ス標本 圖案標本 作り方用器具等
 刺繡造花ニ關シテハ凡次ノ備品ヲ加フヘシ
 染料標本 材料ノ染メ方ヲ示ス標本 染メ方用器具 花葉ノ大模型 寫生用植物

○秋田縣立秋田高等女學校則規

(明治三十五年三月)
 (縣令第一四號)

第一章 學科、學科課程及教授時數

- 第一條 本校ニハ本科ノ外補習科及技藝專修科ヲ置ク
- 第二條 修業年限ハ本科四箇年補習科一箇年技藝專修科二箇年トス
- 第三條 本科ノ學科目ハ修身、國語、外國語、歷史、地理、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、音樂、體操トシ隨意科目トシテ教育手藝ヲ加フ
- 補習科ノ學科目ハ前項ニ依ル但歷史、地理、理科、手藝ヲ缺ク
- 外國語ハ英語トス
- 本科及補習科ノ學科課程及每週教授時數ハ左表ニ依ル

學科別	本科				補習科
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	
修身	一 道德ノ要領	二 道德ノ要領	二 道德ノ要領	二 道德ノ要領	一 道德ノ要領
國語	四 講讀 一 文法及作文	四 講讀 一 文法及作文	三 講讀 一 文法及作文	四 講讀 一 文法及作文	四 講讀 一 文法及作文
外國語	三 發音綴字 讀方語解、會話、書取、習字	三 發音綴字 讀方語解、會話、書取、習字	三 讀方語解、會話、書取	五 讀方語解、會話、書取	四 讀方語解、會話、書取
歷史	一 日本歷史	二 日本歷史	一 東洋歷史	二 西洋歷史	
地理	二 日本地理	一 外國地理	一 外國地理	一 地文	
數學	算術、整理、及小數諸等及比、分數比	算術、前學、年ノ復習、及比、分數比	算術、前學年、復習比及比、割合、開平	算術、前學年ノ復習、代數幾何	算術、代數幾何、乘除
理科	二 動物、植物	二 動物、生理及衛生	二 化學及礦物、生理	一 物理	
圖畫	一 自在畫、寫生畫	一 自在畫	一 自在畫、寫生畫、攝影	一 自在畫	二 自在畫

第四編 中學校及高等女學校

五二七

第四編 中學校及高等女學校

家事	縫	音	體	合計	教育	手藝
縫針、縫ヒ方、裁チ方、縫ヒ方	運針、縫ヒ方、裁チ方、縫ヒ方	普通樂譜法、基本教練、唱歌	普通體操、遊戯	二八	心ノ状態、教育ノ原理	二編物
裁チ方、縫ヒ方	縫ヒ方、裁チ方	基本教練、唱歌、普通樂譜法、樂器練習	普通體操、遊戯	二八	教育ノ原理	二編物
裁チ方、縫ヒ方	縫ヒ方、裁チ方	基本教練、唱歌、普通樂譜法、樂器練習	普通體操、遊戯	二八	教育ノ原理	二編物
裁チ方、縫ヒ方	縫ヒ方、裁チ方	基本教練、唱歌、普通樂譜法、樂器練習	普通體操、遊戯	二八	教育ノ原理	二編物
裁チ方、縫ヒ方	縫ヒ方、裁チ方	基本教練、唱歌、普通樂譜法、樂器練習	普通體操、遊戯	二八	教育ノ原理	二編物
裁チ方、縫ヒ方	縫ヒ方、裁チ方	基本教練、唱歌、普通樂譜法、樂器練習	普通體操、遊戯	二八	教育ノ原理	二編物
裁チ方、縫ヒ方	縫ヒ方、裁チ方	基本教練、唱歌、普通樂譜法、樂器練習	普通體操、遊戯	二八	教育ノ原理	二編物
裁チ方、縫ヒ方	縫ヒ方、裁チ方	基本教練、唱歌、普通樂譜法、樂器練習	普通體操、遊戯	二八	教育ノ原理	二編物
裁チ方、縫ヒ方	縫ヒ方、裁チ方	基本教練、唱歌、普通樂譜法、樂器練習	普通體操、遊戯	二八	教育ノ原理	二編物
裁チ方、縫ヒ方	縫ヒ方、裁チ方	基本教練、唱歌、普通樂譜法、樂器練習	普通體操、遊戯	二八	教育ノ原理	二編物

五二八

本科ニ於テ教育ヲ課スルトキハ第四學年ノ國語ノ每週教授時數ヲ減シテ之ニ充テ手藝ヲ課スルトキハ第二學年以上裁縫ノ每週教授時數ヲ減シテ之ニ充ツ
補習科ニ於テ教育ヲ課スルトキハ數學ノ每週教授時數ヨリ一時圖畫ノ每週教授時數ヨリ一時裁縫ノ每週教授時數ヨリ二時ヲ減シテ之ニ充ツ
第四條 技藝專修科ノ學科科目ハ手藝、修身、國語、數學、圖畫、家事、裁縫、音樂、體操トス

手藝ハ通常ノ編物及刺繡トス

技藝專修科ノ學科課程及每週教授時數ハ左表ニ依ル

學科	學科別	學科目	年	技藝專修科			
				第一學年	第二學年		
修身	國語	算術	圖畫	家事	裁縫	音樂	體操
二	四	二	二	二	二	一	二
道德ノ要領	講讀、作文	算術、小數、諸等數、分數比及比例	自在畫、寫生畫、臨畫	運針縫ヒ方、裁チ方	普通樂譜法、基本教練、唱歌	普通體操	普通體操
二	三	二	一	二	一	二	二
道德ノ要領	講讀、作文	算術、小數、諸等數、分數比及比例	自在畫、寫生畫、臨畫、考案畫	運針縫ヒ方、裁チ方	普通樂譜法、基本教練、唱歌	普通體操	普通體操

第四編 中學校及高等女學校

五二九

手	藝	三編	物	三	刺	繡
合	計	二八		二八		

第五條 教授終始ノ時刻ハ學校長之ヲ定ムヘシ

第二章 學年、休業日及儀式

第六條 補習科及技藝專修科ノ學年ノ終始及學期ノ區分ハ本科ノ例ニ依ル

第七條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 祝 大祭日
 - 二 皇后陛下御誕辰日
 - 三 日曜日
 - 四 夏季休業日
自七月二十一日
至八月三十一日
 - 五 冬季休業日
自十二月二十五日
至一月七日
 - 六 學年末休業日
自三月二十五日
至三月三十一日
 - 七 學校紀念日
- 第八條 式日ニハ左ノ儀式ヲ行フヘシ
- 一 職員及生徒(君ガ代)ヲ合唱ス
 - 二 職員及生徒

天皇陛下

皇后陛下ノ御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ

- 三 學校長教育ニ關スル勅語ヲ奉讀ス
- 四 學校長教育ニ關スル勅語ニ基キ學旨ノアル所ヲ諭告ス
- 五 職員及生徒其ノ祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス

第三章 生徒定員、入學、退學及懲戒

第九條 本校生徒ノ定員ハ本科三百二十名補習科二十名技藝專修科六十名トス

第十條 生徒入學ノ時期及募集人員ハ學校長之ヲ廣告スヘシ

第十一條 品行端正身體健康ノ者ニアラサレバ入學スルコトヲ許サズ

第十二條 入學願書及履歷書ハ第一號書式ニ依ルヘシ

第十三條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ第二號書式ノ在學證書ヲ差出スヘシ

第十四條 保證人ハ二名トシ一名ハ父母後見人又ハ親族一名ハ學校所在地一里以內ニ居住スル男子タル

第十五條 保證人ハ成年以上ニシテ相當ノ職業又ハ資産ヲ有シ一戸ヲ構ヘ治産ノ禁ヲ受ケス且生徒ノ身

元ヲ引受ケ之レカ保護監督ニ責ヲ負フニ足ルタルヘシ

第十六條 學校長ニ於テ保證人ヲ不適當ト認メタルトキハ之ヲ換ヘシムルコトヲ得

第十七條 保證人轉居、改氏名、改印等ヲ爲シタルトキハ其ノ都度届出ツヘシ

第十八條 保證人第十二條及第十三條ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ相當ノ保證人ヲ定メ在學證書ヲ書換

フヘシ

第四編 中學校及高等女學校

第十七條 生徒退學セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ノ上願出ツヘシ但シ疾病ニ因ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十八條 生徒又ハ同居ノ者傳染病ニ罹リタルトキハ其生徒ノ登校ヲ停止スヘシ

寄宿生徒傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ保證人ニ引渡スヘシ

第十九條 生徒若シ規則訓示等ニ違背スルトキハ之ヲ懲戒スヘシ

第二十條 懲戒ハ證書、留置、禁足及停學ト四トシ輕重ニ從ヒ之ヲ科スヘシ

罷責ハ將來ヲ戒メ戒飭ヲ加フルモノトス

留置ハ通學生徒ニ科スルモノニシテ放課後留置スルモノトス

禁足ハ寄宿生徒ニ科スルモノニシテ外出ヲ禁スルモノトス

停學ハ一週間以上一箇年以内登校ヲ停止スルモノトス

第四章 課程ノ修了及卒業ノ認定

第二十一條 生徒學業ノ成績ハ每學期之ヲ調査スヘシ

第二十二條 學業成績ハ簡易ナル評點又ハ評語ヲ以テ之ヲ表スヘシ

第二十三條 學年未ニ於テハ各學期ノ成績ヲ考ヘ其ノ學年ノ課程ヲ修了シタルヤ否ヤヲ認定スヘシ

第二十四條 修業年限ノ終ニ於テハ在學期ノ成績ヲ考ヘ卒業ヲ認定スヘシ

第二十五條 成績考查ノ細則ハ學校長之ヲ定ムヘシ

第二十六條 各學年ノ課程ヲ修了シタルモノニハ修業證書ヲ授與スヘシ

隨意科目ヲ認メタルモノニハ修業年限ノ終リニ於テ修了證書ヲ授與スヘシ

第二十七條 卒業證書、修業證書及修了證書ハ第三號乃至第五號書式ニ依ル

第五章 授業料及特待生

第二十八條 授業料ノ月額ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 本科及補習科 金壹圓貳拾錢

二 技藝專修科 金八拾錢

第二十九條 授業料ハ毎月二十一日後一週日以内ニ之ヲ徴收ス但其前ニ退學スル者及其ノ後ニ入學スル者ニ就テハ即時ニ徴收スヘシ

第三十條 休業又ハ疾病事故等ニ因リ課業ヲ受ケサルコト全月ニ亘ルトキハ其月分ノ授業料ヲ徴收セス

第三十一條 第二學年以上ノ生徒ニシテ性行善良學力優等ナル者ヲ選抜シテ特待生トス

第三十二條 特待生ハ每學年末ニ於テ其ノ學年ノ成績ニ依リ學校長之ヲ選抜スヘシ

特待生ニハ一學年間授業料ヲ免ス

第三十三條 學校長ニ於テ特待生ノ資格ヲ失ヒタル者ト認メタルトキハ其ノ待遇ヲ解クヘシ

特待生ノ待遇ヲ解キタルトキハ其ノ翌月ヨリ授業料ヲ徴收スヘシ

第七章 寄宿舎

第三十四條 生徒ハ總テ寄宿舎ニ入ルヘキモノトス但シ學校長ニ於テ通學ヲ許シタルモノハ此限ニアラ

ス

寄宿生徒ハ第六號書式ノ在舍證書ヲ差出スヘシ

第三十五條 賄料其ノ他寄宿ニ要スル書類并ニ其ノ出納方法ハ學校長之ヲ定ムヘシ

第三十六條 寄宿生徒管理ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ムヘシ

第八章 附則

第四編 中學校及高等女學校

第四編 中學校及高等女學校

五三四

第三十七條 明治三十四年(三月)縣令第十三號秋田縣立秋田高等女學校規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十八條 明治三十四年(三月)縣令第十三號秋田縣立秋田高等女學校規則ニ依リ差出シタル在學證書ハ本令施行後尙其ノ効力ヲ有ス

第一號書式

入學願書

私儀今般御校何科何學年ニ入學志願ニ付御許可相成度別紙履歷書(及卒業證書修業證書寫)相添此段相願候也

年 月 日

本籍道府縣郡市町村番地族籍

現居所同上

何某何女(姉妹等)又ハ戶主

入學志願者 氏

名 印

本籍道府縣郡市町村番地族籍

現居所同上

右父(母祖父兄等)又ハ後見人 氏

名 印

秋田縣立秋田高等女學校長氏名殿

履 歷 書

本籍道府縣郡市町村番地族籍

現居所同上

何某何女(姉妹等)又ハ戶主

氏

名 印
生 年 月

一何年何月ヨリ何年何月迄何所何學校ニ於テ又ハ某ニ就キ何學科修業

一何年何月何學校ニ於テ本科卒業

一賞罰何々

右ノ通相違無之候也

年 月 日

右 氏

名 印

第二號書式(用紙美濃紙)

在學證書

印紙

私儀今般御校へ入學御許可相成候ニ付テハ御規則御告諭等堅ク可相守ハ勿論ニ退學致間敷且在學中ニ係ル一切ノ件ハ保證人ニ於テ引受可申仍テ保證人連署ノ上證書如斯候也

年 月 日

本籍道府縣郡市町村番地族籍

現居所同上

第四編 中學校及高等女學校

五三五

第四編 中學校及高等女學校

五三六

何某何女(姉妹等)又ハ戶主

氏

名印
生年月

本籍道府縣郡市町村番地職業

現居所同上

右父(母祖父兄等)又ハ後見人

保證人 氏

名印
生年月

本籍道府縣郡市町村番地族籍職業

現居所秋田縣郡市町番地

保證人 氏

名印
生年月

秋田縣立秋田高等女學校長氏名殿

右保證人何某ハ當(市)町村內ニ居住シ成年以上ニシテ一戶ヲ構ヘ治産ノ禁ヲ受ケス保證ノ責ニ堪フヘキ者ニ相違無之候也

年月日

道府縣郡(市)町村長 氏 名印

右保證人何某ハ當(市)町村內ニ居住シ成年以上ニシテ一戶ヲ構ヘ治産ノ禁ヲ受ケス保證ノ責ニ堪フヘキ者ニ相違無之候也

年月日

秋田縣郡(市)町村長 氏 名印

第三號書式

修業證書

番號

族籍

校印

氏 名

生年月

右者本校何科何學年ノ課程ヲ修了セリ仍テ之ヲ證ス

秋田縣立秋田高等女學校

年月日

第四號書式

卒業證書

番號

族籍

校印

氏 名

生年月

右者本校何科ノ課程ヲ修了正ニ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス

秋田縣立秋田高等女學校長位勳爵 氏

名印

年月日

第五號書式

修了證書

第四編 中學校及高等女學校

五三七

第四編 中學校及高等女學校

五三八

番號
校印

族籍

氏

名

生年月

右者本校隨意科目何々ヲ修了セリ仍テ之ヲ證ス

年月日

秋田縣立秋田高等女學校

第六號書式 (用紙美澁紙)

在舍證書

私儀今般御校寄宿舍へ寄宿仕候ニ付テハ御舍則并御告諭等堅ク可相守ハ勿論在舍中ニ係ル一切ノ件ハ保證人ニ於テ引受ケ可申仍テ保證人連署ノ上證書如斯ニ候也

年月日

第何學年生徒

氏

名印

現居所族籍

父(母祖父兄等)又ハ後見人

保證人 氏

名印

現居所族籍

保證人 氏

名印

秋田縣立秋田高等女學校校長氏名殿

○師範學校及高等女學校ノ女生徒試驗施行及體操科休課方

(明治三十三年三月 文部省訓令第六號)

北海道廳 府縣

女子ノ師範學校及高等女學校ニ在學スル年紀ハ心身ノ發育上最モ注意ヲ要スル時期ナリ故ニ右等ノ學校ニ在リテハ女生徒學業ノ成績ハ平素ニ於テ便宜之ヲ調査セシムルコト、シ時期ヲ定メテ一時ニ全學科目ノ試験ヲ行フコト勿カラシムヘシ又月經ノ間ハ其ノ生徒ニ限リ體操科ヲ課セシメサルヲ要ス

○教員免許令

(明治三十三年三月 勅令第三百二十四號)

第一條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外教員免許狀ヲ授與スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ニ依リ免許狀ヲ有スル者ニ非サレハ教員タルコトヲ得ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

第三條 教員免許狀ハ教員養成ノ目的ヲ以テ設置シタル官立學校ノ卒業者又ハ教員檢定ニ合格シタル者ニ文部大臣之ヲ授與ス

第四條 教員檢定ハ試驗檢定及無試驗檢定トシ教員檢定委員之ヲ行フ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員檢定ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタル者
- 三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限りノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第六條 教員檢定ヲ出願スル者ハ手数料トシテ一學科目毎ニ金三圓ヲ納付スヘシ

第四編 中學校及高等女學校

五三九

第四編 中學校及高等女學校

五四〇

- 第七條 教員檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第八條 教員免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名族籍及免許ノ學科ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス
- 第九條 教員免許狀ヲ有スル者其ノ氏名族籍ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事出テ記シ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得
- 前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手数料金壹圓ヲ納付スヘシ
- 第十條 免許狀ヲ有スル者第五條各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其ノ効力ヲ失フ
- 第十一條 教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ免許狀ヲ褫奪ス
- 第十二條 本令ニ依リ納付スヘキ手数料ハ收入印紙ヲ用キ之ヲ願書ニ貼付スヘシ其ノ既ニ納メタル後ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス

附則

- 第十三條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十四條 本令施行前文部大臣ニ於テ授與シタル師範學校、中學校、高等女學校ノ教員免許狀及舊東京師範學校ニ於テ授與シタル中學校師範科卒業證書ハ本令ニ依リ授與シタル教員免許狀ト同一ノ効力ヲ有ス

○教員檢定ニ關スル規程

(明治三十三年六月) 文部省令第十號

- 第一條 教員檢定ハ受檢人ノ學力、品行、身體ニ就キ教員タルニ堪能ナルヤ否ヤヲ檢定スルモノトス
- 第二條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ但シ法制及經濟ノ試驗檢定ハ修身若ハ教育ノ免許狀ヲ有スル者ノ外修身若ハ教育ヲ併セテ出願スルニアラサレバ之ヲ行ハス此場合ニ於テハ其ノ手数料ニ關シテハ之

ナ一學科目ト看做ス

修身	教育	國語及漢文	英語
佛語	獨語	歷史	地理
數學	物理及化學	博物	法制及經濟
習字	圖書	家事裁縫	體操
音樂	簿記	農業	商業
手工	手藝		

歷史ハ日本史東洋史、西洋史ノ二部ニ數學ハ算術代數幾何三角法、解析幾何、微分積分ノ三部ニ物理及化學ハ物理、化學ノ二部ニ博物ハ動物及生理、植物、鑛物ノ三部ニ分チテ檢定ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ一學科目ノ一部若ハ數部ノ檢定ヲ出願スルモ其ノ手数料ニ關シテハ一學科目ト看做ス

解析幾何ハ算術代數幾何微分積分ハ解析幾何ニ合格シタル上ニアラサレハ檢定ヲ行ハス

第三條 試驗檢定ハ毎年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ隨時之ヲ行フ

試驗檢定ノ出願期限、試驗ヲ爲スヘキ學科目及試驗施行ノ期日ハ豫メ之ヲ告示ス

第四條 檢定ヲ受ケムトスル者ハ氏名、族籍、住所、生年月及教員タラムト欲スル學校ノ種類、學科目ヲ記シタル願書(一號)ニ左ノ書類ヲ添ヘ試驗檢定ニ在リテハ地方廳ヲ經由シ無試驗檢定ニ在リテハ地方廳若ハ當該學校ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ

- 一 學業、業務、賞罰等ニ關スル履歷書(二號)及學業證書若ハ教員免許狀ノ寫
- 二 學校醫ノ身體檢查書(三號)但シ學校醫ノ設置ナキ地ニ在リテハ明治三十一年文部省令第七號第一條若ハ第二條ニ該當スル資格アル醫師ノ檢查書ヲ以テスルモ妨ケナシ

第四編 中學校及高等女學校

五四一

第四編 中學校及高等女學校

五四二

地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ品行ニ就キ檢定願書ニ添ヘ其ノ意見ヲ附記スルコトヲ要ス

第五條 左ノ第一號乃至第四號ニ掲クル者ハ文部大臣ノ適當ト認メタル學科目ニ關シ第五號ニ掲クル者ハ其ノ免許ノ學科目ニ關シ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

一 文部大臣ノ指定シタル學校ノ卒業者及選科修了者

二 師範學校、中學校、高等女學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ卒業生ノ教員免許資格ニ關シ文部大臣ノ許可ヲ受ケタル公立、私立學校ニ入り三學年以上在學シテ卒業シタル者但シ修業年限五箇年ノ高等女學校ノ卒業證書ヲ有スル者ノ在學ハキ年數ハ二學年以上トス

三 師範學校、中學校、高等女學校及之ト同等以上ノ學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ外國ノ大學校若ハ之ニ準スヘキ學校ニ於テ修學シ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者

四 外國ニ於テ師範學校、中學校、高等女學校ニ準シヘキ學校ヲ卒業シ更ニ大學校若ハ之ニ準スヘキ學校ニ入り修學シ學位若ハ卒業證書ヲ受領シタル者

五 教員タラムト欲スル學校ノ學科程度ト同等以上ノ學校ノ教員免許狀ヲ有スル者

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試験檢定ヲ受クルコトヲ得

一 中學校ヲ卒業シタル者

二 修業年限四ヶ年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者

三 專門學校入學者檢定規程ニ依ル試験檢定ニ合格シタル者

四 專門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ依リ一般ノ專門學校入學ニ關シ指定ヲ受ケタル者

五 小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

六 明治四十二年二月以前ニ於テ教員免許令ニ依リ授與セラレタル教員免許狀ヲ有スル者

第六條ノ二 前條ノ外左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ某科目ニ限リ試験檢定ヲ受クルコトヲ得

一 英語科、佛語科、獨語科ニ在リテハ外國ニ於テ師範學校、中學校、高等女學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シタル者

二 數學科、物理及化學科、博物科ニ在リテハ文部大臣ニ於テ適當ト認定シタル學校ヲ卒業シタル者

三 裁縫科ニ在リテハ高等女學校ニ於ケル修業年限三ヶ年以上ノ技藝專修科ヲ卒業シタル者

四 農業科ニ定リテハ徵兵令第十三條ニ依リ中學校ト同等以上ト認定セラレタル甲種農業學校ヲ卒業シタル者

五 商業科ニ在リテハ徵兵令第十三條ニ依リ中學校ト同等以上ト認定セラレタル甲種商業學校ヲ卒業シタル者

六 手工科ニ在リテハ徵兵令第十三條ニ依リ中學校ト同等以上ト認定セラレタル工業學校ヲ卒業シタル者

第七條 試験ヲ分チテ豫備試験及本試験トス但シ學科目ノ種類ニ依リ豫備試験ヲ行ハサルコトアルヘシ豫備試験ヲ施行スル學科目ニ在リテハ豫備試験ニ合格シタル者ニアラサレハ本試験ヲ受クルコトヲ得

第八條 試験ハ受験人出願ノ學科目ニ就キ其ノ教員タラムト欲スル學校ノ學科目ヲ教授スルニ足ルヘキ程度ヲ標準トシ教育ノ大意及教授法ヲ併セテ之ヲ行フモノトス

第九條 豫備試験ハ願書經由ノ地方廳所在地ニ於テ之ヲ行フ

本試験ヲ行フ場所ハ其ノ都度之ヲ告示ス

第十條 左ニ掲クル者ニシテ體操科ノ試験檢定ヲ出願シタルトキハ兵式體操ノ部分ヲ省ク

一 陸軍歩兵科士官

第四編 中學校及高等女學校

五四三

第四編 中學校及高等女學校

五四四

二 陸軍歩兵科下士任官後滿四年以上現役ニ服シタル者

第十一條 國語及漢文科、數學科圖畫科ノ試験檢定ヲ受ケタル者ニシテ國語及漢文科ニ在リテハ國語、

漢文ノ一、數學科ニ在リテハ算術代數幾何、圖畫科ニ在リテハ毛筆畫、用器畫、鉛筆畫、用器畫ノ一二關

シ成績佳良ナルトキハ教員檢定委員會々長ハ其ノ部分ノ成績ニ關シ証明書ヲ授與スヘシ

前項ノ證明書ヲ受ケタル者ニシテ更ニ同一學科目ニ就キ試験檢定ヲ出願シタルトキハ其ノ證明書ニ配

載シタル部分ノ試験ヲ省ク

第十二條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケムト企テタル者及試験ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ試験ヲ受

クルコトヲ得ス
檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トスルコトアルヘシ

附則

第十三條 (刪除)

第十四條 明治三十二年文部省令第二十五號第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル公立、私立學校ハ本令第五

條第一項第二號ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十五條 従前ノ規定ニ依リ認メラレタル豫備試験ノ合格並ニ證明書ノ效力ハ仍其ノ有効期間存續ス

明治四十年四月二十五日文部省令第十三號附則

本令ハ明治四十二年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ第六條ノ規定ニ拘ラス試験檢定ヲ受クルコトヲ得但シ第一號ニ該當スル

者ニ關シテハ本令施行後三ヶ年間ニ限ル
一 本令公布ノ際現ニ師範學校、中學校又ハ高等女學校ノ教員ノ職ニ在ル者

二 前號ニ該當スル者ニシテ試験檢定ヲ授ケ教員免許狀ヲ授與セラレタル者

第一號書式 (用紙美濃紙)

教員檢定願

住所族籍

氏

名

生年月

何學科 何學科

印收紙入

私儀師範學校(中學校) 女子師範學校 (高等女學校) 教員志願ニ候間前記ノ學科ニ就キ試験檢定(無

試験檢定) 相受度別紙履歷書並ニ醫師身體檢査書相添ヘ此段相願候也

年 月 日

右

何

某 印

文部大臣何某殿

第二號書式 (用紙美濃紙)

履 歷 書

氏

名

年 月 日

學 業

一年月日何學校ニ入學年月日何科卒業 證書寫別紙ノ通

第四編 中學校及高等女學校

五四五

第四編 中學校及高等女學校

五四六

一年月日何々ヨリ何免許狀ヲ受ク 免許狀寫別紙ノ通

業務

一年月日何官職拜命或ハ何業ニ從事年月日依願免官或ハ廢業又ハ現今在職從事等

賞罰

一年月日何所ニ於テ何々ニ付キ何賞ヲ受ク或ハ何罰ヲ受ク

右之通相違無之候也

年月日

右

何

某印

第三號書式 (用紙美濃紙記載方ハ別記身體檢查書記職方心得ニ依ルヘシ)

身體檢查書

族籍

何

生

年

月

一 體 格

一 身 長

一 體 重

一 胸 圍

一 中心視力

色 盲

一 眼 力 眼 痛

耳 疾

一 呼 吸 器

一 神 經 系

一 皮 膚

一 言 語

一 既往現在ノ疾病又ハ畸形

右検査候處相違無之候也

年 月 日 検査

住 所
何 學校 醫 生

學 位 若 何 資 格

某 印

別 記

身體検査書記職方心得

一 検査ノ表記及身長體重胸圍聴力等ノ検査方法ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體検査規程

ニ準スヘシ

一 體格ノ強健ト稱スルモノハ發育營養共ニ佳良ニシテ其ノ身長(セントリメートル)ヲ以テ體重(キログラム)ヲ除ケタル商(ク)

三二以上且無病健全ノ者ヲ指ス

第四編 中學校及高等女學校

五四七

第四編 中學校及高等女學校

五〇八

中等ト稱スルハ發育營養共ニ通常ニシテ其ノ身長(種)ヲ以テ體重(種)ニ除シタル商〇、二六以上且無病ノ者ヲ指ス

薄弱ト稱スルハ發育營養共ニ不十分ナルカ或ハ身長(種)ヲ以テ體重(種)ヲ除シタル商〇、二六未滿ナルカ或ハ強度ノ脊柱彎曲、扁平胸、狹小胸若ハ全身ノ健康ニ直接ノ關係アル慢性ノ疾患アル者ヲ指ス

一中心視力ハスネルレン氏ノ試視力表ニ依リテ其ノ記載方ハ()ト記スヘシ但シ遠視若ハ近視ニアリテハ二十尺ノ距離ニ於テ二十號ヲ明視シ得ル眼鏡ノ度ヲ記載スヘシ

色盲ハ其ノ有無、若シ其ノ患アル者ハ何色盲ト記載スヘシ

一呼吸器ハ理學的診斷ノ成績ヲ記載スヘシ

一神經系ハ中樞若ハ末梢神經ニ障害ノ有無ヲ記載スヘシ

一皮膚ハ主トシテ傳染症皮膚病ノ有無ヲ記載スヘシ若シ顔面等ニ現ハレタル皮膚病アルトキハ之ヲモ記載スヘシ

一言語ハ明朗、吃、嚥聲等ヲ記載スヘシ

一既往現在ノ疾病又ハ畸形ハ腦病、肺病、肋膜炎、脚氣等ノ曾患、肺病、心臟病、胃腸病等ノ現在及顯著ナル畸形ヲ記載スヘシ

〇縣立學校長並ニ縣立圖書館長職務章程

(明治卅九年二月 秋田縣訓令中第五號)

第一條 左記各款中第一款ハ知事ニ内申シ第二款ハ知事ノ認可ヲ受ケ第三款ハ專決施行ノ後知事ニ開申スヘシ

第一款

第一項 職員ノ進退賞罰ニ關スル事

第二項 諸規則制定又ハ改正ノ件

第三項 校長館長職員出張ノ件

第二款

第一項 細則手續等規程又ハ改正ノ件

第二項 所屬財産及重要物品貸付ノ件

第三項 臨時休業ノ件但急速ヲ要スル場合ハ第三款ノ例ニ依ル

第四項 修學旅行ヲ爲サシムル件

第三款

第一項 不用品農作物及製作等品賣却ノ件

第二項 職員ノ父母病氣看護、歸省、慕參、養痾願、及除服其他私事ノ賜假等ニ關スル件

第三項 雜給支辨ニカ、ル雇員採用及解雇ノ件

各項中特ニ規程アルモノハ其ノ規程ニ據リ處分スヘシ

第二條 前條ニ定ムル外成規定例ナキ事項ハ其輕重ニ從ヒ前條各款ノ例ニ據リ處分スヘシ

第三條 學校長及館長ニ於テ事故アルトキハ學校長ハ正教員中ニツキ館長ハ職員ヲシテ代理セシムルコトヲ得

附則

第四條 明治三十二年三月秋田縣訓令甲第三百三十號縣立學校長職務章程ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第四編 中學校及高等女學校

五四九

第四編 中學校及高等女學校

五五〇

○公立學校職員俸給令

(明治三十六年三月) 勅令第六十六號

- 第一條 本令ニ於テ職員ト稱スルハ公立ノ專門學校、師範學校、中學校、高等女學校及實業學校ノ職員ニシテ奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ヲ謂フ
- 第二條 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル專門學校及實業專門學校ノ職員ノ年俸ハ第一號表ニ依ル
- 第三條 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル師範學校、中學校、高等女學校及實業學校ノ職員ノ年俸ハ第二號表ニ依ル
- 第四條 判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ月俸ハ第三號表ニ依ル
- 第五條 官吏ニシテ在官ノ備職員ニ任セラレタル者ノ俸給ハ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得
- 第六條 一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ特ニ功勞アル職員ニハ本俸三分ノ一以下ノ加俸ヲ給スルコトヲ得
- 第七條 教員ニシテ合監、主事ヲ兼ヌル者ニハ相當ノ加俸ヲ給スルコトヲ得
- 第八條 教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應シ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得
- 第九條 二校以上ノ職員ヲ兼ヌル者ニハ其ノ俸給ヲ分割シテ關係學校ノ經費中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得
- 第十條 陸軍給與令又ハ海軍軍人俸給令ニ依リ俸給ヲ受クル職員ニハ其ノ間俸給ヲ支給セス但シ其ノ俸給額職員ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得
- 第十一條 俸給ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ増給スルコトヲ得但シ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ年俸五百圓以下ノ者及判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ月俸三十五圓以下ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

- 第十二條 名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ轉任スル場合ニ於テ支給スル俸給ハ前職ノ俸給額ニ相當スル俸給以下トス若シ相當額ナキトキハ其ノ最モ近キ上級ノ俸給以下トス但シ前職等級在職一年ヲ除エタル者ニ在リテハ一級ヲ進ムルコトヲ得
- 前項ノ規定ハ年俸六百圓以下又ハ月俸四十圓以下ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス
- 第十三條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス
- 前項ノ場合ニ於テ其ノ前職等級在職一年ヲ除エタル者ハ前職ノ等級ニ一級ヲ進ムルコトヲ得
- 前二項ノ規定ハ年俸六百圓以下又ハ月俸四十圓以下ノ俸給ヲ支給スル場合ニハ之ヲ適用セス
- 退職後一年以内ニ名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ任セララルル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス
- 第十四條 前三條ノ俸給額ニハ加俸ヲ算入セス
- 第十五條 休職者ニハ俸給ヲ支給セス但シ戰時若ハ事變ニ際シ召集セラレタルカ爲休職トナリタル場合ニハ俸給ノ一部、其ノ他特別ノ事情アル場合ニハ其ノ三分ノ一以下ヲ給スルコトヲ得
- 第十六條 特別ノ事情ニ依リ第十一條乃至第十三條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ地方長官ハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得
- 第十七條 高等官官等俸給令第十三條乃至第十八條ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ニ關シ判任官俸給令第五條及第六條ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ニ關シ之ヲ準用ス
- 第十八條 俸給支給ニ關スル細則ハ地方長官之ヲ定ム

附則

第四編 中學校及高等女學校

五五一

第四編 中學校及高等女學校

第十九條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第二十條 本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級俸ヲ受ク
 現ニ本令ニ規定スル俸給額ニ相當セサル俸給ヲ受クル者ハ當分ノ内現在ノ儘支給スルコトヲ得但シ其
 ノ者ノ取扱ニ關シテハ其ノ俸給ニ最モ近キ上級ノ俸給ヲ受クルモノト看做ス

第一號表

舍 監	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
	三千圓	二千五百圓	二千圓	二千圓	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓
教 諭	二千五百圓	二千圓	二千圓	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓
學 校 長	三千圓	二千五百圓	二千圓	二千圓	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓
含 監								千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓

第二號表

教 諭	二千圓	一千八百圓	一千六百圓	千五百圓	千四百圓	千三百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓	四百圓
學 校 長	二千圓	一千八百圓	一千六百圓	千五百圓	千四百圓	千三百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓	四百圓
一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級	

第三號表 教諭ニシテ十三級俸又ハ十四級俸ヲ給スル者ハ女子ニシテ教諭タル者ニ限ル

高等女學校	助教諭	五十四圓	四十四圓	三十三圓	二十二圓	二十圓	十七圓	十五圓						
	舍 監	五十四圓	四十四圓	三十三圓	二十二圓	二十圓	十七圓	十五圓						
	書 記	五十四圓	四十四圓	三十三圓	二十二圓	二十圓	十七圓	十五圓						
	學 校 長	七十七圓	六十六圓	五十五圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓					
師範學校	助教諭	五十四圓	四十四圓	三十三圓	二十二圓	二十圓	十七圓	十五圓						
	舍 監	五十四圓	四十四圓	三十三圓	二十二圓	二十圓	十七圓	十五圓						
	書 記	五十四圓	四十四圓	三十三圓	二十二圓	二十圓	十七圓	十五圓						
	學 校 長	七十七圓	六十六圓	五十五圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓					
專門學校、 實業專門學校	助教諭	七十七圓	六十六圓	五十五圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓					
	舍 監	七十七圓	六十六圓	五十五圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓					
	書 記	七十七圓	六十六圓	五十五圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓					
	學 校 長	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓	四百圓	三百圓	二百圓					

第四編 中學校及高等女學校

第四編 中學校及高等女學校

實業學校 校ヲ除ク	助教諭		訓導		舍監		書記	
	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
	五十四圓	五十四圓	五十三圓	五十三圓	五十二圓	五十二圓	五十三圓	五十三圓
	五十四圓	五十四圓	五十三圓	五十三圓	五十二圓	五十二圓	五十三圓	五十三圓
	五十四圓	五十四圓	五十三圓	五十三圓	五十二圓	五十二圓	五十三圓	五十三圓
	五十四圓	五十四圓	五十三圓	五十三圓	五十二圓	五十二圓	五十三圓	五十三圓
	五十四圓	五十四圓	五十三圓	五十三圓	五十二圓	五十二圓	五十三圓	五十三圓
	五十四圓	五十四圓	五十三圓	五十三圓	五十二圓	五十二圓	五十三圓	五十三圓
	五十四圓	五十四圓	五十三圓	五十三圓	五十二圓	五十二圓	五十三圓	五十三圓
	五十四圓	五十四圓	五十三圓	五十三圓	五十二圓	五十二圓	五十三圓	五十三圓
	五十四圓	五十四圓	五十三圓	五十三圓	五十二圓	五十二圓	五十三圓	五十三圓

校長又ハ教諭ニシテ十一級俸ヲ給スル者ハ女子ニシテ教諭タル者ニ限ル

○縣立學校及圖書庫職員旅費支給額

(明治三十三年三月 秋田縣訓令第六十八號)

宿泊	一日	車馬賃	一日	旅車賃	一日	旅船賃	一日
一、二〇〇	〇、八〇〇	〇、一七〇	〇、〇四〇	〇、〇五〇	〇、〇三〇	〇、〇四〇	〇、〇四〇
〇、八〇〇	〇、四〇〇	〇、一二〇	〇、〇三〇	〇、〇四〇	〇、〇三〇	〇、〇四〇	〇、〇四〇

管外旅費及赴任旅費ハ凡テ内國旅費規則ニ據ル
 參考 判任待遇者ニアラサル者ノ旅費ハ明治三十年内務省令第二十八號ニ依ル

旅車賃	一日	旅船賃	一日	車馬賃	一日	宿泊料	一日	日當	一日	食卓料	一日
金三錢	金三錢	金三錢	金三錢	金拾錢	金七拾錢	金三拾錢	金五拾錢				

○公立學校職員俸給支給細則

(明治卅六年五月 秋田縣令第三十九號)

第一條 公立學校職員ノ俸給ハ毎月二十一日ニ於テ之ヲ支給ス但休日ニ當ルトキハ繰下ケトス

第二條 休職退職及死亡ノトキハ當月分ノ俸給全額ヲ其際支給ス

缺勤ニヨリ減給ノ者前項ノ事故アルトキハ其ノ減給額ニ相當スル其ノ月分ノ俸給ヲ支給ス

休職退職者ニシテ殘務整理ヲ命セラレタルモノ其整理翌月以降ニ涉リ全月分ヲ支給スルモノハ第一條ノ定日ニ依ル但最後ノ月ハ日割ヲ以テ整理終了ノ日迄其際支給ス

第三條 戰時若ハ事變ニ際シ召集セラレタルカ爲メ休職トナリタル者ニシテ陸軍給與令及海軍軍人俸給令ニ依リ受クル俸給額休職トナリタル當時ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ノ二分ノ一ニ相當スル俸給額ヲ休職トナリタル翌月ヨリ召集解除トナリタル月マテ支給ス

前項休職給ノ圓位未滿ハ四捨五入ノ法ニ依ル

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ支給ス

一 懲戒ニ依リ免職ニ處セラレタル者

二 免許狀機奪又ハ免許狀ノ失効ニ依リ教員ノ職ヲ免セラレタル者

第五條 他ニ轉任シタル者ニハ日割計算ヲ以テ發令ノ當日迄ノ俸給ヲ其ノ際支給ス

俸給支給定日後ニ於テ他ニ轉任シタル者ニハ過渡ノ俸給ハ其ノ際之ヲ還納セム

第六條 他ヨリ轉任シ來リタル者ニハ發令ノ翌日ヨリ日割計算ヲ以テ當月分ノ俸給ヲ支給ス

第四編 中學校及高等女學校

五五五

第四編 中學校及高等女學校

俸給支給定日後ニ於テ他ヨリ轉任シ來リタル者ノ俸給ハ其際之ヲ支給ス

第七條 特旨賜暇忌引及職務ノ爲ノ受ケタル傷病ニ因ル缺勤ハ病氣若クハ私事故障ト連續スルモ減給トナルベキ缺勤日數ニ算入セス

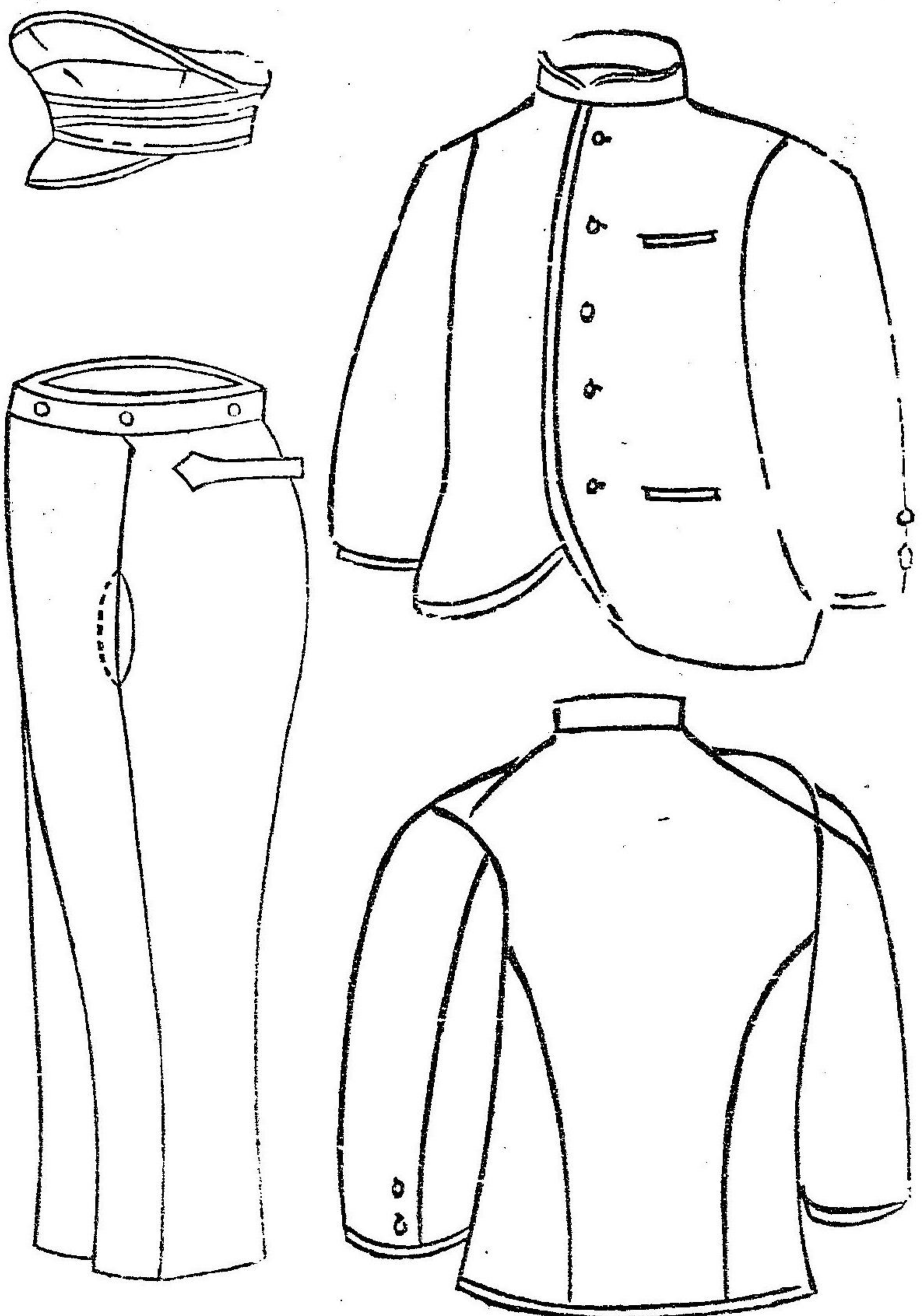
病氣ト私事ノ故障トハ相連續スルモ之ヲ通算セス

第八條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツルモノトス
日割計算ハ其月ノ現日數ニ依ル

○職員服制

(明治三十四年三月
秋田縣訓令甲第二十四號)

帽	袴		衣		
	色	及地質	色	及地質	
黑 羅 紗	色 及 地 質	夏 白 地 適 宜	冬 黑 若 ク ハ 紺 羅 紗 又 ハ セ ル	夏 同 上	冬 黑 若 ク ハ 紺 羅 紗 又 ハ セ ル
		夏 白 地 適 宜	冬 黑 若 ク ハ 紺 羅 紗 又 ハ セ ル	夏 同 上	冬 黑 若 ク ハ 紺 羅 紗 又 ハ セ ル
黑 革 如 圖	眼 庇 願 紐 形 狀	適 宜	如 圖	黑 色 角 製	如 圖
		適 宜	如 圖	黑 色 角 製	如 圖
黑 革 如 圖	眼 庇 願 紐 形 狀	適 宜	如 圖	黑 色 角 製	如 圖
		適 宜	如 圖	黑 色 角 製	如 圖



第四編 中學校及高等女學校

第四編 中學校及高等女學校

五六〇

第四條 基本財産ハ其ノ元資ヨリ生スル收入及各其ノ學校ニ屬スル收入ヲ以テ經常費ヲ支辨シ得ルニ至ルマテ是ヲ積立ル者トス

第五條 基本財産ハ公債証書其ノ他ノ有價証券ニ換ヘ又ハ確實ナル銀行ニ利付預ケト爲シ増殖ヲ圖ルモノトス

但シ縣經濟上必要アルトキハ利付又ハ無利子ヲ以テ一般歲計ニ繰替支辨スルコトヲ得

第六條 本基財産管理ノ爲メ要スル費用ハ縣費ヲ以テ是ヲ支辨ス

第七條 各學校基本財産ノ歲入歲出ハ毎年豫算ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 本法ハ明治三十六年度ヨリ施行ス

第五編 師範教育

第一章 通則

○師範教育令

(明治三十年十月
勅令第三百四十六號)

第一條 高等師範學校ハ師範學校中學校及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

女子高等師範學校ハ師範學校女子部及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

師範學校ハ小學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

前三項ニ記載シタル學校ニ於テハ順長信愛威重ノ徳性ヲ涵養スルコトヲ務ムベシ

第二條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ東京ニ各一校ヲ設置シ師範學校ハ北海道及各府縣ニ各一校若ハ數校ヲ設置ス

第三條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ師範學校ハ地方長官ノ管理ニ屬ス

第四條 師範學校ノ經費(北海道及沖繩縣ヲ除ク)ハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス

第五條 師範學校ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校生徒ノ募集及卒業後ノ服務ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第七條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校生徒ノ學費ハ文部大臣ノ定ムル所ニヨリ其ノ學校ヨリ之ヲ支給スヘシ

前項ノ外文部大臣ノ定ムル所ニ依リ私費生ヲ置クコトヲ得

第八條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校ノ學科及其ノ程度並教科書ハ文部大臣之ヲ定ム

第五編 師範教育

五六一

第五編 師範教育

五六二

第九條 師範學校ニ豫備科小學校教員講習科及幼稚園保姆講習科ヲ置クコトヲ得

附則

第十條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

明治十九年勅令第十三號師範學校令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十一條 他ノ法令中尋常師範學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然師範學校ト改正セラレタルモノト看倣ス

○師範學校規程

(明治四十年四月 文部省令第十二號)

第一章 生徒教養ノ要旨

- 第一條 師範學校ニ於テハ師範教育令ノ旨趣ニ基キ特ニ左ノ事項ニ注意シテ其ノ生徒ヲ教養スヘシ
 - 一 忠君愛國ノ志氣ニ富ムハ教員タル者ニ在リテハ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素忠孝ノ大義ヲ明ニシ國民タルノ志操ヲ振起セシメンコトヲ要ス
 - 二 精神ヲ鍛鍊シ德操ヲ磨勵スルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素意ヲ此ニ用ヒシメンコトヲ要ス
 - 三 規律ヲ守リ秩序ヲ保チ師表タルノ威儀ヲ具フルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素長上ノ訓令訓誨ニ服従シ起居言動ヲ正シクセシメンコトヲ要ス
 - 五 教授ハ教員タルヘキ者ニ適切ニシテ小學校及小學校令施行規則ノ旨趣ニ副ハンコトヲ旨トスヘシ
 - 五 教授ハ常ニ其ノ方法ニ注意シ生徒ヲシテ業ヲ受クル際教授ノ方法ヲ會得セシメンコトヲ務ムヘシ
 - 六 學習ノ方法ハ偏ニ教授ノミニ憑ラシムヘキモノニアラス故ニ生徒ヲシテ常ニ自ラ學識ヲ進メ技藝

ヲ研クノ習慣ヲ養ハシメンコトヲ務ムヘシ

第二章 豫備科及本科

第一節 學科及其ノ程度

- 第二條 本科ヲ分チテ第一部及第二部トス但シ第二部ハ土地ノ情況ニ依リ之ヲ設ケサルコトヲ得
- 第三條 豫備科ハ本科第一部ニ入學セントスル者ニ必要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス
- 第四條 豫備科ノ修業年限ハ一箇年トス
 - 本科第一部ノ修業年限ハ四箇年トス
 - 本科等二部修業年限ハ男生徒ニ就キテハ一箇年、女生徒ニ就キテハ二箇年又ハ一箇年トス
- 第五條 豫備科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、數學、習字、圖畫、音樂、體操トシ女生徒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ
- 第六條 本科第一部ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、英語、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、法制及經濟、習字、圖畫、手工、音樂、體操トス但シ英語ハ隨意科目トス
- 前項學科目ノ外農業、商業ノ一科目又ハ二科目ヲ加フ其ノ二科目ヲ加ヘタル場合ニ於テハ生徒ニハ一科目ヲ學習セシムヘシ
- 第七條 本科第一部ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、家事、裁縫、習字、圖畫、手工、音樂、體操トス
- 前項科目ノ外隨意科目トシテ英語ヲ加フルコトヲ得
- 第八條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨シ師表タルノ威儀ヲ具ヘシメ且小學校ニ於ケル修身ノ教授ニ必要ナル知識ヲ授ケ其ノ教授ノ方法ヲ會得セシムル

第五編 師範教育

五六三

ヲ以テ要旨トス

修身ハ初ハ嘉言善行等ニ徴シ生徒日常ノ行狀ニ因ミテ道德ノ要領ヲ教示シ又作法ヲ授ケ進ミテハ稍々秩序ヲ整ヘテ自己、家族、社會及國家ニ對スル責務ヲ知ラシメ倫理學ノ一斑及教授法ヲ授クヘシ

第九條 教育ハ教育ニ關スル一般ノ知識ヲ得シメ特ニ小學校教育ノ旨趣方法ヲ詳ニシ教育ノ技能ヲ習得セシメ兼テ教育者タルノ精神ヲ養フヲ以テ要旨トス

教育ハ心理及論理ノ大要ヨリ始メ教育ノ理論、教授法及保育法ノ概説、近世教育史ノ大要、教育史制度、學校管理法、學校衛生ヲ授ケ又教育實習ヲ課スヘシ

前項ノ外女生徒ニ就キテハ便宜保育實習ヲ課スヘシ

第十條 國語及漢文ハ普通ノ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表出スルノ能ヲ得シメ小學校ニ於ケル國語教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ文學上ノ趣味ヲ養ヒ智徳ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ現時ノ國文ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ノ國文ニ及ホシ又言語ノ使用ニ練熟セシメ實用簡易ナル文ヲ作ラシメ文法ノ大要ヲ授ケ又平易ナル漢文ヲ講讀セシメ且教授法ヲ授クヘシ

第十一條 英語ハ普通ノ英語ヲ了解スルノ能ヲ得シメ知識ノ増進ニ資シ兼テ小學校ニ於ケル英語教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

英語ハ發音、綴字、讀方、譯解、書取、會話、作文、習字及文法ノ大要ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第十二條 歴史ハ歷史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷、邦國盛衰ノ由ル所ヲ理會セシメ特ニ我國ノ發達ヲ詳ニシ國體ノ特異ナル所以ヲ明ニシ且小學校ニ於ケル日本歴史教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

歴史ハ日本歴史及外國歴史トシ日本歴史ニ於テハ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ重要ナル事蹟ヲ授ケ外國歴史ニ於テハ世界大勢ノ變遷ニ關スル事蹟ヲ主トシ著名ナル諸國ノ興亡、人文ノ發達及我國ノ文化ニ關係アル事蹟ノ大要ヲ知ラシメ且教授法ヲ授クヘシ

第十三條 地理ハ地球ノ形狀、運動並ニ地球表面及人類生活ノ狀態ヲ理會セシメ我國及諸外國ノ國勢ヲ知ラシメ且小學校ニ於ケル地理教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ世界地理ノ概畧及日本地理並ニ我國ト重要ノ關係アル諸外國ノ地理ノ大要ヲ知ラシメ又地文ノ一斑及人文地理ノ概説ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第十四條 數學ハ數量ノ關係ヲ明ニシ計算ニ習熟セシメ且小學校ニ於ケル算術教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ生活上必要ナル知識ヲ與ヘ思考ノ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ算術、代數及幾何ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第十五條 博物ハ天然物ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ相互及人生ニ對スル關係ヲ理會セシメ且小學校ニ於ケル理科教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

博物ハ重要ナル植物、動物、礦物ニ關スル一般ノ知識、標本ノ採集調製法並ニ人體ノ構造、生理及衛生ノ大要ヲ授ケ又小學校ニ於ケル教授ニ必要ナル實驗ヲ課シ且教授法ヲ授クヘシ

第十六條 物理及化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則並ニ人生ニ對スル關係ヲ理會セシメ且小學校ニ於ケル理科教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

物理及化學ハ重要ナル物理上及化學上ノ現象及定律、器械ノ構造及作用、元素及化合物ニ關スル知識ヲ授ケ又小學校ニ於ケル教授ニ必要ナル實驗ヲ課シ且教授法ヲ授クヘシ

第十七條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民ノ生活上必要ナル知識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常生活ニ適切ナル法制上及經濟上ノ事項ヲ授クヘシ
第十八條 家事ハ家事整理ニ必要ナル知識ヲ得シメ兼テ勤勉、節儉、秩序、周密、清潔ヲ尙フ念ヲ養フヲ以テ要旨トス

家事ハ衣食住、養老、育兒、看病、家計簿記其ノ他一家ノ整理經濟等ニ關スル事項ヲ授クヘシ
第十九條 裁縫ハ裁縫ニ關スル知識技能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル裁縫教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

裁縫ハ普通ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方及繕ヒ方等ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ
第二十條 習字ハ文字ヲ端正且敏速ニ書寫スルノ能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル國語書キ方教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

習字ハ姿勢及執筆ヲ正シ運筆ノ方法ヲ授ケ楷書、行書ヲ主トシ草書及假名ニ及ホシ兼テ細字ノ速寫及黑板上ニ於ケル練習ヲ爲サシメ且教授法ヲ授クヘシ

第二十一條 圖畫ハ物體ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル圖畫教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ意匠ヲ練リ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス
圖畫ハ寫生畫ヲ主トシ臨畫及考案畫ヲ加ヘ授ケ黑板上ニ於ケル練習ヲ爲サシメ又幾何畫ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第二十二條 手工ハ物體ニ關スル觀念ヲ正確ナラシメ簡易ナル物品ヲ製作スルノ技能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル手工教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ工作ノ趣味ヲ長シ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

手工ハ天然物ノ模造、日用器具ノ製作等諸種ノ細工ヲ授ケ又材料ノ性質、工具ノ保存法等ヲ知ラシメ且教授法ヲ授クヘシ

第二十三條 音樂ハ音樂ニ關スル知識技能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル唱歌教授ノ方法ヲ會得セシメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス
音樂ハ單音唱歌、複音唱歌及樂器使用法ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第二十四條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ姿勢ヲ端正ニシ身體ヲ強健ニシ且其ノ動作ヲ機敏耐久ナラシメ又精神ヲ快活剛毅ナラシメ且小學校ニ於ケル體操ノ教授ニ必要ナル知識技能ヲ得シメ其ノ教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ男生徒ニ就キテハ普通體操、遊戲、兵式體操トシ且教授法ヲ授ケ女生徒ニ就キテハ普通體操、遊戲トシ且教授法ヲ授クヘシ

第二十五條 農業ハ農業ニ關スル知識技能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル農業教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ農業ノ趣味ヲ長シ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
農業ハ土壤、水利、肥料、農具、耕耘、栽培、森林、養蠶、養畜、農産製造、農業經濟等ニ關スル事項ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

土地ノ狀況ニ依リ水産ニ關スル事項ヲ加ヘ授クヘシ
第二十六條 商業ハ商業ニ關スル知識ヲ得シメ且小學校ニ於ケル商業教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス
商業ハ商事要項、商業簿記、商業算術、商業地理及其ノ地方ニ於ケル重要ナル商品ノ大要ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第五編 師範教育

五六八

第二十七條 豫備科及本科第一部ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ男生徒ニ就キテハ甲號表、女生徒ニ就キテハ乙號表ニ依ルヘシ但シ必要アルトキハ學校長ハ每週教授時數ノ總計及各學科目ノ一學年間ニ於ケル教授時數ノ總計ヲ増減セサル範圍内ニ於テ之ヲ變更スルコトヲ得

甲號表

學科目	豫備科				本科			
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	二	二	一	一	二	二	一	一
國語及漢文	一〇	六	四	三	四	三	三	二
英語			三	三	三	三	三	二
歷史			二	二	二	二	二	二
地理			二	二	二	二	一	二
數學	六	四	三	三	三	三	三	二
博物		三	二	二	一	一	一	二
物理及化學			二	二	三	一	一	四

乙號表

學科目	豫備科				本科			
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
法制及經濟								二
習字	三	二	一	一				
圖畫	二	三	三	三				三
手工								
音樂	二	二	二	二				一
體操	六	五	五	五				三
農業及商業			二	二				二
計	三一	三四	三四	三四	三四	三四	三四	三四

第五編 師範教育

五六九

英	體	音	手	圖	習	裁	家	物理及化學	博	數	地	歷
語	操	樂	工	畫	字	縫	事	學	物	學	理	史
	四	二		二	三	四				五		
(三)	三	二		三	二	四			二	三	二	二
(三)	三	二		三	一	四		二	二	三	二	二
(三)	三	二		三	一	四	二	二	一	二	一	二
(二)	二	一		二		三	二	四		二		

計

三二一

三二一

(三四)

三二一

(三四)

三二一

(三四)

三二一

(三四)

第二十八條 本科第二部ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、數學、博物、物理及化學、法制及經濟、圖畫、手工、音樂、體操トス

第二十九條 本科第二部ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、數學、博物、物理及化學、裁縫、圖畫、手工、音樂、體操トス但シ修業年限ヲ二箇年ト爲シタル場合ニテハ歴史、地理ヲ加フ

第三十條 修身ハ第八條ニ準シ道徳ノ要領ヲ教示シ又小學校ニ於ケル修身ノ教授ニ必要ナル知識或ハ作法ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第三十一條 前項ノ外女生徒ニ就キテハ現行法制上ノ事項ノ大要ヲ授クヘシ

第三十二條 圖語及漢文ハ第十條ニ準シ現時ノ國文ヲ主トシ講讀セシメ又言語ノ使用ニ練熟セシメ實用簡易ナル文ヲ作ラシメ又平易ナル漢文ヲ讀講セシメ且教授法ヲ授クヘシ

第三十三條 歴史、地理ハ第十二條及第十三條ニ準シ既得ノ知識ヲ補習セシメ且教授法ヲ授クヘシ

第三十四條 數學ハ第十四條ニ準シ算術ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第三十五條 前項ノ外男生徒ニ就キテハ簿記ノ大要ヲ授ケ女生徒ニ就キテハ便宜代數、幾何ヲ授クヘシ

第五編 師範教育

第五編 師範教育

五七二

法ヲ授ケ又既得ノ知識ノ補習セシメ且教授法ヲ授クヘシ

第三十六條 物理及化學ハ第十六條ニ準シ主トシテ小學校ニ於ケル教授ニ必要ナル實驗ヲ課シ又既得ノ知識ヲ補習セシメ且教授法ヲ授クヘシ

第三十七條 裁縫ハ第十九條ニ準シ既得ノ知識技能ヲ補習セシメ且教授法ヲ授クヘシ

第三十八條 圖書ハ第二十一條ニ準シ既得ノ知識技能ヲ補習セシメ又黑板上ニ於ケル練習ヲ爲セシメ且教授法ヲ授クヘシ

第三十九條 英語、法制及經濟、手工、音樂、體操ハ第十一條、第十七條、第二十二條乃至第二十四條ニ準シ之ヲ授クヘシ

第四十條 本科第二部ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ男生徒ニ就キテハ甲號表、女生徒ニ就キテハ修業年限ニ依リ乙號表又ハ丙號表ニ依ルヘシ但シ學校長ハ第二十七條但書ニ準シ變更スルコトヲ得

甲號表

學 科 目	年	
	第一	學 年
數		二
國語及漢文		二
教	教育實習	一五
修		二

乙號表

學 科 目	年		
	第一	第二	學 年
博			三
物理及化學			二
法制及經濟			三
圖			二
手			三
音			二
體			三
計			三四

第五編 師範教育

五七三

學 科 目	年		
	第一	第二	學 年
修			二
教		教育實習	三一
國語及漢文			三